

2022年3月
関西大学審査学位論文

依頼表現のバリエーションに関する
対照社会言語学的研究

関西大学大学院
文学研究科

辻岡咲子

論文要旨

本稿は、現代における依頼表現の使用実態を調査・分析し、主に「してもらって(も)いいですか」のような許可求め表現を用いた形式(以下、モラウ系許可求め類の表現)の使用実態、及び依頼表現のバリエーションの多様化の方向性を明らかにするものである。論文は、1章から7章で構成されており、以下に概要を示す。

第1章は、研究の目的と枠組みを示している。現代における依頼表現は、授受動詞の補助動詞用法を用いた依頼表現のバリエーションが多様に存在している。これら依頼表現のバリエーションを整理し、本稿で特に着目するモラウ系許可求め類の表現に関する先行研究をまとめた。この表現は、若年層において許容度が高く、既存の依頼表現を婉曲的にしたもので丁寧な表現とされているが、一方で、高年層からは回りくどい表現として捉えられている表現でもある。本稿では、このような新しい依頼表現が出現し、使用が拡大していく要因を探るため、社会言語学的観点と社会語用論の観点からその使用実態の調査を行い、依頼表現のバリエーションが多様化していく方向性に関して考察するため、日本語と同様に授受動詞の補助動詞用法を用いた依頼表現のバリエーションが多様に存在する韓国語の依頼表現を対照する対照社会言語学の観点を取り入れる。これらに関する先行研究を示した。

第2章は、モラウ系許可求め類の表現の使用動態を見るため、若年層と中高年層に選択式アンケート調査を行った。その結果、モラウ系許可求め類の表現は、若年層で許容度が高く、両世代とも初対面の目上の人物に対して負担度の大きい依頼をする場面で許容度が高くなるという共通点を明らかにした。若年層においては、「してもらって(も)いいですか」を待遇表現の選択基準が揺れやすい相手に対して選択していることから、中高年層の使用範囲よりも若年層の方がより使用範囲が広いということを指摘した。

第3章は、モラウ系許可求め類の表現が初対面の目上の人物に使用されやすいという結果をふまえ、使用の許容度が高い若年層を対象に、疎の関係の人物に対する依頼場面を複数設定したアンケート調査の結果を分析した。この調査から、モラウ系許可求め類の表現は、人間関係の継続性がない場面において許容度が高くなり、特に人間関係の継続性がない公の場所で特別な役割関係の生じない場面においての使用が妥当とされることが明らかになった。

第4章は、国会会議録の資料からモラウ系肯定疑問類「していただけますか」、モラウ系否定疑問類「していただけませんか」、モラウ系許可求め類の表現に前接する動詞を分析した。その結果、モラウ系許可求め類の表現は、「教えていただいて(も)よろしいですか/でしょうか」のような会議特有の用例を含め、その場で(会議内で)依頼内容が遂行され、完了する場合に使用されるということを明らかにした。

第5章は、国会会議録を質問談話として捉え、談話分析を行い、モラウ系肯定疑問類、

モラウ系否定疑問類、モラウ系許可求め類の表現が、談話を展開させるうえで、どの位置に現れ、どのような働きをしているのかを分析した。その結果、モラウ系肯定疑問類は、談話全体、あるいは、新しい話題の序盤に導入として表れ、議論の前提となる情報を聞き出す表現として用いられ、モラウ系否定疑問類の表現は、議論の中盤に相手の見解や情報の不透明な点を回答者本人から聞き出す場合に現れ、モラウ系許可求め類の表現は、議論の中盤に自分の要望を述べる前に、要望を通すために有利な情報を得るため、一時的に別の人物に対して説明を要求する場合に用いられるということがわかった。

第6章は、日本語と韓国語の依頼表現を対照するため、先行研究をもとに依頼表現を体系的に整理した。そして、それらの使用実態を調査するため、若年層を対象にアンケート調査を行い、日本語ではモラウ系許可求め類の表現、韓国語では可能肯定疑問類の表現が、目上の人物に対して配慮する表現として使用されることを明らかにした。

第7章は、依頼表現のバリエーションの多様化の方向性について、どのような要因が働いているのかを日本語と韓国語の依頼表現を対照した。調査として、日韓における世代別の動態調査を行った結果と日本語と韓国語の学習者向けの教科書の用例調査から、実際の使用認識と規範的な依頼表現を示した。その結果、日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現は、使用実態としては多用される表現ではあるが、規範的な表現とされていないということがわかり、比較的新しく使われるようになった表現であることを明らかにした。このように、日本語では、モラウ系許可求め類、韓国語では可能肯定疑問類の表現が新しい依頼表現のバリエーションとして拡大しているが、その多様化の方向性は、文法的な制限だけでなく、運用される社会によって丁寧さの表し方に違いということ。「聞き手の私的領域」(鈴木 1989)の概念を用いて考察した。日本語の場合、相手の行動や「聞き手の私的領域」を言及しない表現を丁寧な表現だと捉えることがあるため、これに言及しない表現が拡張するが、韓国語は相手の行動や「聞き手の私的領域」を直接言及する表現が多様になる。よって、社会の違いによる丁寧さへの認識の違いは、「聞き手の私的領域」を言及するか否かによって、表現が多様化する方向性にも違いが表れるということが明らかになった。

以上から、モラウ系許可求め類の表現のような新しい依頼表現は、同じ相手でも、負担度の違いといった場面の違いによって使い分けられていたことから、新しい表現が出現する理由は、丁寧な表現を使おうとする話し手の意識に加え、場面に応じて、相手に気づかぬ配慮を示した表現を使い分けようとする意識も働いているからだと考える。

目次

はじめに	1
第1章 研究の枠組み	2
1. 本研究の目的.....	2
2. 研究の背景	2
2.1 社会言語学とは	2
2.2 語用論とは.....	3
2.3 社会語用論とは	3
2.4 対照言語学とは	4
2.5 対照社会言語学とは.....	4
2.6 日本語の待遇表現.....	5
2.7 日本語の授受動詞.....	6
2.8 日本語の待遇表現のバリエーション	7
3. 日本語の依頼表現について.....	10
3.1 依頼の定義.....	10
3.2 行為要求表現の変遷.....	11
3.3 許可求め表現の先行研究.....	13
4. 調査対象とする日本語の依頼表現.....	17
5. 日韓対照研究の枠組み	21
5.1 日本語と韓国語の待遇表現.....	22
5.2 日本語と韓国語の授受動詞.....	25
5.3 韓国語の待遇表現のバリエーション	26
5.4 調査対象とする韓国語の依頼表現.....	30
5.5 日本語と韓国語におけるポライトネスの対照.....	32
5.6 対人意識に関する日韓対照研究の先行研究	33
6. 本研究の意義.....	35
7. 本稿の構成	35
第2章 モラウ系許可求め類の表現の使用動態	37
1. はじめに	37
2. 先行研究.....	38
3. 調査概要及び調査結果	40
4. まとめと考察.....	45
第3章 疎の関係の人物に使用されるモラウ系許可求め類の表現.....	47
1. はじめに	47
2. 調査概要.....	47

3. 分析基準.....	49
4. 調査結果.....	51
4.1 記述式アンケートの結果.....	51
4.2 選択式アンケートの結果.....	52
4.3 総合的な分析.....	53
5. まとめ.....	54
第4章 国会会議録に見られるモラウ系許可求め類の表現の使用実態.....	56
1. はじめに.....	56
2. 先行研究.....	56
3. 構文の比較.....	56
3.1 経年的な全数調査.....	56
3.2 各構文における上接語の傾向.....	58
3.3 説明要求の場面以外の傾向.....	62
4. まとめ.....	66
第5章 質問場面に見られる依頼表現の談話分析.....	67
1. はじめに.....	67
2. 調査概要.....	67
3. 各構文の比較.....	73
3.1 モラウ系肯定疑問類の表現の用例.....	73
3.2 モラウ系否定疑問類の表現の用例.....	76
3.3 モラウ系許可求め類の表現の用例.....	77
4. まとめ.....	80
第6章 日韓における行為要求表現の運用の比較.....	81
1. はじめに.....	81
2. 先行研究.....	81
2.1 日本語と韓国語の待遇表現.....	81
2.2 日本語と韓国語の行為要求表現.....	83
2.3 日本語と韓国語の待遇表現の運用法.....	86
3. 日本語における調査.....	87
3.1 調査概要.....	87
3.2 調査結果.....	87
3.3 まとめ.....	89
4. 韓国語における調査.....	89
4.1 調査概要.....	89
4.2 調査結果.....	90
4.3 まとめ.....	91

5. 日韓における行為要求表現の運用の比較.....	91
6. おわりに.....	92
第7章 日韓における授受動詞による依頼表現のバリエーションの多様化の方向性.....	93
1. はじめに.....	93
2. 調査概要.....	93
3. 調査結果.....	97
3.1 日本語の結果.....	97
3.2 韓国語の結果.....	101
4. 日韓の語学教科書の分析.....	105
4.1 調査概要.....	105
4.2 日本語教科書の分析.....	107
4.3 韓国語教科書の分析.....	109
5. 日韓比較.....	110
6. まとめ.....	112
第8章 結論と今後の展望.....	114
1. 結論.....	114
2. 今後の展望.....	116
おわりに.....	117
参考文献・URL.....	119
資料編.....	123

はじめに

依頼場面で使用される表現は多様に存在するが、現代日本語における依頼の専用形式には、授受動詞を用いたものがある。授受動詞を用いた依頼表現には、様々なバリエーションがあり、命令形の「てくれ／ください」に加えて、肯定疑問文の「てくれる？／てくれますか／てくださいますか／てもらえる？／てもらえますか／ていただけますか」、否定疑問文の「てくれない？／てくれませんか／てくださいませんか／てもらえない？／てもらえませんか／ていただけませんか」などが存在するほか、近年では許可を求める形式の「てもらって(も)いいですか／ていただいて(も)いいですか」が依頼表現として使用されるようになってきている。本研究では、この依頼場面における許可求め表現の使用実態を調査するため、授受動詞を用いた依頼表現のバリエーションがどのように使い分けられているのかを分析する。

依頼場面における許可求め表現は、授受動詞「もらう」「いただく」に「て(も)いいですか」という許可求め表現が後接した表現で、依頼内容を遂行する人物が聞き手であることから、依頼表現として機能している。

文化審議会(2007)では、この表現に関して、「「取ってちょうだい。」「取ってください。」といった表現は、相手に直接働き掛けているものである。それに対して、「取ってもらってもいい(ですか)。」「という表現は、(自分が)取ってもらえるかどうかを尋ねる形に変わっているのである。そうすることで、相手に対して押し付けるような印象をなくし、相手への配慮を表そうとするのではないかと考えられる。(中略)「書いていただいてもよろしいですか。」も、「書いていただけますか。」という依頼の敬語表現と伝えたいことは同じ内容だと言えるが、相手に許可を求める表現に変えることで、より丁寧な言い方にしようとしたのだと考えられる。」と解説している。

しかし、この表現が丁寧とされる一方で、砂川(2005)が指摘するように「諾否についての選択の余地がない人物に対してどちらを選択するか尋ねる表現が使われているところにおかしいと感じる理由がある」と、この表現の使用になじみのない高年層からは否定的な印象を受けやすいとされる。

このように、依頼場面における許可求め表現は、その使用に関して否定的な意見が見られるなかで、依頼表現として使用され始める。本稿では、現代において、既存の表現があるにもかかわらず新しい依頼表現が出現したのはなぜなのかを考察する。

最後に、依頼場面における許可求め表現のように、配慮を必要とする場面で使用される新しい依頼表現が多様化していく方向性を明らかにするため、日本語と韓国語における依頼表現を比較する。

第1章 研究の枠組み

1. 本研究の目的

現代日本語における依頼表現は、多くのバリエーションが存在し、特に授受動詞の補助動詞用法を用いた依頼の形式が多様であり、近年では許可求め表現を用いた新しい依頼表現の使用が広まりつつある。本研究は、この新しい依頼の形式である許可求め表現が、どのような場面において使用が拡大しているのか、その使用実態を調査する。

依頼場面における許可求め表現のような、新しい依頼表現が生じる要因は、相手への配慮として丁寧な表現を使おうとする使用者の意識が関係していると思われる。また、この新しい依頼表現が生じる背景には、社会の変化に伴い、多様な人間関係とそこに生じる様々な配慮を必要とする依頼の各場面に適した表現を使い分けようとする話し手の意識が働いていると思われる。

この丁寧さの表し方は、ことばを運用する社会が異なると、その丁寧さの表し方も異なるため、言語構造上においてもその特徴が言語ごとに表れている。そのような丁寧さの表し方の差異から新しい依頼表現のバリエーションの広がり方にも差異が生じるということを知るため、本稿では、日本語の依頼表現のバリエーションと、日本語と同じように敬語体系が発達し、授受動詞を依頼表現に用いる韓国語の依頼表現とを対照し、日韓両言語の依頼表現のバリエーションの多様化の方向性を明らかにする。

2. 研究の背景

2.1 社会言語学とは

まず、本稿が表題に掲げる対照社会言語学的研究のアプローチの仕方として、社会言語学、語用論、社会語用論、対照言語学、対照社会言語学の方法論をどのように適用していくのかについて概観する。

『日本語学大辞典』によると、社会言語学は、「ことばを使用する人や共同体、あるいはことばが使用される場面など、社会との関連でことばを研究する言語学の下位分野の1つである。社会言語学が注目する言語現象には、大きくわけて2つがあり、それに応じて個々の下位分野が確立している。以下、話しことばを例にすれば、①性や年齢、社会階層、ネットワークなど、ことばの話し手をもつさまざまな社会的属性と相関することばの多様性(バリエーション)と、②会話の参加者が構成する最小の社会すなわち会話の場において展開される言語行動のありかたである」と説明されている。本研究は、多様に存在する依頼表現のバリエーションから、相手に応じた使い分けを調査する言語行動の研究として捉えることができる。また、本研究では、新しい依頼表現である許可求め表現に対する使用の認識を調査するため、分析の基準に上下関係や親疎関係、依頼の負担度を複合的に設定した依頼場面を用いて、世代別の使用動態の調査や、使用されやすい依頼場面から聞き手の属

性を分析する調査を行ったため、社会的属性と関わりのあることばの多様性を扱っているといえる。

2.2 語用論とは

本稿では、どのような場面において依頼場面における許可求め表現の使用が拡大しているのかを考察するため、語用論の観点を取り入れた分析を行う。語用論に関しては、『日本語学大辞典』によると、「発話の意味」を研究する言語学の一研究領域である」とあり、「発話の意味の確定には「文脈(context)」が大きく関与する。(中略)「発話時の状況」や「先行発話の内容」によって決定される」とあるように、話し手の意図する意味と聞き手の解釈する意味という観点にたった研究分野であり、ポライトネス、「直示(deixis)」や「指示(reference)」、談話分析・会話分析から言語の本質や人間の営みの本質を明らかにすることを目的とした研究などがある。

2.3 社会語用論とは

社会語用論は、滝浦(2016)では、「一般語用論の中で社会学との関わりの深い部分」である「社会語用論(socio-pragmatics)」(リーチ 1987: 15 [Leech1983: 11])は、とりわけ社会の中での人の言語的ふるまいを対象とするカテゴリーである」と述べている。また、渡辺・山下(2014)では、ドイツ語の社会語用論について、「ドイツ語が社会の中でどのように用いられ、ドイツ語にはどんな変異・変種があり、これらが社会にどんな影響を及ぼすのか」を研究することが「ドイツ語の社会語用論」であると言うことができようか」と述べている。

社会語用論による敬語の研究として、呉(2020)では、日本語の聞き手待遇表現の運用に関して、人間関係と場面の特徴が聞き手待遇表現の選択に関係する要因になっていることを述べ、丁寧語形式の規範的な使用からの意図的な逸脱が、発話状況の中においてどのような発話効果を持つのかを分析している。

依頼場面においては、依頼の意図を表す様々な形式が存在する。日本語の場合、授受動詞の補助動詞用法を用いた依頼専用の形式が多様になっているが、それらの形式を見ると「してくれ」「してください」のような命令形、「してくれますか/していただけますか」「してもらえますか/していただけますか」のような肯定疑問文、「してくれませんか/していただけますませんか」「してもらえませんか/していただけますませんか」のような否定疑問文のように、異なる構文によるバリエーションが豊富に存在し、それらが場面に合わせて使い分けられている。その使い分けを詳細に理解するためには、話し手や聞き手の属性だけでなく、談話分析を用いた文脈(context)による使い分けに関しても調査が必要であると考えられる。本研究では、依頼場面における許可求め表現が出現しやすい国会会議録を質問談話として捉え、依頼表現の使い分けを談話分析の手法を用いて、その談話展開上における機能を明らかにする。

また、依頼場面における許可求め表現は、社会の中でどのような相手に対してどのように用いられ、社会とどのような関わりを持つのか、ということ考察するため、国会会議録という、話し手と聞き手の社会的属性が明確な資料を用いる。これを一つの社会として捉え、依頼場面における許可求め表現がどのように用いられているのかを調査する。

2.4 対照言語学とは

次に対照言語学について見ていく。『日本語学大辞典』によると、対照言語学は、「複数(典型的には2つ)の言語を比較対照することにより、各言語の特徴を明らかにし、言語の普遍性と個別性について考えるための視点を見出す研究である。」また、「対照研究には、①言語間の類似と相違を共通の枠組みのもとで分析・整理することに重点を置く「分析型」と、②言語間の類似と相違の背景にある一般的な原理や傾向性を見出すことに重点を置く「統合型」がある。」とある。

本稿では、日本語における授受動詞の補助動詞用法による依頼表現のバリエーションが多様になっていく方向性を明らかにするため、日本語と同様に授受動詞の補助動詞用法を依頼表現に用いる韓国語の依頼表現のバリエーションを対照する。その際、日韓の待遇表現や依頼表現を構成する言語構造の特徴を整理する。また、日韓において、新しい依頼表現のバリエーションの使用が広がる時の方向性を示すため、ポライトネス理論を用いた丁寧さの表し方の違いという観点から考察する。

2.5 対照社会言語学とは

対照社会言語学とは、荻野(1989)では、対照社会言語学について、「社会言語学の研究の諸分野のうち、外国(語)との対照研究を指すものである。」と述べ、社会言語学で扱う分野である言語行動を日韓で対照している。

対照社会言語学に関する研究としては、山下(2010)、荻野(1989)、荻野・金・梅田・羅・盧(1990)(以下、荻野他(1990))があげられる。山下(2010)は、社会言語学の観点からの呼称表現研究とポライトネス研究を紹介し、日本語とドイツ語における対照研究の問題点を示している。また、荻野(1989)、荻野他(1990)は、言語行動を調査対象に、日韓の敬語用法の対照社会言語学的研究を行っている。本稿では、この荻野(1989)、荻野他(1990)の対照社会言語学の観点にならい、依頼場面で使用される表現形式を日韓で対照する。

よって、本研究では、まず、対照言語学の研究手法から日韓の待遇表現や依頼表現を構成する言語構造の特徴を共通の枠組みのもとで分析・整理する。次に、社会言語学の研究手法を用いて多様に存在する依頼表現のバリエーションから相手に応じた使い分けを調査する。最後に、その調査結果を日韓で対照する対照社会言語学の手法を用いる。

以上、社会言語学、語用論、社会語用論、対照言語学、対照社会言語学について見てきた。本稿における研究のアプローチとしては、社会言語学的観点から新しい依頼表現である許可求め表現の使用実態を調査し、語用論的アプローチから、その使用範囲の拡大と他

の依頼表現との機能の違いをより詳細することを目的とする。その結果から、新しい依頼表現は、社会の変化の中で、多様化する人間関係や依頼場面に合わせて、表現を使い分けるために新しい表現を作り出していくことを述べる。そして、新しい依頼表現は、使用する社会が異なる場合でも、その社会の丁寧さに適した表現形式で生じるということと、さらに依頼表現のバリエーションが多様化していく方向性を示すため、対照言語学の観点を取り入れ、日本語と韓国語における依頼表現を比較する。

次節以降は、具体的な調査対象の依頼表現をまとめるため、待遇表現と依頼表現に用いられる授受動詞を整理する。これらをふまえ、ポライトネス理論を用いた待遇表現のバリエーションについて概観する。続いて、本研究で調査対象とする依頼表現について定義する。そして、行為要求表現の変遷をたどり、現代使用される依頼表現を体系的に示し、新しい依頼表現である許可求め表現の使用実態に関する先行研究をまとめる。最後に、韓国語との対照に必要な研究の枠組みについて示す。

2.6 日本語の待遇表現

待遇表現とは、対人関係や場面差などに配慮して使い分ける表現のことである。話し手の意図には、上向き待遇と中立・下向き待遇がある。敬語とは、同じ事態を述べるのに、述べ方を変えることによって、話題の人物への敬意やへりくだり、聞き手や発話の場面への配慮といった、上向きの待遇意図を表す専用の表現をいう。上向き待遇の表現は、上下関係の「上」、親疎関係の「疎」、立場関係の「強い立場」の相手に対して用いられる。それに対して、上下関係の「下」、親疎関係の「親」、立場関係の「弱い立場」の相手には、中立・下向き待遇の表現が用いられる¹。

上向き待遇を表す専用形式である敬語のうち、話題の人物への上向きの待遇意図を表す敬語を素材敬語といい、聞き手や発話の場面への配慮によって用いられる敬語を対者敬語という。日本語では、素材敬語である尊敬語、謙譲語、対者敬語である丁寧語の3つに分類され、以下の表1-1のようにまとめられる。

素材敬語は、話題の人物に対する待遇的な扱い方を表す敬語で、尊敬語と謙譲語が含まれ、対者敬語は、聞き手や発話の場面に配慮して用いられるもので、丁寧語が分類される。尊敬語は、聞き手側または第三者の行為・物事・状態などについて、その人物を立てて述

¹ 待遇表現の運用基準となる対人関係には、次のようなものがある(日本語記述文法研究会編 2009)。

- ・上下関係(目上－目下)
 - (a)年齢の上下 (b)身分の上下 (c)役割的上下(職階、家族制度上の役割) (d)経歴の長短(先輩－後輩)
- ・親疎関係(親密な関係－親疎な関係)
 - (a)社会的親疎関係(身内－非身内、職場内－職場外など) (b)心理的親疎(親しい－親しくない)
- ・立場関係(強い立場－弱い立場)
 - (a)教える側(教師)－教わる側(生徒) (b)雇う側－雇われる側 (c)買う側(客)－売る側(店員) (d)与える・貸す側－もらう・借りる側 (e)頼まれる側－頼む側

べるものである。謙讓語は、自分側から聞き手側、または第三者に向かう行為・物事などについて、向かう先の人物を立てて述べるものである。美化語と丁重語は、主体(主語)の行為について述べるという点で、素材敬語の側面を持っているが、話し手側の人物や事柄が主体(主語)になり、聞き手を高める表現となる点で、対者敬語的側面も併せ持っている。美化語は、物事を丁寧な述べるもので、聞き手や場面への配慮を示すものである。

表 1-1 敬語の分類

敬語の 3 分類	敬語の 5 分類	素材敬語/対者敬語	機能
尊敬語	尊敬語	素材敬語	話題の人物への敬意を示す
謙讓語	謙讓語		
		丁重語	素材敬語的側面と対者敬語的側面を併せ持つ
丁寧語	美化語	対者敬語	聞き手・場面への配慮を示す
	丁寧語		

日本語記述文法研究会(編)(2009)より

尊敬語と謙讓語には、それぞれ敬語専用動詞である「特定形」と「一般形」を持たない動詞を敬語形にする「一般形」の形式が存在する²。尊敬語の「特定形」は、「言う」に対する「おっしゃる」、「行く」に対する「いらっしゃる」などがあり、「一般形」は、「お+連用形+になる」(「使う」に対する「お使いになる」)、「漢語+する」型の動詞の場合には、「ご+漢語(「する」の除いた名詞に相当する部分)+になる」(「訪ねてくる」に対する「ご来訪になる」)や「お(ご)~なさる」(「挨拶する」に対する「ご挨拶なさる」)、助動詞「れる・られる」(「話す」に対する「話される」)をつける形がある。一方で、謙讓語では、「特定形」は、「言う」に対する「申す/申し上げる」、「行く」に対する「参る/伺う」などがあり、「一般形」は、「お(ご)~する」(「挨拶する」に対する「ご挨拶する」)や「お(ご)~いたす」(「案内する」に対する「ご案内いたす」)、「お(ご)~申し上げる」(「祝う」に対する「お祝い申し上げます」)といった形式が存在する。最後に、丁寧語は、述語に用いられる「です」「ます」の形をいい、述語に丁寧語が用いられる文体を丁寧体、丁寧語が用いられない文体を普通体という。

2.7 日本語の授受動詞

前節において、敬語の作り方として、「特定形」と「一般形」を整理したが、日本語の授受動詞の中には「くれる」に対する「くださる(尊敬語の特定形)」と「もらう」に対する

² 敬語の「特定形」・「一般形」の用語と解説は、金田一春彦・林大・柴田武(1988)『日本語百科大事典 縮刷版』大修館書店を参考にした。

「いただく(謙讓語の特定形)」があり、いずれも「てくれる(非敬語形)／てくださる(敬語形)」と「てもらう(非敬語形)／ていただく(敬語形)」のように補助動詞用法を用いて、依頼表現を構成する。

日高(2007)では、授受動詞を以下の表 1-2 のように与え手が主格になる「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」を「授与動詞」と呼び、受け手が主格になる「もらう」「いただく」を「受納動詞」と呼んでいる。また、「やる」「あげる」「さしあげる」は、話し手から他者への授与を表す「遠心性動詞」、「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」は、他者から話し手への授与を表す「求心性動詞」と称しており、依頼表現では「求心性動詞」の補助動詞用法が用いられる。

表 1-2 標準語の授受動詞の体系

ヴォイス的対立	敬意の有無による対立	人称的方向性による対立	
		遠心性動詞	求心性動詞
授与動詞 (与え手が主格)	敬意あり	さしあげる	くださる
	敬意なし	やる・あげる	くれる
受納動詞 (受け手が主格)	敬意あり		いただく
	敬意なし		もらう

日高(2007)表 1 より

次に授受動詞の補助動詞用法に関して、宮地(1981)では、受給敬語表現³の補助動詞用法の成立順序をまとめている。依頼表現に用いられる授受動詞の補助動詞用法について、それぞれの発達は、15世紀中頃に「てくれる」、は16世紀中頃に「てくださる」、17世紀以降に「てもらう」、19世紀以降に「ていただく」が現れ、これらの補助動詞用法は、17世紀中頃までに「てくれる・てもらう・てくださる」がでそろい、19世紀中頃までに「ていただく」が出現して、全てが出そろった。

2.8 日本語の待遇表現のバリエーション

次に待遇表現のバリエーションに関して、ポライトネス理論を用いながら、敬語形式以外の丁寧さの表し方について述べる。

まず、ポライトネスとは、円滑なコミュニケーションのために、話し手が相手に示す心配りのことである。田中・田中(1996)によると、「ポライトネスのルールやストラテジー(strategy)は、ポライトネスを世界のさまざまな言語で表現する際に用いられる、普遍的原則であると言えるだろう。相手や場面や発話内容などに応じて、どのルールあるいはストラテジーを使ってポライトネスを表現するのが適切であるかについては、話者と聴者の属

³ 宮地(1981)の「受給敬語表現」は本稿の「授受表現」と同じものである。

する文化や社会によって異なる。」と述べている。

ここでは、ポライトネス理論として代表的な Brown & Levinson(1978)を挙げる。Brown & Levinson(1978)は、ポライトネス(politeness)を、Goffman(1967)のフェイス(face)の概念から人間は人間関係に関わる 2 つの基本的欲求を持つとした。他者に受け入れられたい、好かれたいという欲求を「ポジティブ・フェイス」といい、自分の領域を他者に邪魔されたくないという欲求を「ネガティブ・フェイス」と呼んでいる。人とのコミュニケーションの中では、相手のフェイスを侵害する危険性がある。このことを Brown & Levinson(1978)は、フェイス侵害(FTA)と呼んでいる。人は FTA を回避するため、相手のフェイスをなるべく侵害しないように配慮した言語行動を行う。Brown & Levinson(1978)は、フェイスに配慮して行う言語行動をポライトネスのストラテジーとして、以下のように体系化している。

- ①直言：配慮なし
- ②ポジティブ・ポライトネス：「ポジティブ・フェイス」に配慮した言語行為
- ③ネガティブ・ポライトネス：「ネガティブ・フェイス」に配慮した言語行為
- ④ほのめかし：婉曲的に表現する
- ⑤行為回避：FTA を行わない

②「ポジティブ・ポライトネス」と③「ネガティブ・ポライトネス」について、滝浦(2008)によると次のように説明されている。②「ポジティブ・ポライトネス」とは、「ポジティブ・フェイス」に配慮した言語行為で、「直接的表現と近接化的表現によって、相手との距離を縮め、相手とともに事柄に直接触れようとする、表現の共感性が特徴となる。」とあり、③「ネガティブ・ポライトネス」は、相手の「ネガティブ・フェイス」に配慮するものであり、「相手の領域に踏み込むことや直接名指すことを避け、遠隔化的表現と間接的表現によって、相手を遠くに置き、事柄に直接触れないようにする、表現の敬避性を特徴とする。」と述べている。「ネガティブ・ポライトネス」の中には、「敬意を示す」というストラテジーがあるが、日本語の敬語は、この「ネガティブ・ポライトネス」に位置づけられる。

Brown & Levinson(1978)によると、「話し手(S)が、聞き手(H)の行為の自由を妨害することを避けようとする意図がないことを(潜在的に)示すことにより、主に H のネガティブ・フェイス欲求を脅かす行為」として依頼をあげている。

以上、Brown & Levinson(1978)のポライトネス理論をふまえて、日本語における待遇表現のバリエーションについて見ていく。以下では、日本語記述文法研究会(編)(2009)を参考に、本研究に関連する日本語における依頼表現の形式についてまとめる。日本語記述文法研究会(編)(2009)では、「ペンを借りる」場面で使用される依頼の表現について、以下の(1)～(6)のような表現をあげている。

- (1) お借りしてもよろしいでしょうか。
- (2) 貸していただきませんか。
- (3) 貸してくれませんか。
- (4) 貸してくれる？
- (5) 貸して。
- (6) ペン。

「ペンを借りる」という行為を実現するための表現には、複数のバリエーションがあり、(1)～(6)までの表現の中で、(1)「お借りしてもよろしいでしょうか。」が最も待遇が高く、下に下がるごとに待遇度が下がっていく。

待遇表現の表す意味を「待遇的意味」というが、日本語記述文法研究会(編)(2009)によると、待遇的意味は、「上扱い/下扱い、遠ざけ/親しみ、あらたまり/くだけ、丁寧/ぞんざい」などの尺度で計られる。上扱い/下扱いは、「話し手の話題の人物に対する敬意の有無」、遠ざけ/親しみは、「話し手の聞き手との距離の調節意識」、あらたまり/くだけは、「話し手の場面に対する配慮」、丁寧/ぞんざいは「話し手の言葉づかいに対する品格意識」に基づく尺度である。日本語では、上扱い、遠ざけ、あらたまり、丁寧を示す表現は上向き待遇の表現、下扱い、親しみ、くだけ、ぞんざいを表す表現は下向き待遇の表現となる」とある。

(1)「お借りしてもよろしいでしょうか。」(2)「貸していただきませんか。」(3)「貸してくれませんか。」の例は、敬語使用の表現で、目上の相手や疎の関係の人物に用い、(4)「貸してくれる？」(5)「貸して。」(6)「ペン。」の例は、敬語不使用の表現で、対等か目下の相手、親の関係の人物に用いる表現である。(1)「お借りしてもよろしいでしょうか。」(2)「貸していただきませんか。」(3)「貸してくれませんか。」(4)「貸してくれる？」の表現は、すべて疑問文が用いられており、相手に依頼を受け入れるかどうかの決定権がある表現であることから、(5)「貸して。」や(6)「ペン。」のような断定的な表現と比べると、相手の行動に対する意向を尊重する表現となる。これは、「ネガティブ・ポライトネス」の「質問する」ことに相当する。

また、聞き手の行為の実行を問う「くれる」「くださる」より、その行為による利益を話し手が受けることが可能かどうかを問う「もらう」「いただく」を用いる方が間接的な依頼となる。

構文の違いに関しては、否定疑問文を用いた表現で、(2)「貸していただきませんか。」や(3)「貸してくれませんか。」は、「貸していただけますか」「貸してくれますか」「貸してくれる？」といった肯定疑問文と比べると、聞き手に断る余地を残す表現になるため、上向き待遇意図が強くなるということになる。

以上、日本語における待遇表現のバリエーションについて見てきた。上記で述べたように、ポライトネスとは、「円滑なコミュニケーションのために、話し手が相手に示す心配り」のことであるため、親しい相手に依頼をする場合は、「ポジティブ・フェイス」に配慮する

といった、親しさを示す表現を用いることになり、目上の人物や親しくない疎の関係の人物には「ネガティブ・フェイス」に配慮した、相手と距離を置く間接的表現を用いることが適切ということになる。しかし、以下 5.5 で詳しく述べるが、日本語の場合、依頼という行為は相手に迷惑をかけるものと捉えるため、親しい相手であっても「ネガティブ・フェイス」に配慮することが、相手に対する心配りになる。そのため、(6)「ペン。」や(5)「貸して。」のような断定的な表現よりも間接的な(4)「貸してくれる?」、あるいは「てもらえる?」「てもらって(も)いい?」のような表現が使用される。このように、依頼表現は聞き手の待遇に合わせて、さらに相手の「ネガティブ・フェイス」への配慮を示すための様々な表現を構成することから、バリエーションが多様に存在する。

3. 日本語の依頼表現について

次に、本稿で調査対象とする依頼表現を定義し、現代使用される依頼表現の体系を示すため、行為要求表現の変遷をたどる。

3.1 依頼の定義

日本語記述文法研究会(編)(2009)によると、依頼は、配慮が必要になる対人行動の類型の中で、持ちかけ系の対人行動に分類される。

表 1-3 対人行動の類型

持ちかけ系	命令・禁止	依頼	勧め	助言・忠告	誘い	許可求め	申し出
応答系	承諾・許可	断り・不許可					
調整系	感謝	謝罪					

日本語記述文法研究会(編)(2009)より

表 1-4 持ちかけ系の対人行動

対人行動	決定権	行為者	典型的表現(非敬語形)
命令・禁止	話し手	聞き手	～しろ, ～するな
依頼	聞き手	聞き手	～してくれ
勧め	聞き手	聞き手	～すればいい, ～したらどうか
助言・忠告	聞き手	聞き手	～したほうがいい
誘い	聞き手	聞き手・話し手	～しよう, ～しないか
許可求め	聞き手	聞き手	～してもいいか
申し出	聞き手	聞き手	～しようか(してあげようか)

日本語記述文法研究会(編)(2009)より

依頼は、「行為の指示の仕方は強制的なものではなく、行為の決定権は聞き手にある。(中略)聞き手の行為が話し手にとって利益になる」行為を聞き手に要求する表現である。敬語形の典型的な表現として「手伝ってくださいますか」をあげている。非敬語形の典型的な表現として、表 1-4 のように「～してくれ」をあげている。

また、日本語記述文法研究会(編)(2003)では、依頼の機能のある形式として、主に「てくれ」「てください」「てくれないか」「てくれるか」「てもらえないか」「てもらえるか」「して」「てほしい」「てもらいたい」を取り上げている。この中で、「てくれ」は補助動詞「てくれる」の命令形で、「てください」は動詞のテ形に「ください」が接続したものであるとあり、もっとも基本的な依頼の形式であると述べている。また、「して」については「てください」や「てくれ」の前半部だけが独立した形式で、やや軽い気持ちで行う依頼を表すとある。

新しい依頼表現である許可求め表現も形式は、形式は許可求めであるが、聞き手の行為が話し手にとって有益であるということを明示し、疑問文によって聞き手に決定権のある表現であることから、依頼表現として機能している。このように、依頼の機能をもつ表現は、様々な形式が存在するということになる。

よって、本稿で扱う「依頼」は、日本語記述文法研究会(編)(2009)の定義に合わせ、依頼が行われる場面を依頼場面、日本語記述文法研究会(編)(2003)で挙げられているような、依頼を意図する表現形式全般を依頼表現とする。なお、本稿において、分析の対象とする依頼表現に関しては、以下の 4 節で詳しく述べる。

3.2 行為要求表現の変遷

前節では、現代は、授受動詞「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」の命令形と疑問文を用いた形式が依頼の表現として使用されることを示したが、現代使用される依頼表現を体系的に整理するため、まず、行為要求表現の変遷に関して述べた先行研究を概観する。

依頼は、現代語では決定権が「聞き手」にあることから、疑問文を用いた表現が用いられる。しかし、古代や中世では、命令形を用いた行為要求表現が主流であった。小柳(2014)では、奈良時代の資料から、要求の場面における配慮表現について、「現代では、「しろ」「しなさい」という命令の表現と、「してください」(「して」「してちょうだい」などの類似表現も含める)という依頼の表現を区別するが、(中略)奈良時代はこの区別がない。(中略)現代なら依頼という配慮の仕方をする場合に、依頼が確立していない奈良時代は、敬語動詞の命令形を使って直接的な要求表現を行っていた」と述べている。また、藤原(2014)は、平安・鎌倉期の行為要求表現について、否定疑問文を用いた表現はなく、「したまえ」「せさせたまえ」が目上の人物への行為要求表現として用いられると述べている。

行為要求表現で恩恵を明示する「てくれ」のような行為要求表現の使用が主流になるのは、近世期である。工藤(1979)は、近世末期の江戸語では命令形を用いた「てくれ系」のバ

リエーションが豊富であったことを表 1-5 のようにまとめている。

また、工藤(1979)は、疑問文の形式に関して、〈てくれ〉系の表現や「てもらいたい」などの希望表現形式を婉曲的にしたもので、「昭和期に近づけば近づくほど発達してきており、戦後の作品には特によく見られるものである。」と述べている。

表 1-5 近世末期の江戸語における「てくれ系」のバリエーション

へ て て く い れ ね 系 い	肯定の依頼表現形式	否定の依頼表現形式
	て くれ くれろ	て くれるな
	くんな くんねえ	
	おくれ	(おくれでない)
	おくんなさい おくんなせえ	おくんなさんな
	おくんなんし	おくんなんすな
	ください	くださるな
	くだされ くだっし	おくんなさいますな
	おくんなさいまし	くださいますな
	くださいまし くださいませ	
て もらいたい もらいてえ	×	

工藤(1979)より

「てくださいませんか」については、高澤(2011)の調査によると、少数ではあるが江戸期と明治期の資料から使用例がある。また、「ていただけませんか」についても、明治期の資料(雑誌『太陽』)から 1 例のみであるが、1909 年の用例を確認できる。

宮地(1981)によると 19 世紀中ごろから末頃に「ていただく」が出現するとあるため、依頼表現として使用され始めるのも、この時期からだと予想される。そこで筆者は、「ていただけますか」と「ていただけませんか」について、帝国議会議録と国会議会議録を用いて、別途用例を調査したところ、どちらも 1947 年の用例を確認できたため、これ以降に使用が増加していくのだと考えられる。

そして、現在では「てもらって(も)いい?」のような許可求め表現が出現し、2000 年以降にその使用が増加する。これに関しては、次節で先行研究をまとめながら詳しく述べる。

以上、行為要求表現の変遷を見てきた。近世期までの上下関係が表現の選択基準になっていた頃の行為要求表現は、命令形が主流であった。明治期以降は、身分制度がなくなり、社会が変化したことで、次第に縦の関係だけでなく、横の関係といった様々な人間関係に配慮し、依頼表現を選択するようになっていく。この頃から、疑問文を用いた依頼表現のバリエーションも使用が拡大していく。現代では「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」のそれぞれに肯定と否定の構文に疑問文を用いる表現だけでなく、許可求め表現も依

頼表現のバリエーションに加わり、バリエーションが多様になっている。

3.3 許可求め表現の先行研究

以下では、依頼場面における許可求め表現の使用に関する言説や先行研究をまとめる。近年よく耳にするようになった依頼場面における許可求め表現は、2000年代以降にその使用が広がり、それに伴って、許可求め表現が研究の対象として扱われるようになっていく。

この表現は、授受動詞「もらう」「いただく」に「て(も)いいですか」という許可求め表現が後接した表現で、その依頼内容を実際に遂行するのは相手であるため、依頼表現として機能している。

文化審議会(2007)では、依頼場面における許可求め表現に関して、本来なら指示や依頼の表現で済むところを、相手に許可を求める表現に変えることで、より丁寧な表現にしようとした表現だと解説している。また、砂川(2005)では、「若い人たちは「～してもらう」を使うことで相手の行為によって自分が恩恵を被ることを表し、ありがたいと思う気持ちを伝えているのだと思います。それに加えて許可求める表現を使うことで、相手にお伺いを立て、依頼の押しつけがましさを軽減しようとしているつもりなのでしょう。」とその丁寧さについて言及している。また、許可求め表現の丁寧さについて、蒲谷(2013)、蒲谷・川口・坂本(1998)は、行動展開表現における「丁寧さの原理」に則って、当該表現の丁寧さを言語構造の面から解説している。この「丁寧さの原理」とは、実際に「行動」するのは「自分」で、行動の「決定権」は「相手」にあり、その行動から「利益・恩恵」を受けるのは「自分」であるということを示す文構造を持つ言語行為が、原理的に最も丁寧な表現になるというものであるが、許可求め表現による依頼表現は、「丁寧さの原理」で説明すると原理的に最も丁寧な表現であるということになる。

しかし、依頼場面における許可求め表現が丁寧とされる一方で、高年層からは否定的な印象を受けやすいとされる。砂川(2005)では、許可を求める表現を適切に使うためには、「自分がそのことを望んでいるとき。」「相手に、諾否についての選択の余地があり、そのどちらを選択するかを尋ねたいとき。」のように2つの条件をあげ、許可求め表現の使用に対する違和感について、「諾否に関する選択の余地がない人に対してどちらを選択するか尋ねる表現が使われているところにおかしいと感じる理由があるのです。」と考察し、「お願いをする依頼の場面では、「～してください」「～してくださいませか」「～していただけますか」「～していただけませんか」「～お願いします」などと言うのが適当です。」と許可求め表現の使用を推奨していない。

依頼場面における許可求め表現に関する否定的な意見として、野田(2009)では、許可求め表現の本来の用法は、聞き手に対して他の第三者に何かをしてもらうことの許可を求める表現である。そのため、依頼場面における許可求め表現を使用されることに関して、他の第三者の存在が暗示されて依頼の行為者が誰であるのかが紛らわしいと述べている。

以上のように、その使用については、否定的な意見も見られるが、既存の依頼表現をさ

らに婉曲的にすることで丁寧さを表していることから、丁寧な表現として捉えられているため、その使用が拡大しているのだと思われる。

依頼場面における許可求め表現の使用が広がることに伴い、その使用実態を調査した先行研究も、2000年以降に増え始めるが、ここでは文化庁文化部国語科(2008)、尾崎(2015)、政井(2016)、野呂(2015)を概観する。

文化庁文化部国語科(2008)は、「気になる言い方」のアンケート調査で、2つの依頼場面における許可求め表現の使用実態に関して調査を行っている。質問項目と選択肢は以下のとおりである。

項目：①「(上司が部下に書類の郵送を頼むときに)この書類を郵送してもらってもいい(↑)」

②「(友達に対して)その本を貸してもらっていい(↑)」

選択肢：気になる、気にならない、どちらとも言えない、わからない

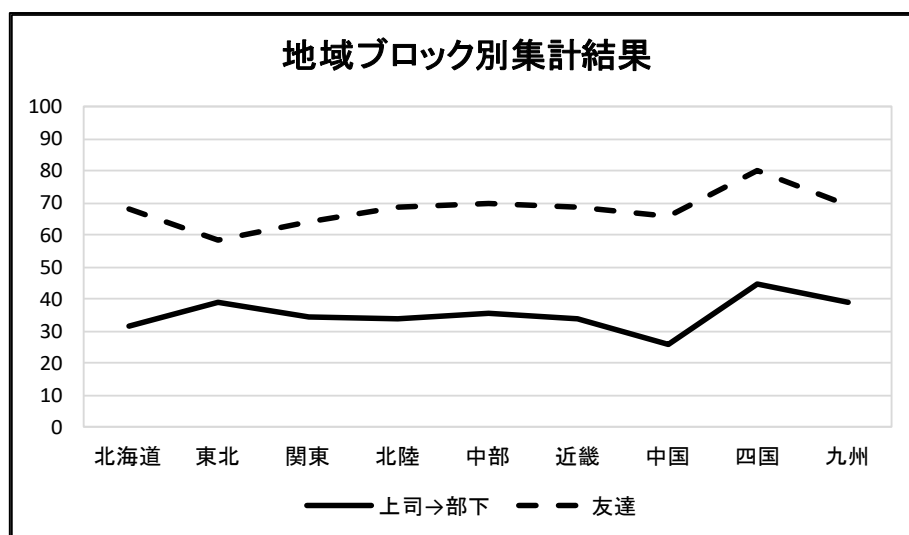


図 1-1 地域ブロック別集計結果 (文化庁文化部国語科(2008)を参考に作成)

アンケートの結果は、地域ブロック別、性別、性・年齢別に集計しているが、まず、地域ブロック別の結果を見ていく。以下、図 1-1 は「(上司が部下に書類の郵送を頼むときに)この書類を郵送してもらってもいい(↑)」(以下、上司→部下)という依頼に対して「気にならない」と回答した割合と「(友達に対して)その本を貸してもらっていい(↑)」(以下、友達)という依頼に対して「気にならない」と回答した割合を示している。図 1-1 を見ると、回答者数が他地域より少なかった四国地方を除くと、目立った差は見られないため、依頼場面に

おける許可求め表現の使用に地域差⁴があるとは考えにくい。性別の結果についても同様に大差は見られなかったため、次は、特に差が見られた性・年齢別の集計結果を見ていく。実線で示したものは、男性のデータで、点線は女性のデータを示している。

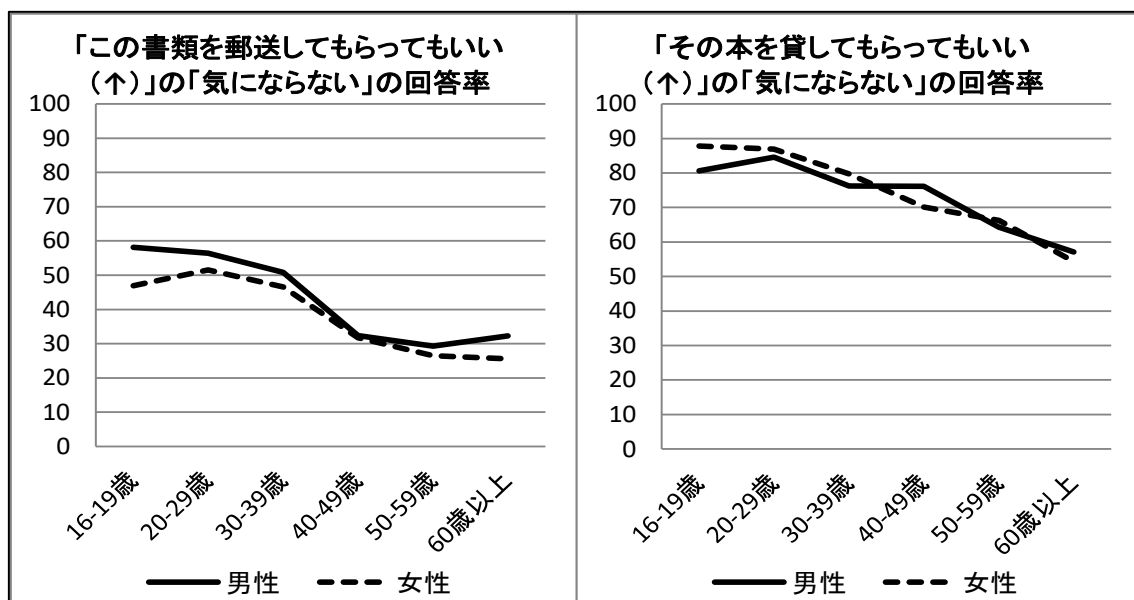


図 1-2 「気になる言い方」許可求め表現による依頼
(文化庁文化部国語科(2008)をもとに作成)

図 1-2 を見てみると項目①「この書類を郵送してもらってもいい(↑)」という許可求め表現の使用よりも「その本を貸してもらってもいい(↑)」という許可求め表現の使用の方が「気にならない」という割合が高い。2つの場面に共通しているのは、年代が上がるにつれて許容度が下降していく点である。ここから、依頼場面における許可求め表現は友人同士のような内輪で使用されやすく、主に若年層で許容度が高いということと、ビジネスの場面では許容されにくいということがわかる。

次に、尾崎(2015)では、依頼場面における許可求め表現に関して以下3点を述べている。まず、1つ目に、愛知県岡崎市での多人数経年調査⁵(第1次調査：1953年、第2次調査：1972年、第3次調査：2008年)のデータから、許可求め表現は、1972年の調査から見え始め、現在の40～50代以下の年齢層の間で用いられ始めたところとある。2つ目に、北海道(札幌市・釧路市・富良野市)での多人数調査(2011～2012年)⁶のデータから、「家族」のような非常に

⁴ アンケートの総数は1975名。その内、北海道95名、東北139名、関東589名、北陸106名、中部311名、近畿309名、中国124名、四国65名、九州237名

⁵ 国立国語研究所が、愛知県岡崎市で15歳～79歳の市民を対象に1953年・1972年・2008年に敬語と敬語意識に関する経年調査を行っている。第1次調査：1953年(昭和28年)回答者429人、第2次調査：1972年(昭和47年)回答者400人、第3次調査：2008年(平成20年)回答者306人

⁶ 北海道札幌市と釧路市で2011年～2012年にかけて、15歳～79歳の男女、各都市206人を対象に、場面に

近しい身内には使用されず、「知らない人」に対して使用される傾向があると述べ、最後に、岡山市での多人数調査(2013年)⁷から、親しい友人に対して「手伝う」という行為を要求する場面では、世代差の分析を通して、「手伝ってくれる?」は「手伝ってもらって(も)いい?」への置き換えが進んでいると結論づけている。

書き言葉における許可求め表現の用法を分類するための研究としては、政井(2016)が挙げられるが、ここでは、現代書き言葉均衡コーパスの調査と Google 検索文の調査から、「てもらってもいいか」という文に対する返答のタイプによって、その用法を「どうぞ」文、「いいですよ」文、「わかりました」文、さらにそれら3つに該当しない「該当しない」文の4つに分類している。その4つの分類の中で、「該当しない」文の許可求め表現は、返答を必要としない場合や普段は言いにくい事柄を伝える場合に使用されると述べている。

最後に、野呂(2015)では、大学生に依頼表現の使用に関してアンケート調査⁸を行い、「～てもらおう」を用いた表現の中でも「～てもらってもいいですか」の使用が優勢であることを述べ、さらにこの表現を使用する際の相手への敬意の度合いが他のもらう型の依頼表現よりも高くないと捉えられているということを明らかにしている。

以上、依頼場面における許可求め表現の使用実態に関する調査を見てきたが、その使用される相手は「知らない人」に対する場面や言いにくいことを言う場合が許容されやすく、「くれる」の言い換えになっていることなどから、丁寧な表現として認識されているといえる。

上記にまとめた先行研究は、依頼場面における許可求め表現を用いた依頼表現に対する言説や文法構造の解説、許可求め表現の使用実態を調査するものではない既存の調査データから許可求め表現のデータを集めて分析したもの、書きことばの調査などが行われている。これらの中でアンケート調査によって、複数の依頼場面を比較し、どのような場面において使用度が変わるのかという分析をしているものは存在しない。また、具体的な用例調査を行っているものもあるが、尾崎(2015)の場合は、依頼場面における許可求め表現を調査する目的で行われた調査ではないことから、用例数が十分ではないということが指摘できる。また、政井(2016)は、許可求め表現に対する返答のタイプによる分類をしているため、他の表現との比較は行っていない。

よる方言と共通語のアクセントの使用状況に関する調査を実施している。

⁷ 岡山市で2013年10月に調査者が民間の調査会社に委託して実施した調査で、調査当時20歳～79歳の男女81人に調査票を用いた個別面接を行った。友達に少し手伝ってほしいことがあるとき、どんな言い方で頼むかという場面で、自分の言うことがある表現(1(ア)(ちょっと)手伝ってもらっていい?、2(イ)(ちょっと)手伝ってもらってももらえる?、3(ウ)(ちょっと)手伝ってもらってももらえない?、4(エ)(ちょっと)手伝ってもらってくれる?、5(オ)(ちょっと)手伝ってもらってくれない?、6どれも言わない)からすべて選ぶという依頼表現に関する調査を行っている。

⁸ 高田短期大学の学生44名に対して、2つの調査を行っている。1つ目は、アルバイト先の店長に使用している機械の調子が悪くなったので、その機械の点検を頼むという場面において、自由記述のアンケートを行い、2つは、同場面において①もらえますか、②もらえませんか、③もらえないでしょうか、④もらいたいのですが、⑤もらってもいいですかのうち、相手に対する敬意の度合いが最も高いものと最も低いものを選択する調査を行っている。

また、既存の依頼表現と比較し、その使い分けを記述したものもないため、許可求め表現による依頼表現がどのような位置づけなのかも明確になっていない。

依頼の場面において、表現の選択に影響する要素は、上下関係や親疎関係といった相手との関係性だけでなく、相手に気をつかう場面であるかどうかであると考えられる。よって、本研究では、依頼場面における許可求め表現を、上下関係や親疎関係、さらに負担度の違いを複合的に設定した調査を行い、その使用実態を明らかにする。そして、どのような場面において、その使用範囲が拡大しているのか、その使用実態を詳細にしていくことを目的に、疎の関係の中でもどのような人物に用いられるのか、上下関係や役割関係、人間関係の継続性を基準としたアンケート調査を行う。さらに、国会会議録の資料を用いた用例調査を行う。国会会議録は、会議内容を記録したもので、情報要求の表現や行為要求の表現として依頼の形式を用いた表現の用例を収集することができるため、国会会議録に見られる依頼表現の分析を行う。

4. 調査対象とする日本語の依頼表現

本節では、調査対象とする日本語の依頼表現のバリエーションを先行研究(宮地(1995)、山岡(2008)、岡本(1988)、山田(2004))にもとづき、整理する。

宮地(1995)では、現代日本語における依頼を表す一般的言語形式として、以下の5つの依頼表現を挙げている。

- (1) ここで、ひとつ、君に大いにはたらいてほしい。
- (2) 体力に応じて運動量を考えていただきたい。
- (3) ここに住所を書いてください。
- (4) じゃあ、そろそろ御用意願います。
- (5) ここで、ひとつ、君、おおいにはたらいてくれ。

宮地(1995)は、(1)を「消極的な命令あるいは丁寧な要求」を示す依頼で、「希求・期待・祈念などの意に連なるもの」と見ている。(2)も「希望・願望と連なる意を持つが、相手に対する消極的な要求」を表すものであることから、依頼表現と見なしている。(3)は「受給の意味の薄い、書きなさいの婉曲な表現」で、そこから要求の意の強いものと見なし、「依頼表現と言うより要請表現」だとしている。(4)については「願うという願望の意の語彙的形式」を使用した依頼表現として他の表現と区別している。(5)については(3)との関係に言及しつつ次のように述べている。

受給表現⁹補助動詞としての「てくれ」の敬語形は、「て下され・て下されい」から変化

9 宮地(1995)の「受給表現」は本稿の「授受表現」と同じものである。

したと見られる「て下さい」だから、既述(3)にある。そのほかの「てくれ」類は、依頼表現の代表格の一つとしていくつかの変容形を持つ。たとえば「書いてくれ」は、「書いてくれる?」「書いてくれるか?」「書いてくれない?」「書いてくれないか?」「書いてくれませんか?」「書いてくれませんか?」などと言う。疑問終助詞「か」の上昇調は、とくに質問を明示するし、「か」をともなわないときは文末上昇調にしなければならないなど、文末音調に制約がある。

上述のように、現代日本語における依頼表現は、授受表現による依頼表現が一般的である。その表現形式の名称として、本稿では、「書いてくれ」は「クレル系命令類(クレ形)」、「書いてくれる?」「書いてくれるか?」は「クレル系肯定疑問類」、「書いてくれない?」「書いてくれないか?」「書いてくれませんか?」「書いてくれませんか?」は「クレル系否定疑問類」に分類することにする。「くださる」についても同様の分類を行う。

山岡(2008)では「文機能」という観点から以下の表 1-6 のように依頼表現を分類している。

表 1-6 依頼のための文機能(山岡 2008)

文機能	命題内容条件(PCC)			例文
	述語		主語	
	語彙	形態・時制	人称	
〈遂行〉	遂行動詞 (依頼)	無標	I 非主語II	駅まで迎えをお願いします。
〈命令〉	意志動詞	命令形 + テクレル	II 非主語I	駅まで迎えに来てください。
〈意志要求〉	意志動詞	疑問形 + テクレル	II 非主語I	駅まで迎えに来てくれますか。
〈意志誘導〉	意志動詞	否定+疑問形 + テクレル	II 非主語I	駅まで迎えにきてくれませんか。
〈可能要求〉	意志動詞	可能+疑問形 + テモラウ	I 非主語II	駅まで迎えに来てもらえますか。
〈許可要求〉	意志動詞	許容+疑問形 + テモラウ	I 非主語II	駅まで迎えに来てもらってもいいですか。
〈願望表出〉	意志動詞	タイ形 + テモラウ	I 非主語II	駅まで迎えにきてほしいんです。
〈感情表現〉	感情形容詞	無標	I	駅まで迎えに来てくれると、ありがたいんですが。

命題内容条件(propositional content conditions)。

主語の人称は、ローマ数字で簡略表記している。

山岡(2008)では、授受表現による依頼表現を「命令」「意志要求」「意志誘導」「可能要求」「許可要求」「願望表出」に分類している。このうち、本稿では「駅まで迎えに来てもらえますか(来てもらえませんか)」を「モラウ系肯定疑問類(モラウ系否定疑問類)」、「駅まで迎えに来てもらってもいいですか」を「モラウ系許可求め類」と呼ぶことにする。

依頼表現の多様なバリエーションを分類・整理した先行研究としては、他に岡本(1988)や山田(2004)がある。岡本(1988)では、慣習的な依頼表現として以下の12の表現をあげている。

1. 窓開けて
2. 窓開けてくれよ
3. 窓開けてくれる?
4. 窓開けてもらえないかなあ?
5. 窓開けてもらえない?
6. 窓開けてほしいんだけど
7. 窓を開けてください
8. 窓を開けてくれませんか?
9. 窓を開けてもらえませんか?
10. 窓を開けてくださいますか?
11. 窓をあけていただけないでしょうか?
12. 窓をあけていただきたいんですが

岡本(1988)は、「狭義の敬語の不使用(1~6)、使用(7~12)での区分や、命令形で表すか(1、2、7)、肯定疑問形(3、8、10)、否定疑問形(4、5、9、11)、希望を叙述する形(6、12)等間接的な形式を用いるかという区別ができるが、さらに、補助動詞(くれる、もらう、くださる等)」の形式で区別すると表現は多様になると述べている。ただし、上記の依頼表現の例には、本稿で扱う「モラウ系許可求め類」は含まれていない。

一方、山田(2004)は授受動詞を用いた依頼表現を次のように分類している。

A1 類：テクレル+命令：テクレ、テオクレ、テクダサイ、(テクダサイマセ)、オ〜クダサイ

A2 類：テチョウダイ；テ形、オ+命令形

B1 類：テクレル+疑問：テクレル?、テクレマス?、テクダサル?、テクダサイマス?、オ〜クダサル?、オ〜クダサイマス?等

B2 類：テクレル+否定+疑問：テクレナイ?、テクレマセン?、テクダサラナイ?、テクダサイマセン?、オ〜クダサラナイ?、オ〜クダサイマセン?等

- B3 類：テクレル＋否定＋推量＋疑問：テクレナイダロウカ、(テクダサラナイデシヨウカ)、テクダサラナイデシヨウカ、テクダサイマセンデシヨウカ等
- C1 類：テモラウ＋可能＋疑問：テモラエル？、テモラエマス？、テイタダケル？、テイタダケマス？、オ～イタダケル？、オ～イタダケマス？等
- C2 類：テモラウ＋可能＋否定＋疑問：テモラエナイ？、テモラエマセン？、テイタダケナイ？、テイタダケマセン？、オ～イタダケナイ？、オ～イタダケマセン？等
- C3 類：テモラウ＋可能＋否定＋推量＋疑問：テモラエナイダロウカ？、テモラエナイデシヨウカ？、テイタダケナイデシヨウカ？、テイタダケマセンデシヨウカ？等
- D1 類：テモラウ＋可能＋テ(モ)＋評価＋疑問：テモラッテ(も)イイデスカ？、テイタダイテ(モ)ヨロシイデスカ？、テモラッテ(モ)カマワナイデスカ？等
- D2 類：テモラウ＋可能＋テ(も)＋評価＋推量＋疑問：テモラッテ(も)イイデシヨウカ？、テイタダイテ(も)ヨロシイデシヨウカ？、テモラッテ(も)カマワナイデシヨウカ？等
- E1 類：テモラウ＋(可能)＋条件＋評価＋逆接言切り：テモラエルトアリガタイ(ンダ)ケド等
- E2 類：テクレル＋条件＋評価＋逆接言切り：テクレルトアリガタイ(ンダ)ケド、など
- F 類：テモラウ＋願望(+ノダ＋逆接言切り)：テモライタイ、テホシイ、テモライタインダケド、テホシインダケド
- G 類：テモラウ＋意志＋疑問：テモラオウ、テモラオウカ、テモライマシヨウカ、テイタダコウカ、テイタダキマシヨウカ

山田(2004)は、授受動詞の命令形を A 類、「テクレル」の疑問形を B 類、「テモラウ」の疑問形を C 類、「テモラウ」を用いた許可求め表現を D 類としている。本稿において、アンケート調査を行った結果、A～D 類の表現が多く回答されていた。よって、本稿では A～D 類の表現を調査対象とする。

以上をふまえて、分析の対象とする依頼表現を表 1-7 のように分類した。「非敬語形」は「くれる」「もらう」のことで、「敬語形」は「くださる」「いただく」を表している。命令・依頼表現の待遇形式の組み合わせは「非敬語形・普通体」「非敬語形・丁寧体」「敬語形・丁寧体」の大きくわけて 3 つがある。本稿では「非敬語形・普通体」を I のグループとし、「非敬語形・丁寧体」を II、「敬語形・丁寧体」を III とする。

各依頼表現には便宜上、記号をつけているが、K は授与動詞、M は受納動詞を示している。各類別を形式面で分類する記号としては、命令形を 0、「テ形」及び「肯定疑問類」は 1、「否定疑問類」は 2、「モラウ系許可求め類」を 3 としている。なお、分析の対象とする依頼表現は、本調査で行った記述式アンケート調査の結果において、多数回答が見られた

ものを扱うため、先行研究に挙げられていた「てもらいたい」は除外している。また、表記について、疑問終助詞「か」の接続する表現は、質問を明示するため、「？」をつけないが、疑問終助詞「か」が明示されていない表現には文末上昇調であることを示すため「？」をつけて示している。

表 1-7 現代日本語の依頼表現の分類

待遇形式の組み合わせ	依頼表現	類別	記号
(I) 非敬語形・ 普通体	しろ	活用形類 (命令形)	I 0
	して	活用形類 (テ形)	I 1
	してくれ	クレル系命令類 (クレ形)	I K0
	してくれる?	クレル系肯定疑問類	I K1
	してくれない?	クレル系否定疑問類	I K2
	してもらえる?	モラウ系肯定疑問類	I M1
	してもらえない?	モラウ系否定疑問類	I M2
	してもらって(も)いい?	モラウ系許可求め類	I M3
(II) 非敬語形・ 丁寧体	してくれませんか	クレル系肯定疑問類	II K1
	してくれませんか	クレル系否定疑問類	II K2
	してもらえますか	モラウ系肯定疑問類	II M1
	してもらえませんか	モラウ系否定疑問類	II M1
	してもらって(も)いいですか	モラウ系許可求め類	II M3
(III) 敬語形・ 丁寧体	してください	クレル系命令類 (クダサイ形)	III K0
	くださいますか	クレル系肯定疑問類	III K1
	くださいませんか	クレル系否定疑問類	III K2
	していただけますか	モラウ系肯定疑問類	III M1
	していただけませんか	モラウ系否定疑問類	III M2
	していただいて(も)いいですか	モラウ系許可求め類	III M3

5. 日韓対照研究の枠組み

ここからは、日本語と韓国語の依頼表現を対照するための枠組みを示していく。日本語と韓国語は、語順や体言に助詞がつくこと、用言に語尾の活用があること、敬語体系が発達していること、授受動詞がありその補助動詞用法によって依頼表現を構成することなど、類似点が多い。

5.1 日本語と韓国語の待遇表現

韓国語の待遇表現には、日本語と同様に、敬語による上向き待遇を表す専用形式が存在する。日本語では、通常、素材敬語である尊敬語と謙讓語、対者敬語である丁寧語の3分類が行われるが、韓国語には、これに対応するものとして주체높임법(主体敬語)、객체높임법(客体敬語)、청자높임법(対者敬語)がある(김태엽 1999)。

日本語に関しては日本語記述文法研究会(編)(2009)、韓国語に関しては李翊燮・李相億・蔡ワソ(2004)をもとに、動詞「言う」に相当する日本語と韓国語の待遇語を整理すると表1-8のようになる。

日本語と韓国語の素材待遇語には、待遇相手が主語の場合と目的語の場合が存在する。日本語では待遇相手が主語である場合、待遇の向きは上向き待遇、中立待遇、下向き待遇があり、それぞれ「おっしゃる」(上向き待遇)、「言う」(中立待遇)、「言いやがる」(下向き待遇)のような待遇語が存在する。一方、韓国語の場合、主語に対する上向き待遇語と中立待遇語は存在するが、下向き待遇語に相当する動詞の待遇語は存在しない。待遇相手が目的語の場合は、日本語、韓国語ともに、上向き待遇語と中立待遇語がある。

次に、対者待遇語であるが、日本語、韓国語ともに、待遇相手である聞き手に対する上向き待遇語、中立待遇語がある。日本語の場合、上向き待遇の対者待遇語を丁寧語といい、「言います」のような丁寧語を用いた文体を丁寧体、「言う」のような中立待遇語を用いた文体を普通体という。

表 1-8 日本語と韓国語の動詞の待遇語

(日本語記述文法研究会(編)2009・李翊燮・李相億・蔡ワソ 2004 をもとに作成)

	待遇相手	待遇の向き	日本語(言う)	韓国語(말하다)
素材待遇語	主語	上向き待遇(尊敬語)	おっしゃる	말씀하시다
		中立待遇	言う	말한다
		下向き待遇(卑罵語)	言いやがる	/
	目的語	上向き待遇(謙讓語)	申し上げる	말씀드린다
		中立待遇	言う	말한다
対者待遇語	聞き手	上向き待遇(丁寧語)	言います(丁寧体)	①말합니다(합쇼체) ②말해요(해요체) ③말하오(하오체) ④말하게(하계체)
		中立待遇	言う(普通体)	⑤말해(반말체) ⑥말해라(해라체)

※①～⑥は待遇レベルによる分類で、下へ行くほど敬意が低い。

韓国語の場合は、上向き待遇の対者待遇語として、①합쇼체、②해요체、③하오체、④

하계体の 4 種類が存在し、中立待遇の対者待遇語として、⑤반말体、⑥해라体の 2 種類が存在する。これに関して、梅田(1977)は「上称・略体上称・中称・等称・略体・下称」という名称で 6 つに区分している。

この 6 種類の対者待遇語については、李翊燮・李相億・蔡ワン(2004)を参考に以下のよう

- ①합쇼체：韓国語の対者敬語法の 6 等級のうち最も丁重に、最も恭しく遇する最上級の言葉遣いである。(中略)目上の人だけに使えるという点で、同位ないし下位の人にも使える②해요체と区別され、同じ目上の人に使うといっても、②해요体を使うときよりも丁重の度合いが異なり、格式性を帯びるという点で②해요体と区別される。
- ②해요체：聴者が自分より上位の人であったり、上位になくとも丁重に遇すべき人であったりするときに使う言葉遣いとして、今日最も広く使われている等級である。上位の人にもあまり格式ばらないときには합쇼体より해요体が多く使われるが、同位や下位の人にある人には①합쇼体が不適切で、この人たちに尊待語を使おうとするときは、②해요体を使うことになるので、②해요体は自然に幅広く使われる。
- ③하오체：自分より下の人に使うが、その下の人を丁重に遇しようとする言葉遣いであり、その丁重さの程度が④하계体より一等級上である。
- ④하계体：聴者が話者より年齢や社会的な地位が下の場合に使われるが、その人を⑤반말体、⑥해라体のときより軽く考えず、応分の待遇をする場合に使用される。
- ⑤반말体：聴者との距離を⑥해라体より若干多めにとり、いくらかでもその聴者を慎重に遇する機能がある。
- ⑥해라体：この等級は気の置けない友達に、あるいは父母が子供に、あるいは年配の話者が小学生や中学生程度の幼い子供を相手に使う等級である。もともと最下位の等級であるために、友達同士であったとしても中年や老年になれば、使いにくくなる等級である。

この 6 種類の対者待遇語は、以下のような表現体系を成す。

表 1-9 によると、日本語と韓国語の待遇表現を比較してきたが、日本語の場合、上向き待遇と中立待遇の 2 種類の対者待遇語を使い分けるのに対して、韓国語の場合は 6 種類の対者待遇語の形式を使い分けるため、対者待遇語の種類に大きな違いがあるということがわかる。

表 1-9 韓国語の対者待遇語の表現体系 (李翊燮・李相億・蔡ワン 2004 をもとに作成)

文末語尾	待遇の向き	平叙文	疑問文	命令文	勧誘文
①합쇼체	上向き待遇	막습니다 작습니다 ¹⁰	막습니까 작습니까	막으십시오 /	막으십시오 /
②해요체		막아요 작아요	막아요 작아요	막아요 /	막아요 /
③하오체		막으오 작으오	막으오 작아오	막으오 /	막읍시다 /
④하게체		막네 작네	막나 작은가	막게 /	막세 /
⑤반말체	中立待遇	막아 작아	막아 작아	막아 /	막아 /
⑥해라체		막는다 작다	막느냐 작느냐	막아라 /	막자 /

韓国語の待遇表現は文末の終助詞によって集約的に表現されるのが特徴で、この終助詞の群は 3 つあるいは 5 つに分類される。日本語との関連と実用性を考慮した分類については、李・金(2010)が、以下のように待遇表現を 4 つに分類している。この分類は、本稿での韓国語の文末句において待遇表現の基準として使用していく。

表 1-10 待遇表現のクラス分類(李・金 2010 をもとに作成)

クラス 分類基準	Aクラス 합니다体 (丁寧体) ~でございます	Bクラス 해요체 (丁寧体) ~です	Cクラス 해체 (普通体) ~だ	Dクラス 다체 (普通体) ~だ
丁寧さ	最上	上	中	最下
親近感	最下	中	上	最上
使用対象	‘よそ’の人 一般、目上の人	親しい目上の人	親しい同年輩	年少児 兄弟 子供

—입니다/—입니까?体を A クラス(日本語では「~でございます」に当たる)、—아・—어요/—아・—어요?体(—です、ます)を B クラス、—다・—이다/—니?・—이니?を D クラス、それ以外の—아・—어/—아・—어?体を C クラスとする。

次に、韓国語の敬意を表す表現である。韓国語は名詞、助詞、形容詞、動詞のすべてに

¹⁰ 「막습니다」(防ぎます)。辞書形は「막다」(防ぐ)。「작습니다」(小さいです)。辞書形は「작다」(小さい)。

敬語表現を構成する。一つの形式を備えた敬語表現から、すべての形式において敬語表現を備えるものまでさまざまなレベルの複雑な敬語表現が存在する。以下の例は、下に行くほど高い待遇を表す。

- 어머니가 예쁜 모습으로 들어온다. (母がきれいな姿で入る)
어머니가 예쁜 모습으로 들어오신다. (動詞のみ尊敬法)
母がきれいな姿でお入りになられます。
어머님이 예쁜 모습으로 들어오신다. (名詞、動詞)
어머님께서 예쁜 모습으로 들어오신다. (名詞、助詞、動詞)
어머님께서 예쁘신 모습으로 들어오신다. (名詞、助詞、形容詞、動詞)
어머님께옵서 예쁘신 모습으로 들어오신다。
お母様がおきれいな姿でお入りになられます。

曹美庚(2003)より

5.2 日本語と韓国語の授受動詞

次に、依頼表現に用いられる授受動詞に関して見ていく。まず、日韓の授受動詞を比較し、続いて、依頼表現に用いられる授受動詞について述べる。韓国語には、日本語と同様に授受動詞がある。

日本語の授受動詞は、与え手を主格に取る授与動詞「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」と受け手を主格に取る受納動詞「もらう」「いただく」を指し、それぞれが補助動詞用法で用いられる。

一方で、韓国語の授受動詞は、授与動詞として非敬語形の「주다」(やる/あげる/くれる)と「주다」に尊敬接辞「시」の付いた尊敬語形の「주시다」(くださる)および語彙的謙讓語形の「드리다」(さしあげる)が用いられ、受納動詞として非敬語形の「받다」(もらう)が存在する。また、「주다」「주시다」「드리다」には補助動詞用法があるが、「받다」には日本語の「(て)もらう」のような補助動詞用法がないため、日本語の「(て)もらえますか?」「(て)いただけますか?」のような受納動詞を用いた依頼表現に相当する表現は、韓国語には存在しない。

つまり、「주다」(「くれる」「やる」「あげる」)には、人称的方向性による区別がないため、必ず主語が必要になる。そのため、韓国語の「주다」を使った授受表現は、以下のように表現される。

例 3 친구가 네 사진을 찍어 주었다. (友だちが私の写真を撮ってくれた)

例 4 친구에게 네 사진을 찍어 주었다. (友だちに私の写真を撮ってあげた)

朴三植・韓晶恵(2012)より

一方、上述のように日本語の「～もらう」に当たる韓国語の受納動詞「받다」には、補助動詞の機能はないため、以下の例6のように使えず、依頼表現「～してもらえる?」、「～してもらえますか?」等の形で使用することができない。

例5 ○친구에게서 생일 선물을 받다. (友達から誕生日プレゼントをもらう)

例6 ×친구에게서 답을 가르쳐 받다. (友達から答えを教えてもらう)

また、井出・任(2001)は、日韓における授受動詞の視点の有無の違いに関して「韓国語の授受動詞には、ウチからヨソ、ヨソからウチへの方向性によって区分する視点が存在しないのだ。そのため、日本語で区別される「くれる／あげる」は、ともに〈주다〉という一つの動詞でしか表されない。」と述べている。「받다」に関しては、視点の有無の違いを具体的に述べていない。

また、韓(2008)では、日本語の「あげる」「くれる」は「移動」を伴わず「恩恵」(授受される対象の好ましき)を表し、韓国語の「주다(あげる／くれる)」は「移動」を表すのに対し、授受される対象が好ましくないものの場合にも使用可能であることから、「恩恵」に関してはその具体物の移動に伴い語用論的に生じるため中立的であると述べている。

以上をふまえ、日本語と韓国語の授受動詞の対応をまとめると以下のようになる。

表 1-11 日本語・韓国語の授受動詞 (日高 2007 をもとに作成)

ヴォイス	人称的方向性	敬意	日本語	韓国語
授与動詞 与え手主格	遠心性	あり	さしあげる	드리다
		なし	やる・あげる	주다
	求心性	あり	くださる	주시다
		なし	くれる	주다
受納動詞 受け手主格		あり	いただく	
		なし	もらう	받다*

日本語の場合、「くれる」「くださる」と「もらう」「いただく」では、格関係は異なるが、同じ恩恵性のある求心性動詞であり、いずれも補助動詞用法が発達し、依頼表現に用いられる。一方で、韓国語の場合は、「주다」が語用論的に恩恵の意味を持ち、補助動詞用法が依頼表現に用いられるが、「받다」には補助動詞用法がないため、依頼表現に用いられない。ここから、日本語と韓国語の依頼表現に用いられる授受動詞は、恩恵性の意味がある動詞の補助動詞用法が依頼表現に用いられているということが言える。

5.3 韓国語の待遇表現のバリエーション

以上、日本語と韓国語における依頼表現に用いられる授受動詞の違いを見てきた。次に、

韓国語の待遇表現のバリエーションを整理するため、依頼表現のバリエーションを例に述べていく。荻野他(1990)は、日本語と韓国語の依頼表現を社会言語学的立場から、日本語と韓国語の大学生を対象に多人数調査を行っているが、その中に「道を教えてくれ」と言うときの「教えてくれ」を日常接する人物にどのようにいうかという調査において、記述式アンケートを実施し、使用される依頼表現を把握したうえで、選択式アンケート調査の選択項目に 26 の依頼表現を挙げている。

- A 가르쳐 주시겠습니까? (教えてくださいますか?)
- B 가르쳐 주실 수 없을까요? (教えてくださいることはできないでしょうか?)
- C 가르쳐 주십시오. (教えてくださいませ)
- D 가르쳐 주시지 않겠어요? (教えてくださいらないですか?)
- E 가르쳐 주시겠어요? (教えてくださいますか?)
- F 가르쳐 주세요. (教えてください)
- G 가르쳐 주실래요? (教えてくださいますか?)
- H 가르쳐 줘요. (教えてください)
- I 가르쳐 주시지 않을래요? (教えてくださいませんか?)
- J 가르쳐 주지 않겠어요? (教えてくださいませんか?)
- K 가르쳐 줄 수 없을까요? (教えてくれることはできないでしょうか?)
- L 가르쳐 주겠어요? (教えてくださいますか?)
- M 가르쳐 줄래요? (教えてくださいますか?)
- N 가르쳐 주지 않을래요? (教えてくださいませんか?)
- O 가르쳐 주지 않겠어? (教えてくれないか?)
- P 가르쳐 주겠나? (教えてくれないか?)
- Q 가르쳐 줄 수 있겠니? (教えてくれることはできないか?)
- R 가르쳐 주지. (教えてくれ)
- S 가르쳐 줘. (教えてくれ)
- T 가르쳐 주지 않겠니? (教えてくれないか?)
- U 가르쳐 주겠어? (教えてくれるか?)
- V 가르쳐 나오. (教えなさい¹¹)
- W 가르쳐 주겠니? (教えてくれないか?)
- X 가르쳐 주라. (教えてくれ)
- Y 가르쳐 줄래? (教えてくれる?)
- Z 가르쳐 주지 않을래? (教えてくれない?)

¹¹ 正確には「教えませ」にあたる丁寧体命令形である。

A～Zの表現は、上にいくほど待遇度が高いことを表す。以下の表 1-12 は、上記の 26 の依頼表現を、表 1-9 にあげた文末語尾の類別にもとづき分類したものである。待遇表現の組み合わせとして、尊敬語派生接辞「시」を用いた表現は敬語形とし、丁寧体と普通体の区別を示した。**囲み**で示した「ㄴ래 / 을래」は意志の形式、**太字**で示した「ㄹ

表 1-12 荻野他(1990)における依頼表現の分類

依頼表現	文末語尾	待遇形式の組み合わせ
A 가르쳐 주시 ㄹ 습니까?	①합쇼체	敬語形・丁寧体
B 가르쳐 주실 수 없 을 까요?	②해요체	敬語形・丁寧体
C 가르쳐 주십시오.	①합쇼체	敬語形・丁寧体
D 가르쳐 주시지 않 ㄹ 어요?	②해요체	敬語形・丁寧体
E 가르쳐 주시 ㄹ 어요?	②해요체	敬語形・丁寧体
F 가르쳐 주세요.	②해요체	敬語形・丁寧体
G 가르쳐 주 실 래요?	②해요체	敬語形・丁寧体
H 가르쳐 줘요.	②해요체	敬語形・丁寧体
I 가르쳐 주시지 않 을 래요?	②해요체	敬語形・丁寧体
J 가르쳐 주시지 않 ㄹ 어요?	②해요체	非敬語形・丁寧体
K 가르쳐 줄 수 없 을 까요?	②해요체	非敬語形・丁寧体
L 가르쳐 주 ㄹ 어요?	②해요체	非敬語形・丁寧体
M 가르쳐 줄 래요?	②해요체	非敬語形・丁寧体
N 가르쳐 주시지 않 을 래요?	②해요체	非敬語形・丁寧体
O 가르쳐 주시지 않 ㄹ 어?	⑤반말체	非敬語形・普通体
P 가르쳐 주 ㄹ 나?	⑤반말체	非敬語形・普通体
Q 가르쳐 줄 수 없 ㄹ 니?	⑤반말체	非敬語形・普通体
R 가르쳐 주시.	⑤반말체	非敬語形・普通体
S 가르쳐 줘.	⑤반말체	非敬語形・普通体
T 가르쳐 주시지 않 ㄹ 니?	⑤반말체	非敬語形・普通体
U 가르쳐 주 ㄹ 어?	⑤반말체	非敬語形・普通体
V 가르쳐 다오.	③하오체	非敬語形・丁寧体
W 가르쳐 주 ㄹ 니?	⑤반말체	非敬語形・普通体
X 가르쳐 주라.	⑥해라체	非敬語形・普通体
Y 가르쳐 줄 래?	⑤반말체	非敬語形・普通体
Z 가르쳐 주시지 않 을 래?	⑤반말체	非敬語形・普通体

表 1-9 では 6 種類の文体があげられているが、表 1-12 の 26 の依頼表現では、④하개체를除く 5 つの文体の表現形式が存在することがわかる。

「ㄹ래/올래」は、1 人称主語の場合、話し手の意志を述べる形式であるが、2 人称主語疑問文の場合、聞き手の意志を問う形式になるため、授与動詞「주다」(くれる)に「ㄹ래/올래?」を接続させた G・I・M・N・Y・Z は、聞き手の意志を問う依頼表現となる。本稿では、これらの依頼表現の形式の類別を「意志」とし、「意志肯定疑問類/意志否定疑問類」のように呼んでいく。

A・D・E・J・L・O・P・Q・T・U・W は、「주다」(くれる)に「ㄹ」を接続させた表現になっている。「ㄹ」は、広く未来の出来事を述べる場合に使用されるが、以下にあげる『朝鮮語小辞典』の⑤の用法のように、意向を尋ねる依頼表現に使用される補助語幹である。

① 近い未来に起きることを表す。

잠시 후에 한 시가 되ㄹ습니다. (間もなく一時になります。)

② 話し手・聞き手の意志

꼭 오ㄹ습니다. (必ず来ます。)

무엇을 드시ㄹ습니까? (何を召し上がりますか。)

③ 推測

오후에는 날씨가 맑ㄹ지? (午後には晴れるだろうね。)

④ 可能性・能力

1 등 할 수 있ㄹ니? (1 等になれるのか。)

이 회장은 천 명은 들어ㄹ다. (この会場は 1000 人は入るだろう。)

⑤ 意向を尋ねながら行為を促す。

좀 도와 주ㄹ어? (ちょっと手伝ってくれる?)

⑥ 婉曲的に丁寧な表現を作る。

잘 모르ㄹ습니다. (よく分かりません。)

⑦ …しそうだ。そうだ。

너무 빠ㄹ아서 미ㄹ다. (あまりに忙しくてどうにかなりそうだ。)

⑧ 強調

얼마나 좋ㄹ어요? (どんなにいいでしょうか。)

本稿では、この補助語幹「ㄹ」を用いた依頼表現は「ㄹ래?」の「意志」と区別させるため「未来肯定疑問類/未来否定疑問類」という名称で分類し、分析を行う。

「ㄹ까?/올까?」は、一般的に推量を述べる形式であるが、2 人称主語の場合は、聞き手の意志を問う形式になる。表 3-1 の B・K にあるように、依頼表現では可能の形式に後接して使用される。この場合は聞き手の意志を問うのではなく、未来において聞き手がその行為を行うことが可能であるかを問うものとなる。

B・K・Qは、授与動詞「주다」(くれる)に能力の有無を示す形式「ㄴ/을 수 있다.ㄴ/을 수 없다」(術がある／術がない)(のうちの可能否定の形式)が後接した依頼表現である。ここでは、このような依頼表現を「可能肯定疑問類／可能否定疑問類」と呼んでいく。

上記のとおり、韓国語の依頼表現の場合、日本語には存在しない、相手の意志や能力について言及する形式を依頼表現に用いる。以上から、韓国語の依頼表現は、日本語とは異なる構文を依頼表現に用いるという違いがあることがわかる。

この他にも、生越(1995)や河村(1993)のように日本語と韓国語の依頼表現の比較から、韓国語には、勧誘表現「하나다」「자」を用いて、依頼の意図を示す依頼表現があることを述べているが、本稿では、アンケート調査において回答された依頼表現を調査項目としたため、勧誘表現による依頼表現は、調査対象外とする。

5.4 調査対象とする韓国語の依頼表現

次に、日本語と韓国語の依頼表現を比較するにあたり、調査対象とする韓国語の依頼表現を整理する。以上の分類をもとに、本稿で扱う韓国語の依頼表現を表 1-13 のように示す。

表 1-13 現代韓国語の依頼表現の分類

文末語尾	依頼表現	類別	待遇形式の組み合わせ	記号
⑥해라体	해라. (しろ)	活用形類 (命令形)	I : 非敬語形・普通体	I 0
⑤반말体	해 봐. (してみろ)	活用形類 (ミロ形)	I' 非敬語形・普通体	I 0
	해. (しろ)	活用形類 (命令形)		I 0
	해줘. (してくれ)	命令類 (クレ形)		I C0
	해주겠어? (してくれる?)	未来肯定疑問類		I C1
	해줄래? (してくれるつもり?)	意志肯定疑問類		I C1
	해주지 않을래? (してくれないつもり?)	意志否定疑問類		I C2
	해줄 수 있어? (してくれることはできる?)	可能肯定疑問類		I C3
	해줄 수 없어? (してくれることはできない?)	可能否定疑問類		I C4
②해요体	해줘요? ¹²	命令類	II	II C0

¹² 해줘요?は疑問文であるため「してくれますか?」となるが、平叙文の場合、해줘요.は「してくれませ」となるため、本章では짜여주겠어요?(撮ってくださいませ?)と区別するため、命令類に分類した。

	(してくれますか?)	(クレマスカ形)	非敬語形・ 丁寧体	II C1
	해주겠어요? (して줍니다か)	未来肯定疑問類		
	해줄래요? (してくれるつもりですか)	意志肯定疑問類		
	해주지 않을래요? (してくれないつもりですか)	意志否定疑問類		
	해줄 수 있어요? (してくれることはできますか)	可能肯定疑問類		
	해줄 수 없어요? (してくれることはできませんか)	可能否定疑問類		
②해요체	하세요. (しなさい)	命令類 (ナサイ形)	III 敬語形・ 丁寧体	III 0
	해주세요. (してください)	命令類 (クダサイ形)		III C0
	해주시겠어요? (して드립니다か)	未来肯定疑問類		III C1
	해주실래요? (してくださるつもりですか)	意志肯定疑問類		III C1
	해주시지 않을래요? (してくださらないつもりですか)	意志否定疑問類		III C2
	해주실 수 있어요? (してくださることはできますか)	可能肯定疑問類		III C3
	해주실 수 없어요? (してくださることはできませんか)	可能否定疑問類		III C4
①합쇼체	해주십시오. (して드립니다)	命令類 (クダ사이마세形)	III' 敬語形・ 丁寧体	III C0
	해주시겠습니까? (して드립니다か?)	意志肯定疑問類		III C1

表 1-13 は、語構成で分類しているため、日本語と韓国語で比較しやすくするため逐語訳を()内に示す。荻野他(1990)では、5つの文末語尾の依頼表現が調査対象とされていたが、本研究で行ったアンケート調査では、③하요체를除いた4つの文末語尾が回答されていた。よって、調査対象の依頼表現の待遇形式の組み合わせは、丁寧体と敬語形の組み合わせである「①합쇼체・敬語形(III')」と「②해요체・敬語形(III)」、丁寧体と非敬語形の組み合わせである「②해요체・非敬語形(II)」、普通体と非敬語形の組み合わせである「⑤반말체・

非敬語形(I')」と「㉞하리체・非敬語形(I)」の5つに分類する。各依頼表現には便宜上、記号をつけているが、Cは授受動詞「주다」を示している。各類別を示す記号としては、命令形を0、「肯定疑問類」を1、「否定疑問類」を2、「可能肯定疑問類」を3、「可能否定疑問類」を4としている。

5.5 日本語と韓国語におけるポライトネスの対照

次に、日韓において丁寧さのとらえ方を比較するため、ポライトネスについてまとめている研究を概観する。

まず、日韓における依頼行動への認識に関する研究を見ていく。沖・姜・趙・西尾(2018)では、韓国の社会文化には、積極的に依頼しあうことによって、人間関係を構築していく互恵関係構築文化があるのに対して、日本社会にはそれがないと述べている。「韓国社会の互恵関係はウリ(親密関係)間で成り立ち、(中略)依頼内容は、相手の現在の状況と自己の実情を言葉で率直に伝える。相手の依頼を断ることはできるが、相手が納得する理由が必要である。日本社会には、相手に頼むことからまず始める互恵関係構築文化は無い。自助と、共同体の共助が基本で、個人的な依頼は相手に迷惑をかける行為だと認識されている。場面の意識にもとづいて、状況と心情をそれとなく伝えていくことで、相手の察しを待つ依頼表現が選択される」と述べている。

また、笹川(1999)では、Brown & Levinson(1987)のポライトネス理論を用いて、日本語と韓国語の依頼のポライトネスについて言及している。日本語の場合、「依頼という行為は相手に何らかの精神的・物理的負担をかける行為であり、行為自体が相手に迷惑をかけるもの」であるため、「方略的には、主方略では「積極的な丁寧さの方略」¹³を用い、助力を願い、さらに、遺憾の意を示すなどの「消極的な丁寧さの方略」¹⁴を添えることで、遠慮の意を表していく」と述べている。一方で、韓国語の場合、「親しい相手であれば、頼みやすい行為とされる。(中略)遠慮することは、むしろ相手から不必要な心的距離をとることになりかねない。(中略)積極的な丁寧さの方略のうち、相手を賞賛し、「㉠相手に強い共感を示す」あるいは「㉡互恵性に訴える」方略を用いると述べている。

文化・社会的な志向による発話の丁寧さに関して、鈴木(1989)では、日本語の場合、敬語で表される丁寧さとは別に、聞き手の私的領域に入り込まない発話が丁寧だと述べている。鈴木(1989)は、「聞き手の私的領域」について「「聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚など、個人のアイデンティティに深く関わる領域」のことで、「欲求・願望・意志・感情・感覚」といった事柄に抵触するような以下のような表現について「丁寧さに欠ける失礼な発話になるか、皮肉・非難・叱責等と受け取られる。あるいは、スタイルの丁寧さと内容のアンバランスから、不自然な文か非文となる」と述べている。

¹³ 「積極的な丁寧さの方略」は、本稿の「ポジティブ・ストラテジー」と同じものである。

¹⁴ 「消極的な丁寧さの方略」は、本稿の「ネガティブ・ストラテジー」と同じものである。

- ・ 先生、アイスクリーム召し上がりたいですか。(欲求・願望)
- ・ (あなたは)喜んでいらっしゃいますか。(感情・心理・感覚)
- ・ 夏休みは何をなさるおつもりですか。(意志)
- ・ この漢字お読みになれますか。(能力・行為の実現可能性)

鈴木(1989)より

一方で、韓国語の場合は、任・井出(2004)では、初対面の学生の会話を収録し、その中から以下のような会話を紹介している。

学生 A: 남자 친구 있어요? (ボーイフレンドいますか)

学生 B: 아니오 없어요. (いいえ、いません)

学生 A: 왜 남자 친구가 없어요? 예쁜데.

(どうしてボーイフレンドがいないんですか。きれいなのに)

日本語では、上記のような会話は「聞き手の私的領域」に踏み込んだ話題であるため、初対面では避けられると思われるが、韓国語の場合、円滑なコミュニケーションを行う上で、相手に対する関心をはっきり示すことが親近感を生み出すととらえられるため、上記のような会話が初対面であっても行われる。

「配慮」の示し方の違いについては、生越(2012)では、「韓国では親しい相手が自分のものを使うとき、自分に何も言わずに使っても問題ない。あるいは、親しい相手が何かしてくれても感謝の言葉を言わなくてもよい。一方で、日本では同様の行為をされると不愉快に感じる。この違いについて、韓国は親しい間柄では「配慮」をしないと捉える見方もあるが、何も言わないことによってお互いの親しさを確認しているのだから、そういう行為も「配慮」の1つだと捉えるべきであろう」と日本と韓国における配慮の示し方には違いがあることを述べている。

以上、日韓両言語において、依頼場面におけるストラテジーの選択の違いや、文化・社会的志向による丁寧さの基準や配慮の示し方に違いがあるということをまとめた。

5.6 対人意識に関する日韓対照研究の先行研究

以下では、対人意識に関する日韓対照研究をまとめる。巖(2012)では、三宅(1994)が提唱する日本人の認知構造や思考パターン、言語行動などを左右する枠組みである「ウチ・ソト・ヨソ」の概念を採用し、韓国人の認知パターンである「ウリ・ナム」の概念を用いながら、日韓における敬語行動の比較している。「日本の「ウチ」の人間は家族や自分の所属している会社や組織、グループの人のようなごく親しい内輪の人々であるのに対して、「ソト」の人間はあまり親しくないが自己や「ウチ」の人々と関連のある人である。さらに、「ヨソ」の人間は自己と「ウチ」とは関わりのない他人を意味する。」と述べ、日本語の場合、

「ウチ・ソト」と「ヨソ」の関係性が敬語表現を選択する際の一次的な文化的要因であるため、相手によって相対的に表現の選択を行う」とある。一方で、「韓国では「Uri」と「ナム」の二つの人間層があり、「Uri」は、日本の「ウチ」と「ソト」の両方の人間層を含む様々な共同体で成り立っているものである。「ナム」は日本の「ヨソ」の層と同じく、通常自己とは関係のない他人の層」をさす。韓国語の場合、「Uri」の中で自己と相手の関係で考えなければならない言語選択の諸要因、中でも年齢や上下関係のような絶対的要因に従って言語選択をしている。」と述べている。

敬語意識の日韓比較の調査として、洪(2007)は、「年齢による上下敬語意識は韓国人が高く、その場の立場や役割などによる左右敬語意識は日本人が相対的に高い」と述べている。

第三者敬語の使用実態としては、金(2006)や金(2008)があげられる。日本語では第三者が話し手にとって身近な場合は高めないが、韓国語では、話し手にとって身近な場合であってもなくても上位者である第三者を高める傾向が強くと日韓の敬語運用の差異を述べる一方で、韓国語の場合、「聞き手が同等である場合は、第三者が上位者であっても高めない「絶対敬語の相対敬語化」の傾向があることを指摘している。また、日韓の大学生を対象としたアンケート調査から他称詞と述語待遇選択の関係を調査した林・玉岡・宮岡(2004)と林・玉岡・宮岡(2008)では、日本語の場合は、相対的な敬語の使い分け、韓国語の場合は、絶対的な敬語の使い分けというそれぞれの規範が、規範意識が弱まりやすい友達が聞き手の場合、規範から外れた表現を使用しやすいと述べている。

日韓の依頼行動の比較については、尾崎(2008)では、対人的距離が異なる3種の相手を想定させ、相手への負荷の度合いが異なる2種類の依頼行動をそれぞれの相手に対しする可否かについて世代別と地域別のアンケート調査を行っている。その結果、日韓で大きな差は認められないが、対人的距離が近い相手に対し、また重い内容の依頼をする際に、韓国人は日本人よりも依頼する人の割合が高いと述べている。

依頼談話において談話構造とストラテジーの観点で日韓対照した調査で、柳(2012)は、日本語では依頼に関する情報を少しずつ提示しながら依頼する「小出し段階踏み型の談話展開」で、相手に対する依頼の「負担感の軽減を重視する」ストラテジーを使う一方、韓国語は情報を一括で述べた上で依頼をする『一括出し合い型』の談話展開で、相手に対する依頼の「負担感の埋め合わせを図る」ストラテジーを使うことを明らかにしている。

対者待遇の使い分けに関しては、日本語と韓国語の依頼表現の形式を社会言語学的観点から調査した荻野他(1990)があげられる。荻野他(1990)は、日韓の大学生を対象に複数の日常接する人物それぞれに対して「道を教えてくれ」の「教えてくれ」をどのように言うかを調査した。この調査によると、日本語では聞き手に対し丁寧に待遇するかそうでないかで二分する傾向があり、それが表現面で「です・ます」の使用に対応しているが、韓国語では、聞き手をもっと細かい待遇段階別に区分しており、表現の面において丁寧度を左右するのは待遇語尾の細かい区分と尊敬接辞「시」の使用の有無によって使い分けがされる。また、日本語は、社会的役割や親疎関係をより重視するが、韓国語は年齢差をより重視す

ると述べている。

以上、日韓における対人意識に関する対照研究に関して概観してきたが、上記の調査をふまえて、本稿における比較対象を述べる。先行研究では、敬語運用や敬語意識の違いに関する調査や、依頼表現では、依頼行動の意識調査や談話構造やストラテジーの観点といった研究は見受けられるが、両言語の依頼表現のバリエーションを丁寧さの表し方という観点で、その言語構造を比較する研究はなされていない。依頼の負担度については、依頼行動の調査はされているが、どの依頼表現が選択されるのかについては調査されていない。

また、本稿では、日韓の依頼表現のバリエーションの広がり方の方向性の違いを明らかにすることを目的とするため、まず、第6章で、荻野他(1990)のように、依頼場面を設定した記述式アンケートの回答から得られた依頼表現を選択肢とするアンケート調査を行い、日本語と韓国語で比較を行う。また、日本語と韓国語における新しい依頼表現の形式を調査する必要があるため、第7章で依頼表現の世代別の使用動態を調査する。分析の基準として、先行研究で扱っていない上下関係と親疎関係、依頼の負担度を複合的に設定したアンケート調査を行う。また、学習者向けの教科書の学習項目から規範とされている依頼表現を調べ、世代別の使用動態の結果と比較することで、新しい依頼表現について考察する。

6. 本研究の意義

以上の先行研究をふまえて、本研究は依頼表現のバリエーションの使い分けに関して、特に新しい依頼の形式であるモラウ系許可求め類の表現の使用実態を明らかにする。これは、新しい依頼表現が生み出される要因と、現在進行中のその定着過程を観察する調査として意義があるといえる。

7. 本稿の構成

本稿は、7章で構成されている。第1章では、研究の枠組みを示した。ここでは、現在使用される依頼表現を体系的に整理するため、行為要求表現の変遷と現代の依頼表現に関する先行研究を概観し、依頼表現を分類した。その中で、新しい依頼の形式であるモラウ系許可求め類の表現に着目し、調査することの意義を述べた。

次に、社会言語学的観点から、各依頼表現のバリエーションがどのような相手に使用されやすいのかを世代別のアンケート調査を通して第2章で明らかにし、使用されやすい聞き手の属性については第3章で言及する。

第2章では、モラウ系許可求め類の表現の使用動態を調査するため、世代別のアンケート調査を行った結果を分析する。モラウ系許可求め類の表現は、若年層において許容度が高いことが言われている。よって、この調査からモラウ系許可求め類の使用範囲には世代でどのような差が現れるのかを述べる。

第3章は、第2章の調査から明らかになった、モラウ系許可求め類の表現が疎の関係の人物に使用されやすいという結果をふまえて、使用の許容度が高い若年層を対象に、疎の

関係の人物に対する依頼場面を複数設定したアンケート調査の結果を分析する。調査には、聞き手の属性をさらに詳細にするため、上下関係や親疎関係のほかに、役割関係や人間関係の継続性の有無を分析の基準をしている。ここから、モラウ系許可求め類がどのような疎の関係の人物との場面において使用されやすいのかを述べる。

続いて、第4章と第5章は、モラウ系許可求め類がどのような場面において使用が拡大しているのかをより詳細にするため、国会会議録の資料を用い、語用論的なアプローチから、モラウ系肯定疑問類「ていただけますか」・モラウ系否定疑問類「ていただけませんか」・モラウ系許可求め類の3種類の構文の使い分けを考察する。

第4章は、国会会議録から用例調査を行い、モラウ系肯定疑問類・モラウ系否定疑問類・モラウ系許可求め類に前接する動詞を分析する。その分類として、依頼内容がその場で遂行され完結するか否かという発話現場実現性の有無に着目し、モラウ系許可求め表現が発話現場実現のある場面において使用されやすいことを述べる。

第5章は、国会会議録を質問談話として捉え、モラウ系肯定疑問類、モラウ系否定疑問類、モラウ系許可求め類の表現が、談話を展開させるうえで、どの位置に現れ、どのような働きをしているのかを明らかにするため、談話分析を行う。

最後に、モラウ系許可求め類の表現のように、新しい依頼表現がなぜ生み出されるのか、対照社会言語学の観点から、韓国語の依頼表現と対照することで、そのバリエーションの広がり方の方向性を第6章と第7章において明らかにする。

第6章は、日本語と韓国語の依頼表現を対照するため、先行研究をもとに依頼表現を体系的に整理した。そして、それらの使用実態を調査するため、若年層を対象にアンケート調査を行った。その結果を述べる。

第7章は、日韓における世代別の動態調査を行い、さらに日本語と韓国語の学習者向けの教科書の用例調査から、規範的な依頼表現を示したうえで、日本語ではモラウ系許可求め類の表現、韓国語では可能肯定疑問類の表現が新しい形式の依頼表現で、現在使用が拡大し定着しつつある表現であることを示す。そして、最後に日本語と韓国語の依頼表現のバリエーションの広がり方を対照し、依頼表現のバリエーションが多様になっていく方向性の差異に関して述べる。

以上の調査を通して、モラウ系許可求め類の表現がどのような場面において使用が定着し、使用が拡大しているのかを述べる。そして、なぜ新しい依頼表現が現代において出現したのか。その背景には相手への配慮として場面に合わせて表現を使い分けるようとする話し手の意識が反映していることを述べる。そして、丁寧さの表し方の異なる社会では、その社会に合った丁寧さの表し方を反映させた新しい依頼表現が生み出されるということを述べる。

第2章 モラウ系許可求め類の表現の使用動態

1. はじめに

第1章では、現代使用される日本語の依頼表現を整理し、その中で、モラウ系許可求め類の表現が2000年以降にその使用が拡大していることを述べた。その背景として、依頼のような対人配慮の必要な場面では、聞き手や場面に応じて、より丁寧な表現が選ばれるということが関係している。そのため、依頼の典型的な表現である「してください」という一方的な表現よりも、「していただけますか」「していただけますか」のような疑問文の表現のほうが、聞き手に決定権があるという点で丁寧な表現であるが、これらの依頼表現よりさらに丁寧な表現として、モラウ系許可求め類の表現への置き換えが起きている。蒲谷(2013)は、「行動」するのは自分で、行動の「決定権」は相手にあり、その行動から「利益・恩恵」を受けるのは自分であるということを示す文構造を持つ言語行為が、丁寧さの原理にあった最も丁寧な表現になることから、指示・命令表現と依頼表現は、以下のように、丁寧さの原理にあわせて最も丁寧な許可求め表現に言い換えることが可能であると述べている。

「シテクダサイ」(指示) → 「許可求め型表現」

例(事務所の人が書類を渡して)

「ここに署名してください。」 → 「ここに署名してもらってもいいですか。」

「シテモラエマスカ」(依頼) → 「許可求め型表現」

例「教えてもらえますか」 → 「教えてもらってもいいですか。」

蒲谷(2013)より

しかし、本来ならば、指示や依頼の表現を使用する場面で、自分の行動に対して相手の許可を求める表現を使用していることから、以下のように、高年層からは「回りくどい」などと否定的な印象を受けやすいとされている。

「～してもらってもいいですか」は、依頼するのではなく、許可を求める表現で、イエス・ノーを言う権限のある人にそのどちらかを尋ねる表現です。相手に許可を求める場面ではなく、お願いをする依頼の場面では、「～してください」「～していただけますか」「～していただけますか」「～していただけますか」「～していただけますか」「～していただけますか」などと言うのが適当です。

砂川(2005) 下線は筆者による

また、許可求め表現が高年層では否定的に捉えられているという点から、敬語のマニュアル本では、ビジネスにおける依頼場面での許可求め表現に関して、その使用を抑制する

ような記述と依頼の場面での使用を推奨する表現が荒木(2008)のように解説されている。

もってまわった変な言い方に聞こえます。前出の言い方、最近、テレビでも、接客販売の仕事などでもよく耳にする。人にものを頼むときの言い方ですが、変に丁寧で、遠慮しすぎる感じがします。なるべく直接的表現を避けて、遠回しに言うことで、人間関係を円滑にしようとしているのでしょうか。「～してもらってもいいですか」は、自分が恩恵を受けることに許可を求める表現です。相手の行為を頼む表現ではないのです。

お得意先のお客様に「B 様のお名前、ここに書いてもらっていいですか」
後輩の社員に「この資料、至急送ってもらっていい？」→「～いただけますか」

荒木(2008) 下線は筆者による

このように、依頼場面において、許可求め表現が否定的に捉えられる理由の一つとして、砂川(2006)では、次のように述べている。依頼・指示・命令の表現は、「聞き手を動かして何かをさせる」表現であるが、許可求めの表現はイエス・ノー疑問文で「聞き手に動く意向があるのかないのかの答えをさせる」表現である。よって、「イエスカノーかを選ぶ余地の制限された人たちに対してどちらを選ぶかを尋ねる表現が使われている」ことが、おかしいと感じる原因になっていると述べている。

よって、モラウ系許可求め類は、若年層には受け入れられているようだが、否定的に捉えている高年層とでは、その使用に世代差が見られると思われる。尾崎(2015)では、岡山市での多人数調査(2013年)から、世代別で「てくれる」から「てもらって(も)いい？」への置き換えが進んでいることを述べている。また、文化庁文化語科(2008)の調査では、比較的許容度の高い若年層においても、友人同士のような内輪で使用されやすいが、ビジネスの場面では許容されにくいという結果であった。よって、若年層では、どのような場面において使用が拡大しているのかを調査するため、本章ではモラウ系許可求め類の使用動態を調査する。

2. 先行研究

まず、これまで研究されてきた依頼表現に関する先行研究及び、日本語記述文法研究会(2003)がまとめた記述文法書にあげられている依頼表現を見ていく。それらの中で依頼表現として扱われている形式をまとめ、本調査の必要性を述べたい。ここでは、先行研究の中で依頼表現として扱っている表現をまとめる際の基準として、第1章で述べた表 1-7(本章では表 2-1 と表記する)の分類を用いる。表 2-1 では、分析の対象とする行為要求表現の待遇形式の組み合わせを、(Ⅰ) 非敬語形・普通体、(Ⅱ) 非敬語形・丁寧体、(Ⅲ) 敬語形・丁寧体に大別し、各表現の分類は「しろ、して、してくれ」のような命令形、「してくれる？してもらえる？」のような肯定疑問類、「してくれない？してもらえない？」のような否定

疑問類、「してもらってもいい？」のようなモラウ系許可求め類の4つに分類している。

表 2-1 現代日本語の依頼表現の分類

待遇形式の 組み合わせ	依頼表現	類別	記号
(I) 非敬語形・ 普通体	しろ	活用形類 (命令形)	I 0
	して	活用形類 (テ形)	I 1
	してくれ	クレル系命令類 (クレ形)	I K0
	してくれる?	クレル系肯定疑問類	I K1
	してくれない?	クレル系否定疑問類	I K2
	してもらえる?	モラウ系肯定疑問類	I M1
	してもらえない?	モラウ系否定疑問類	I M2
	してもらって(も)いい?	モラウ系許可求め類	I M3
(II) 非敬語形・ 丁寧体	してくれますか	クレル系肯定疑問類	II K1
	くれませんか	クレル系否定疑問類	II K2
	してもらえますか	モラウ系肯定疑問類	II M1
	してもらえませんか	モラウ系否定疑問類	II M1
	してもらって(も)いいですか	モラウ系許可求め類	II M3
(III) 敬語形・ 丁寧体	してください	クレル系命令類 (クダサイ形)	III K0
	くださいますか	クレル系肯定疑問類	III K1
	くださいませんか	クレル系否定疑問類	III K2
	していただけますか	モラウ系肯定疑問類	III M1
	していただけませんか	モラウ系否定疑問類	III M2
	していただいて(も)いいですか	モラウ系許可求め類	III M3

現代日本語の依頼表現を取り上げた先行研究のうち、岡本(1988)、宮地(1995)では慣習的な依頼の形式をあげ、山田(2004)では授受動詞を用いた依頼の形式をまとめている。また、自由記述式のアンケート調査を行い、一般的に使用される依頼の形式を調査したうえで、外国語との比較を行った井出他(1986)や荻野他(1990)、金(2000)、相原(2008)など、依頼表現に関して研究されたものなどが存在する。表 2-2 によると、モラウ系許可求め類の表現は、山田(2004)、相原(2008)、山岡(2008)で扱われている。つまり、モラウ系許可求め類の表現は、2000 年以降に使用が拡大し、それに伴って調査対象とする研究も増えているといえる。

しかし、これらの先行研究は、モラウ系許可求め類の表現の使用実態を明らかにするための研究ではない。研究のなかには、上下関係や親疎関係を基準にして調査されているも

のもあるが、いずれも上下関係と親疎関係を別々に分析したものや、上下関係と親疎関係を合わせた調査であっても、親しい友人の場面のみ、のように全ての組み合わせを網羅的に分析したものではない調査である。よって、上下関係と親疎関係の全ての組み合わせを網羅的に分析することは、依頼表現の使い分けを明らかにし、モラウ系許可求め類の表現の使用実態の調査としても意義のあるものになると思われる。

表 2-2 依頼表現に関する先行研究で扱われる依頼の形式

類別	待遇形式の 組み合わせ	井出他 (1986)	岡本 (1986)	荻野他 (1990)	宮地 (1995)	金 (2000)	記述文法 (2003)	山田 (2004)	相原 (2008)	山岡 (2008)
活用形類 (命令形)	I	○	-	○	-	-	-	-	-	-
活用形類 (テ形)	I	-	○	○	-	-	○	○	○	-
活用形類 (クレ形)	I	-	○	○	○	○	○	○	○	-
活用形類 (クダサイ形)	III	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クレル系 肯定疑問類	I	○	○	○	-	○	○	○	○	○
	II	-	-	○	○	-	○	○	-	-
	III	-	○	○	-	-	○	○	-	-
クレル系 否定疑問類	I	-	-	○	-	○	○	○	○	○
	II	○	○	○	○	-	○	○	-	-
	III	○	-	○	-	-	○	○	-	-
モラウ系 肯定疑問類	I	-	○	○	-	○	○	○	○	○
	II	○	○	○	○	-	○	○	-	-
	III	○	-	○	○	-	○	○	○	-
モラウ系 否定疑問類	I	-	○	○	-	○	○	○	○	-
	II	-	-	○	○	-	○	○	○	-
	III	○	○	○	○	-	○	○	○	-
モラウ系 許可求め類	I	-	-	-	-	-	-	○	○	○
	II	-	-	-	-	-	-	○	○	-
	III	-	-	-	-	-	-	○	-	-

本章では、依頼場面における許可求め表現がどのような場面において使用されやすいのかを、さらに詳細に調査すべく、負担度の異なる 2 つの場面を設定し、複数の依頼表現と比較しながら、その使用傾向を明らかにする。

3. 調査概要及び調査結果

本章では、筆者が 2014 年に行った依頼表現に関するアンケート調査のデータを分析する。以下に、アンケートの概要を示す。アンケートの全文は資料編に掲載する。

1) 回答者

若年層：関西大学の学生 100 名、1986～2002 年生まれ(10 代 53 人、20 代 47 人、男性 45 名、女性 55 名) / 出身地：大阪府 47 名、京都府 8 名、滋賀県 5 名、奈良県 5 名、兵庫県 27 名、石川県 1 名、富山県 1 名、愛知県 2 名、愛媛県 1 名、広島県 2 名、徳島県 1 名

中高年層¹⁵：関西在住者 80 名、1937～1965 年生まれ(70 代 12 人、60 代 14 人、50 代 54 人、男性 30 名、女性 50 名) / 出身地：大阪府 41 名、京都府 4 名、滋賀県 1 名、奈良県 2 名、兵庫県 20 名、和歌山県 4 名、岡山県 1 名、徳島県 2 名、広島県 3 名、山口県 1 名、三重県 1 名

2)調査項目

場面 1 次の人にペンを貸してもらいたいとき。(負担度・小)(以下、「ペンを借りる」)

(1)親しい同年代の友人に「ペンを～」

(2)親しい目上の人に「ペンを～」

(3)初対面の同年代の人に「ペンを～」

(4)初対面の目上の人に「ペンを～」

場面 2 次の人と会う約束をしていたが、他の予定が入ったため、日程を変えてもらいたいとき。(負担度・大)(以下、「日程変更」)

(1)親しい同年代の友人に「日程を～」

(2)親しい目上の人に「日程を～」

(3)初対面の同年代の人に「日程を～」

(4)初対面の目上の人に「日程を～」

3)質問項目：選択肢 a～r の中から使うもの全てに○をつける。

a.貸して/変えて b.てくれ c.てくれる? d.てくれない? e.てもらえる? f.てもらえない? g.てもらって(も)いい? h.てくれますか i.てくれませんか j.てもらえますか k.てもらえませんか l.てください m.てくださいますか n.てくれませんか o.ただいただけますか p.ただいただけませんか q.てもらって(も)いいですか r.ただいいて(も)いいですか

以下、図 2-1 に場面 1 のペンを借りる場面の調査結果、図 2-2 に場面 2 の日程変更の場面の調査結果を示す。アンケート調査は、使用する表現のすべてに○をするという複数回答タイプの実施したため、%の合計が 100 を超える。

分析は、主にモラウ系許可求め類について若年層と中高年層の使用傾向を相手ごとに述べていく。ここでは、特に特徴的な結果が得られたと思われる、親しい同年代の場合と初対面の目上の場合、初対面の同年代の場合の結果を見ていく。

¹⁵ 本調査の中高年層のデータは、60 代や 70 代のデータも含んでいるが、50 代が最も多い。結果を集計したところ、世代差が見られなかったため、中高年層というまとまりで分析している。

図 2-1 場面 1 (ペンを借りる) の依頼表現

		実数(%)	親しい同年代	親しい目上	初対面の同年代	初対面の目上
10 20 代	I	貸して	65 (65%)	3 (3%)	1 (1%)	0 (0%)
		貸してくれ	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
		貸してくれる?	23 (23%)	2 (2%)	11 (11%)	0 (0%)
		貸してくれない?	22 (22%)	5 (5%)	6 (6%)	0 (0%)
		貸してもらえる?	18 (18%)	2 (2%)	14 (14%)	0 (0%)
		貸してもらえない?	8 (8%)	5 (5%)	6 (6%)	0 (0%)
	II	貸してもらって(もいい)?	44 (44%)	6 (6%)	36 (36%)	0 (0%)
		貸してくれますか	2 (2%)	15 (15%)	6 (6%)	0 (0%)
		貸してくれませんか	3 (3%)	31 (31%)	20 (20%)	0 (0%)
		貸してもらえますか	2 (2%)	34 (34%)	23 (23%)	8 (8%)
		貸してもらえませんか	0 (0%)	39 (39%)	24 (24%)	20 (20%)
		貸してもらって(もいい)ですか	2 (2%)	43 (43%)	40 (40%)	31 (31%)
III	貸してください	8 (8%)	28 (28%)	4 (4%)	5 (5%)	
	貸してくださいませんか	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	
	貸していただけますか	0 (0%)	2 (2%)	1 (1%)	18 (18%)	
	貸していただけますか	0 (0%)	3 (3%)	8 (8%)	25 (25%)	
	貸していただけますか	0 (0%)	10 (10%)	8 (8%)	42 (42%)	
	貸していただいて(もいい)ですか	0 (0%)	3 (3%)	5 (5%)	47 (47%)	
50 代 以上	I	貸して	49 (61%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
		貸してくれ	8 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
		貸してくれる?	45 (56%)	4 (5%)	6 (8%)	0 (0%)
		貸してくれない?	14 (18%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)
		貸してもらえる?	21 (26%)	6 (8%)	5 (6%)	0 (0%)
		貸してもらえない?	8 (10%)	2 (3%)	2 (3%)	0 (0%)
	II	貸してもらって(もいい)?	19 (24%)	6 (8%)	6 (8%)	0 (0%)
		貸してくれますか	3 (4%)	7 (9%)	7 (9%)	2 (3%)
		貸してくれませんか	2 (3%)	13 (16%)	15 (19%)	2 (3%)
		貸してもらえますか	6 (8%)	31 (39%)	28 (35%)	8 (10%)
		貸してもらえませんか	3 (4%)	24 (30%)	21 (26%)	10 (13%)
		貸してもらって(もいい)ですか	2 (3%)	22 (28%)	14 (18%)	12 (15%)
III	貸してください	8 (10%)	22 (28%)	10 (13%)	7 (9%)	
	貸してくださいませんか	1 (1%)	5 (6%)	4 (5%)	10 (13%)	
	貸していただけますか	0 (0%)	5 (6%)	9 (11%)	11 (14%)	
	貸していただけますか	2 (3%)	24 (30%)	18 (23%)	32 (40%)	
	貸していただけますか	1 (1%)	18 (23%)	19 (24%)	46 (58%)	
	貸していただいて(もいい)ですか	1 (1%)	5 (6%)	5 (6%)	29 (36%)	

表 2-2 場面 2 (日程変更) の依頼表現

		実数(%)	親しい同年代	親しい目上	初対面の同年代	初対面の目上
10 20 代	I	変えて	11 (11%)	3 (3%)	1 (1%)	0 (0%)
		変えてくれ	7 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
		変えてくれる?	16 (16%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)
		変えてくれない?	35 (35%)	3 (3%)	8 (8%)	0 (0%)
		変えてもらえる?	22 (22%)	3 (3%)	10 (10%)	0 (0%)
		変えてもらえない?	14 (14%)	4 (4%)	3 (3%)	0 (0%)
	II	変えてもらって(もいい)?	67 (67%)	5 (5%)	34 (34%)	0 (0%)
		変えてくれますか	1 (1%)	10 (10%)	10 (10%)	1 (1%)
		変えてくれませんか	0 (0%)	20 (20%)	17 (17%)	5 (5%)
		変えてもらえますか	4 (4%)	26 (26%)	27 (27%)	9 (9%)
		変えてもらえませんか	2 (2%)	43 (43%)	33 (33%)	19 (19%)
		変えてもらって(もいい)ですか	5 (5%)	35 (35%)	37 (37%)	22 (22%)
III	変えてください	2 (2%)	5 (5%)	2 (2%)	2 (2%)	
	変えてくださいませんか	0 (0%)	5 (5%)	2 (2%)	7 (7%)	
	変えていただけますか	0 (0%)	4 (4%)	1 (1%)	15 (15%)	
	変えていただけますか	3 (3%)	6 (6%)	3 (3%)	24 (24%)	
	変えていただけますか	3 (3%)	21 (21%)	5 (5%)	51 (51%)	
	変えていただいて(もいい)ですか	1 (1%)	16 (16%)	6 (6%)	62 (62%)	
50 代 以上	I	変えて	9 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)
		変えてくれ	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
		変えてくれる?	31 (39%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)
		変えてくれない?	18 (23%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)
		変えてもらえる?	32 (40%)	2 (3%)	3 (4%)	0 (0%)
		変えてもらえない?	21 (26%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)
	II	変えてもらって(もいい)?	37 (46%)	9 (11%)	8 (10%)	0 (0%)
		変えてくれますか	4 (5%)	4 (5%)	5 (6%)	2 (3%)
		変えてくれませんか	3 (4%)	8 (10%)	14 (18%)	2 (3%)
		変えてもらえますか	5 (6%)	23 (29%)	23 (29%)	4 (5%)
		変えてもらえませんか	6 (8%)	36 (45%)	27 (34%)	8 (10%)
		変えてもらって(もいい)ですか	4 (5%)	23 (29%)	18 (23%)	15 (19%)
III	変えてください	4 (5%)	2 (3%)	3 (4%)	2 (3%)	
	変えてくださいませんか	0 (0%)	5 (6%)	5 (6%)	8 (10%)	
	変えていただけますか	0 (0%)	10 (13%)	9 (11%)	15 (19%)	
	変えていただけますか	1 (1%)	12 (15%)	15 (19%)	28 (35%)	
	変えていただけますか	0 (0%)	21 (26%)	15 (19%)	41 (51%)	
	変えていただいて(もいい)ですか	1 (1%)	15 (19%)	9 (11%)	43 (54%)	

図 2-3 は、親しい同年代のデータから一部を抜粋したものである。図 2-1 によると、両世代とも、「してもらって(も)いい？」というモラウ系許可求め類を場面 1 より場面 2 において、高い割合で選択している(若年層は 44%から 67%、中高年層は、24%から 46%に上昇)。場面 1 で、中高年層が「してくれる？」を選択しているのに対し、若年層では、「してもらって(も)いい？」が選択されている点は、尾崎(2015)の調査結果と同様の結果となった。一方で、場面 2 の中高年層では、「してくれる？」や「してもらえる？」が選択されているが、若年層では、「してもらって(も)いい？」に回答が集約されている。このことから、若年層では、負担の大きい依頼をするとき、相手を配慮する表現として、モラウ系許可求め類を使用する傾向にあるといえる。

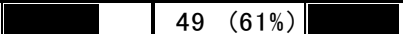
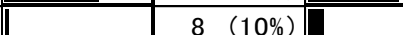
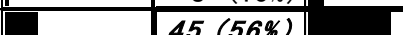
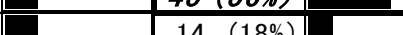
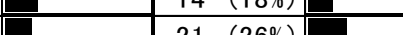
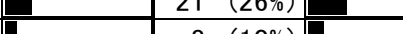
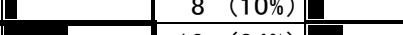
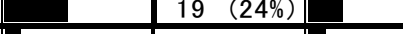
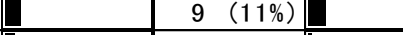
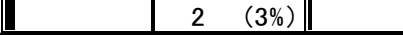
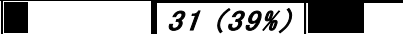
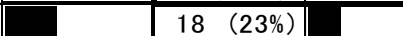
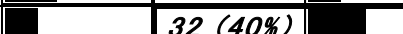
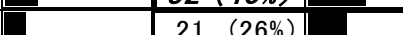
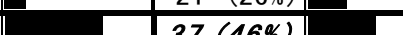
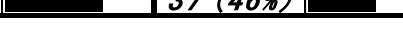



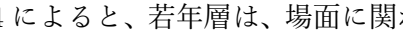
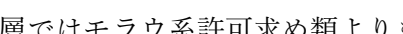
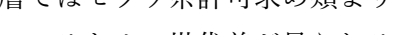
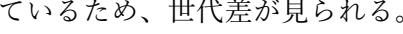
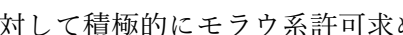




		親しい同年代			
		若年層(10-20代)		高年層(50代以上)	
場面 1	貸して	65 (65%)		49 (61%)	
	貸してくれ	2 (2%)		8 (10%)	
	貸してくれる？	23 (23%)		45 (56%)	
	貸してくれない？	22 (22%)		14 (18%)	
	貸してもらえる？	18 (18%)		21 (26%)	
	貸してもらえない？	8 (8%)		8 (10%)	
	貸してもらって(も)いい？	44 (44%)		19 (24%)	
場面 2	変えて	11 (11%)		9 (11%)	
	変えてくれ	7 (7%)		2 (3%)	
	変えてくれる？	16 (16%)		31 (39%)	
	変えてくれない？	35 (35%)		18 (23%)	
	変えてもらえる？	22 (22%)		32 (40%)	
	変えてもらえない？	14 (14%)		21 (26%)	
	変えてもらって(も)いい？	67 (67%)		37 (46%)	

図 2-3 親しい同年代に対する依頼表現

次に、初対面の同年代の場合を見ていく。図 2-4 によると、若年層は、場面に関わらずモラウ系許可求め類を多数選択しているが、中高年層ではモラウ系許可求め類よりもモラウ系肯定疑問類やモラウ系否定疑問類を多く選択しているため、世代差が見られる。ここから、若年層は中高年層よりも、初対面の同年代に対して積極的にモラウ系許可求め類の使用を取り入れているということがいえる。

		初対面の同年代	
		若年層(10-20代)	高年層(50代以上)
場面1	貸してもらって(も)いい?	36 (36%)	6 (8%)
	貸してくれますか	6 (6%)	7 (9%)
	貸してくれませんか	20 (20%)	15 (19%)
	貸してもらえますか	23 (23%)	28 (35%)
	貸してもらえませんか	24 (24%)	21 (26%)
	貸してもらって(も)いいですか	40 (40%)	14 (18%)
	貸していただけますか	8 (8%)	18 (23%)
	貸していただけませんか	8 (8%)	19 (24%)
	貸していただいて(も)いいですか	5 (5%)	5 (6%)
場面2	変えてもらって(も)いい?	34 (34%)	8 (10%)
	変えてくれますか	10 (10%)	5 (6%)
	変えてくれませんか	17 (17%)	14 (18%)
	変えてもらえますか	27 (27%)	23 (29%)
	変えてもらえませんか	33 (33%)	27 (34%)
	変えてもらって(も)いいですか	37 (37%)	18 (23%)
	変えていただけますか	3 (3%)	15 (19%)
	変えていただけませんか	5 (5%)	15 (19%)
	変えていただいて(も)いいですか	6 (6%)	9 (11%)

図 2-4 初対面の同年代に対する依頼表現

		初対面の目上	
		若年層(10-20代)	高年層(50代以上)
場面1	貸してもらえますか	8 (8%)	8 (10%)
	貸してもらえませんか	20 (20%)	10 (13%)
	貸してもらって(も)いいですか	31 (31%)	12 (15%)
	貸してください	5 (5%)	7 (9%)
	貸していただけますか	5 (5%)	10 (13%)
	貸していただきませんか	18 (18%)	11 (14%)
	貸していただけますか	25 (25%)	32 (40%)
	貸していただけませんか	42 (42%)	46 (58%)
	貸していただいて(も)いいですか	47 (47%)	29 (36%)
場面2	変えてもらえますか	9 (9%)	4 (5%)
	変えてもらえませんか	19 (19%)	8 (10%)
	変えてもらって(も)いいですか	22 (22%)	15 (19%)
	変えてください	2 (2%)	2 (3%)
	変えていただけますか	7 (7%)	8 (10%)
	変えていただきませんか	15 (15%)	15 (19%)
	変えていただけますか	24 (24%)	28 (35%)
	変えていただけませんか	51 (51%)	41 (51%)
	変えていただいて(も)いいですか	62 (62%)	43 (54%)

図 2-5 初対面の目上に対する依頼表現

図 2-5 は初対面の目上の場合である。両世代とも、場面 1 よりも場面 2 において「していただいて(も)いいですか」というモラウ系許可求め類を多数選択している。中高年層の場合、場面 2 において「していただいて(も)いいですか」の回答率が「していただいけませんか」と同様に高い回答率であった。ここから、中高年層も若年層と同様に、モラウ系許可求め類の表現を負担の大きい場面において相手に配慮する表現として捉えている割合が多いということがいえる。

最後に、モラウ系許可求め類の回答率の世代差をわかりやすくするために、該当部分を抜粋したデータを以下、図 2-6 にまとめた。若年層と中高年層を比較すると、いずれの場面においても若年層の方がモラウ系許可求め類を多く回答していることがわかる。また、親しい同世代、初対面の同年代に対する「してもらって(も)いい？」の使用が、若年層において顕著に広がっているといえる。そして、両世代とも、場面 2 での初対面の目上に対する「していただいて(も)いいですか」の回答率が、他の場面と比べて、非常に高い割合で回答されている。

		親しい同年代		親しい目上	
		若年層(10-20代)	高年層(50代以上)	若年層(10-20代)	高年層(50代以上)
場面 1	貸してもらって(も)いい？	44 (44%)	19 (24%)	6 (6%)	6 (8%)
	貸してもらって(も)いいですか	2 (2%)	2 (3%)	43 (43%)	22 (28%)
	貸していただいて(も)いいですか	0 (0%)	1 (1%)	3 (3%)	5 (6%)
場面 2	変えてもらって(も)いい？	67 (67%)	37 (46%)	5 (5%)	9 (11%)
	変えてもらって(も)いいですか	5 (5%)	4 (5%)	35 (35%)	23 (29%)
	変えていただいて(も)いいですか	1 (1%)	1 (1%)	16 (16%)	15 (19%)
		初対面の同年代		初対面の目上	
		若年層(10-20代)	高年層(50代以上)	若年層(10-20代)	高年層(50代以上)
場面 1	貸してもらって(も)いい？	36 (36%)	6 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
	貸してもらって(も)いいですか	40 (40%)	14 (18%)	31 (31%)	12 (15%)
	貸していただいて(も)いいですか	5 (5%)	5 (6%)	47 (47%)	29 (36%)
場面 2	変えてもらって(も)いい？	34 (34%)	8 (10%)	0 (0%)	0 (0%)
	変えてもらって(も)いいですか	37 (37%)	18 (23%)	22 (22%)	15 (19%)
	変えていただいて(も)いいですか	6 (6%)	9 (11%)	62 (62%)	43 (54%)

図 2-5 モラウ系許可求め類の回答率の世代差

若年層特有に見られる結果としては、初対面の同年代と親しい目上への使用が中高年層よりも多いという点である。一方で、中高年層の場合は、負担の大きい依頼場面において親しい同年代と初対面の目上に対して多用する傾向にあるということが分かる。ここから、若年層では、モラウ系許可求め類を使用できる相手の範囲が、中高年層のそれよりも広いということがいえる。

4. まとめと考察

若年層は、全体的に中高年層よりモラウ系許可求め類の表現を多数回答していたが、若年層特有に見られた結果として、親しい目上や初対面の同年代に対しての使用が多数見られた。一方で、中高年層の場合は、若年層と同様に、負担の大きい場面において親しい同

年代や初対面の目上に対しての使用が多数見られた。ここから、両世代ともモラウ系許可求め類の表現を相手に配慮する表現として使用するという認識が、共通しているということがわかった。しかし、中高年層では、若年層の使用範囲よりも、その使用範囲が狭いことから、中高年層が若年層の使用に対して違和感を抱く原因の 1 つとなっているように思われる。

若年層の場合、相手に対して配慮を必要とする場面では、敬語形の表現や肯定疑問類か否定疑問類の形式の選択に加えて、許可求めの構文の使用も相手に配慮する表現として使用する傾向があることが明らかになったが、その中でも「してもらって(も)いいですか」は、親しい目上や初対面の同世代という待遇表現の選択が相反する相手に対して用いている。

モラウ系許可求め類の表現は、初対面の目上で、「していただけますか」と同様に高い割合で、選ばれていたことから、丁寧な表現として捉えられていることがわかるが、親しい目上や初対面の同世代で、「していただけますか」があまり選ばれていない点を見ると、若年層の意識としては、初対面の目上ほど、相手に対する待遇は上げすぎずに相手を配慮する表現として使用しているのではないかと思われる。

一方で、中高年層では、初対面の目上で負担度の大きい場面においてモラウ系許可求め類の表現の回答率が高かったことから、対人的に最も気を使う場面から、その使用が広がり、定着しつつあるということがわかった。

また、尾崎(2015)は、北海道(札幌市・釧路市・富良野市)での多人数調査(2011～2012年)から、「知らない人」に対して使用される傾向があると述べているが、本調査でも「初対面」という同様の結果が得られた。特に、両世代とも、初対面の目上に対して「していただき(も)いいですか」の回答率が非常に高かったことから、疎の関係の人物へ配慮する表現として捉えられている割合は高いということが明らかになった。

第3章 疎の関係の人物に使用されるモラウ系許可求め類の表現

1. はじめに

第2章では、世代別の調査を行ったが、その結果、両世代で負担の大きい場面において初対面の目上に対し「していただいて(も)いいですか」の許容度が高かったということ、若年層において初対面の同年代において選択される傾向があるという結果になった。このことから、疎の関係の人物へ配慮する表現として定着しつつあることがわかった。

この結果をふまえ、本章では、モラウ系許可求め類の表現への許容度が比較的高い若年層を対象に、疎の関係の人物に対して、どのような場面での使用がふさわしいと認識されているのかを調査する。

2. 調査概要

以下に、調査の概要を示す。本調査は、疎の関係の人物への依頼場面で使用する依頼表現に関する2種類の調査を、同一の回答者に対して、期間を隔てて実施した。

<調査1>自由記述式アンケート

1) 回答者

若年層 30名・96～98年生まれ（愛知県2名／京都府2名／奈良県5名／大阪府15名／兵庫県5名／広島県1名）

2) 調査時期：2018年10月

3) 質問項目

- (1) ゼミの先生に対して論文の添削を頼むとき（以下、添削）
- (2) 荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらおうよう頼むとき（以下、エレベーター）
- (3) ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらおうよう頼むとき（以下、ホテル）
- (4) 電車の中で初対面の目上の人に対して、席をつめて座るよう頼むとき（以下、電車）
- (5) 飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため、持ってくるよう頼むとき（以下、飲食店）
- (6) インターネットで購入したDVDが破損していたため、電話で商品の交換を頼むとき（以下、商品交換）

<調査2>選択式アンケート

1) 回答者：<調査1>に同じ

2) 調査時期：2018年11月

3) 質問項目：<調査1>と同場面、選択肢a～iの中から使うもの全てに○をつける。

- (1) ゼミの先生に対して論文の添削を頼む時「すみません、論文の添削を。」
- (2) 荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらうよう頼む時「すみません、1階を押して。」
- (3) ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼む時「すみません、スーツケースを預かって。」
- (4) 電車の中で初対面の目上の人に対して席をつめて座るよう頼む時「すみません、少しつめて。」
- (5) 飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため、持ってくるよう頼むとき「すみません、注文したデザートを持ってきて。」
- (6) インターネットで購入したDVDが破損していたため、電話で商品の交換を頼むとき「すみませんが、購入したDVDが破損していたため、商品の交換を。」

4) 選択肢

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて(も)いいですか h. していただいて(も)よろしいですか i. いずれも使用しない

記述式アンケートでは、(1)~(6)の各場面で使用する表現を回答してもらい、選択式アンケートでは、a~iの中からあてはまるもの全てに○をつけるという内容の調査を行った。選択項目のa~dは、モラウ系疑問類の表現で、e~hはモラウ系許可求め類の表現である。これらの項目は、後で結果を詳しく見ていくが、記述式アンケートの調査でクレル系の表現が回答されていなかったため、これをふまえ、モラウ系の表現のみを調査項目に設定した。

表 3-1 場面設定

場面設定	上下	役割	継続性
(1)ゼミの先生に対して論文の添削を頼むとき〔添削〕	あり	あり	あり
(2)ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼むとき〔ホテル〕	なし	あり	なし
(3)飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため持ってくるよう頼むとき〔飲食店〕	なし	あり	なし
(4)インターネットで購入したDVDが破損していたため、電話で商品の交換を頼むとき〔商品交換〕	なし	あり	なし
(5)荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらうよう頼むとき〔エレベーター〕	あり	なし	なし
(6)電車の中で初対面の目上の人に対して席をつめて座るよう頼むとき〔電車〕	あり	なし	なし

各場面は、表 3-1 のように①上下関係(目上と目下)の有無、②役割関係(学生と先生、客と店員)の有無、③人間関係の継続性の有無の 3 つの基準にあてはめて分けた。この中で(3)(4)(6)の場面は、先行研究の言いにくい事柄を伝える場合という観点から場面を設定して、いずれも疎の人物に対して依頼をしてもいい場面、あるいはしなくてはならない場面を設定した。

3. 分析基準

まず、記述式アンケート調査で得られた回答を、以下表 3-2 の熊谷・篠崎(2006)を参考に、「すみません」のような謝罪、もしくは呼びかけなどといった、相手に対する働きかけの機能を担う最小部分と考えられる単位を分割し、コミュニケーション機能としてどのような要素を持った表現が回答されるのか見ていく。次に選択式アンケート調査の結果と合わせた考察を行い、モラウ系許可求め類の表現が許容され、かつ実際にこの表現を使用することが妥当だとされる場面を明らかにする。

熊谷・篠崎(2006)は、荷物預けの場面において、依頼の意を表明する「行動の促し」の中で「アズカッテクダサイ」という表現は、「預かりの依頼」という「機能的要素」に分類し、「対人配慮」として「スママセンガ」は、「恐縮の表明」に分類している。

表 3-2 コミュニケーション機能と機能的要素の対応一覧
熊谷・篠崎 (2006) 表 3-3 より一部抜粋

コミュニケーション機能	機能的要素	
	荷物預け	往診
行動の促し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かりの依頼 (アズカッテクダサイ) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (ドーデスカ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接的依頼 (キテイタダケマスカ) ・ 伝言形の依頼 (~トイッテマス) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (イカガデショー)
対人配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恐縮の表明 (スママセンガ / オジャマデショーガ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恐縮の表現 (スママセンガ / ヤブン オソレイリマスガ)

表 3-2 を参考に記述式アンケートで得た回答を当てはめて分類の基準を以下、表 3-3 のように定めた。

依頼場面におけるコミュニケーション機能は、「【A】 きりだし」「【B】 状況説明」「【C】 行動の促し」「【D】 対人配慮」に大別し、「【A】 きりだし」は、「注目喚起」、「【B】 状況説明」は、「事情」、「【C】 行動の促し」は、「直接的依頼」「意向の確認」「状況確認」、「【D】 対人配慮」は、「恐縮の表明」「謝罪の表明」「時間うかがい」「相手の都合確認」を項目として立てた。「直接的依頼」は、山岡(2008)が挙げている依頼表現をあげた。

表 3-3 記述式アンケート調査の回答の分類基準

コミュニケーション機能	機能的要素
【A】 ぎりだし	注目喚起：「すみません、」「先生、」
【B】 状況説明	事情：「手がふさがっているので、」「壊れていたのもので、」
【C】 行動の促し	直接的依頼：「お願いします。」「交換してください。」など 意向の確認：「よろしいでしょうか。」 状況確認：「注文は通ってますか。」「まだですか。」など
【D】 対人配慮	恐縮の表明：「申し訳ないのですが、」「お手数ですが、」「失礼します。」 謝罪の表明：「すみません。」 時間うかがい：「時間があれば、」 相手の都合確認：「時間はありますか。」

例えば、例1や例2、例3は、「直接的依頼」の要素を含んだ例である。「お願いします」に関しては、熊谷・篠崎(2006)では「依頼の念押し」に分類しているが、本調査の回答では例2のように回答されており、念押しの機能を持っているとは言えないため「直接的依頼」とした。例3は、4つの項目に分類できると考え、それらを「注目喚起－相手への配慮－直接的依頼－意向の確認」のようにした。「注目喚起」は「すみません。」や「先生」のように相手に呼びかけているものを分類した。

例4での「事情」は、「注文したデザートがまだ来ていないのですが」や「DVDが壊れていたのもので」のような依頼者側の状況を説明するものをいい、「状況確認」は「注文はできていますよね?」「あとどれくらいかかりますか」のような相手側の状況を確認するようなものを分類している。これの他に「対人配慮」として「すみませんが」「失礼します」を「恐縮の表明」、「時間があれば、」を「相手への配慮」、「時間はありますか。」は「相手の都合確認」とした。記述式アンケートの回答は、これらの機能的要素を複数用いて回答しているものが多いため、この組み合わせを1つの表現として1と数え、各場面でのどのような機能的要素の組み合わせを持ったものが回答されるのかを集計した。

- 例1 論文の添削をして頂けませんか?〔直接的依頼〕
→「直接的依頼」の機能的要素が単体で1と数える。
- 例2 添削をお願いします。〔直接的依頼〕
→「直接的依頼」の機能的要素が単体で1と数える。
- 例3 すみません。〔注目喚起〕／もしお時間があれば、〔相手への配慮〕／論文の添削をしていただきたいのですが、〔直接的依頼〕／よろしいでしょうか。〔意向の確認〕
→「注目喚起－相手への配慮－直接的依頼－意向の確認」の機能的要素の組み合わせで1と数える。
- 例4 すみません〔注目喚起〕／注文したデザートがまだ来ていないのですが、〔事情説

明) /注文はできていますよね?〔状況確認〕

→「注目喚起-事情-状況確認」の機能的要素の組み合わせで1と数える。

4. 調査結果

4.1 記述式アンケートの結果

以下では、記述式アンケート調査の結果に関して述べる。表 3-4 は、機能的要素の組み合わせが各場面でどの程度回答されたのかを集計したものであるが、「直接的依頼」の要素を含むか否かで分けて示している。

表 3-4 記述式アンケート 機能的要素の組み合わせ集計結果

機能的要素の組み合わせ		1添削	2ホテル	3飲食店	4商品交換	5エレベーター	6電車
直接的依頼を含む	[C]直接的依頼	11《4》 3(1)	16《4》 3(1)	3《2》 2	2《0》 0	4《3》 3	5《2》 2
	[C]直接的依頼-[C]意向の確認	-	1《0》	-	-	-	-
	[D]恐縮の表明-[C]直接的依頼	1《1》 0(1)	-	-	-	1《1》 1	-
	[B]事情-[C]直接的依頼	-	-	3《1》 1	16《2》 2	-	-
	[B]事情-[C]直接的依頼-[C]意向の確認	-	-	-	2《0》 0	-	-
	[C]直接的依頼-[D]謝罪の表明	-	-	-	-	-	1《0》 0
	[A]注目喚起-[C]直接的依頼	10《4》 2(2)	13《2》 1(1)※	3《1》 1	1《0》 0	20《14》 14	23《13》 13
	[A]注目喚起-[C]直接的依頼-[C]意向の確認	3《0》 0	-	-	-	-	-
	[A]注目喚起-[B]事情-[C]直接的依頼	-	-	4《0》 0	9《0》 0	5《2》 2	-
	[A]注目喚起-[D]相手の都合確認 -[D]恐縮の表明-[C]直接的依頼	1《0》 0	-	-	-	-	-
	[A]注目喚起-[C]直接的依頼 -[D]相手の都合確認	3《0》 0	-	-	-	-	-
	直接的依頼を含まない	[B]事情	-	-	4	-	-
[C]状況確認		-	-	1	-	-	-
[B]事情-[C]状況確認		-	-	2	-	-	-
[A]注目喚起-[D]恐縮の表明		-	-	-	-	-	1
[A]注目喚起-[B]事情		-	-	3	-	-	-
[A]注目喚起-[C]状況確認		-	-	3	-	-	-
[A]注目喚起-[B]事情-[C]状況確認		-	-	4	-	-	-
[A]注目喚起-[D]時間うかがい-[C]意向の確認	1	-	-	-	-	-	

上段：回答数 《 》内：許可求め類の回答数 下段：モラウ系許可求め類の回答数

()内：「お願いしてもいいですか」等モラウ系許可求め類以外の許可求め表現の回答数

※2 ホテルの1(1)は「預かっていただいてもいいですか」1名「預けてもいいですか」1名

まず、(1)添削の場面では、上向き待遇の敬語形式イタダクを用いて相手の「意向の確認」を示す表現や「【C】対人配慮」の「恐縮の表明」や「相手の都合確認」を示す表現が回答

されていた。

次に(2)ホテルの場面では、「直接的依頼」を示す表現のみの回答や「注目喚起－直接的依頼」の要素を含んだ表現が多数見られた。(3)飲食店の場面と(4)商品交換の場面は、「事情」を示す表現が多く、特に(3)飲食店の場面では「直接的依頼」を含まない回答が多かった。(3)飲食店の場面と(4)商品交換の場面では、依頼をするための「事情説明」がされる。

これは、依頼をすることが妥当であるということを説明する必要があるためである。次に(5)エレベーターの場面、(6)電車の場面では、両方とも「注目喚起－直接的依頼」を示す回答が多く見られた。「事情説明」が現れないのは、エレベーターや電車という公共物を皆が利用できるようにする使用するという前提条件が互いに共有されているため、依頼するのに正当な「事情説明」をする必要がないためだと考えられる。

表 3-5 記述式アンケート調査結果 (各場面における表現の回答数と回答率)

	1添削	2ホテル	3飲食店	4商品交換	5エレベーター	6電車
a.してもらえますか	1 (3%)	2 (7%)	2 (7%)	1 (3%)	1 (3%)	3 (10%)
b.してもらえません	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
c.していただけますか	0 (0%)	2 (7%)	1 (3%)	1 (3%)	2 (6%)	5 (17%)
d.していただけませんか	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (6%)
e.してもらって(も)いいですか	1 (3%)	3 (10%)	3 (10%)	2 (7%)	14 (46%)	8 (27%)
f.してもらって(も)よろしいですか	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)
g.していただいて(も)いいですか	2 (7%)	1 (3%)	1 (3%)	0 (0%)	5 (17%)	5 (17%)
h.していただいて(も)よろしいですか	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)
その他	19 (63%)	22 (73%)	23 (77%)	26 (87%)	8 (25%)	5 (17%)

次に、モラウ系許可求め類の表現が記述式アンケートでどの程度回答されるのかをより詳しく見るため、表 3-5 を見ていく。表 3-5 は、選択式アンケートで用いた調査項目の表現を用いて集計したものである。

(1)～(4)の②役割関係が生じる場面においては、a～h の依頼表現よりも、「その他」の表現が回答される。ここでの「その他」の表現は、「直接的依頼」の表現や「直接的依頼」を含まない表現のことである。「直接的依頼」に関しては、各場面での実際の回答で、特に回答数が多かったものをあげると、(1)添削の場面、(2)ホテルの場面、(4)商品交換の場面では「お願いします。」や「お願いしたいのですが」といったお願い類の表現が多い。これに対して、(5)エレベーターの場面と(6)電車の場面では、「e. してもらって(も)いいですか」が最も多く回答されていた。

4.2 選択式アンケートの結果

次は、選択式アンケートの結果で、表 3-6 を見ていく。(1)添削の場面は、①上下関係・②役割関係・③人間関係の継続性がある場面である。ここでは、モラウ系疑問類の表現とモラウ系許可求め類の表現ともイタダクを用いた (c/d/g/h) を回答しているため、上下関係が優先的に働いている場面であると言える。(1)～(4)②役割関係が生じる場面では、モラ

ウ系許可求め類の表現よりも a～d のモラウ系疑問類の表現が高く許容されている。(2)～(6) ③人間関係の継続性が生じない場面においては、「e. してもらってもいいですか」の許容度が高かった。最後に、②役割関係と③人間関係の継続性が生じない場面である(5)エレベーターの場面と(6)電車の場面を見てみると、「e. してもらってもいいですか」が最も許容度が高いという結果になった。

表 3-6 選択式アンケート調査結果 (各場面における表現の許容度)

	1添削	2ホテル	3飲食店	4商品交換	5エレベーター	6電車
a.してもらえますか	8(27%)	23(77%)	17(57%)	17(57%)	17(57%)	11(37%)
b.してもらえませんか	10(33%)	14(47%)	9(30%)	18(60%)	9(30%)	12(40%)
c.していただけますか	18(60%)	15(50%)	10(33%)	16(53%)	14(47%)	9(30%)
d.していただけませんか	22(73%)	10(33%)	5(17%)	11(37%)	9(30%)	11(37%)
e.してもらってもいいですか	10(33%)	18(60%)	17(57%)	15(50%)	19(63%)	17(57%)
f.してもらってもよろしいですか	7(23%)	4(13%)	1(3%)	0(0%)	4(13%)	3(10%)
g.していただいてもいいですか	13(43%)	10(33%)	4(13%)	9(30%)	11(37%)	13(43%)
h.していただいて(も)よろしいですか	17(57%)	6(20%)	4(13%)	2(7%)	3(10%)	5(17%)
i.いずれも使用しない	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

4.3 総合的な分析

次に、各場面の傾向を表 3-5 と表 3-6 の結果を合わせて見ていく。(1)添削の場面では、記述式の場合、従来から存在する「c. していただけますか」「d. していただけませんか」の許容度が高く、モラウ系許可求め類に関しては、「e. してもらってもいいですか」「f. してもらっても(も)よろしいですか」の許容度が低い。また、記述式アンケートの回答を見てみると「お願いしてもいいですか」のような許可求め表現や、相手の意向を確認する「よろしいでしょうか」といった表現、敬語形の表現が回答されていた。選択式アンケートで許容度が最も高かったモラウ系否定疑問類「d. していただけませんか」を回答したのは3人にとどまった。

(2)ホテルの場面では、選択式アンケートの場合、「e. してもらってもいいですか」以外のモラウ系許可求め類の表現の許容度は低かった。ここでは、依頼者側はサービスとして荷物を預けることができる立場にあり、また、(3)飲食店の場面でも食事の提供を受けられる立場にあるため、命令的な依頼場面になることから、モラウ系肯定疑問類「a. してもらえますか」「c. していただけますか」の許容度が高くなっている。一方で、記述式アンケートの結果を見てみると、モラウ系肯定疑問類の表現を回答している人数は少ないという結果になり、(1)添削の場面でも記述式アンケートでモラウ系否定疑問類「d. していただけませんか」の回答が少なかったことと同様に、表現の使用は許容できるが実際には、「その他」の表現を使用する方が妥当であると認識されているということがわかった。

次に(4)商品交換の場面は、(2)ホテルの場面や(3)飲食店の場面とは異なり、相手と対面していないという違いがある。選択式アンケートではモラウ系否定疑問類「b. してもらえませんか」の許容度が高くなり、記述式アンケートでは「その他」の表現が回答される。こ

の理由として考えられるのは、相手の納得する事情を電話で説明しなくてはならないということと、記述式アンケートの回答で「交換できるか」とたずねる回答が多かったことから、場合によっては交換できない可能性も想定したからではないかと考えられる。

(5)エレベーターの場面では、「してもらって(も)いいですか」が最も許容度が高い。この場面は、相手の力を借りざるを得ないという状況であるため、相手に対して半ば命令的な依頼場面と言える。

また、(6)電車の場面では、「してもらって(も)いいですか」が最も許容度が高く、これ以外の表現の許容度は低かった。(5)エレベーターの場面と(6)電車の場面は、いずれも、①上下関係の生じる場面ではあるが、(1)添削の場面と比べると敬語形の表現があまり回答されていないため、①上下関係という基準が表現を選択する際に、あまり意識されていないことが言える。また、これらのような場面は③人間関係の継続性が生じない人物であるため、恩恵を受ける側と与える側のように上下関係が明白になるモラウ系否定疑問類の表現を用いることもできるであろうが、そこまで下手に出る必要はない場面である。一方、モラウ系肯定疑問類の表現も命令的なニュアンスで受け取られる可能性があるため、それを避けるため、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類の表現との中間的な表現として「してもらって(も)いいですか」という表現が選ばれたのではないと思われる。

表 3-7 モラウ系許可求め類の回答人数

	記述式	選択式	1添削	2ホテル	3飲食店	4商品交換	5エレベーター	6電車
I	○	○	4	3	4	0	17	12
II	○	×	1	1	0	2	3	3
III	×	○	22※	20※	16	17	6	13
IV	×	×	3	6	10	11	4	2

○:許可求め類を回答 ×:許可求め類を回答せず

1添削 ※:22名中、記述式で「お願いしてもいいですか」を4名が回答

2ホテル ※:20名中、記述式で「お願いしてもいいですか」を1名が回答、「預けてもいいですか」を1名が回答

最後に、モラウ系許可求め類の表現の使用が妥当であると捉えられている場面に関して述べる。表 3-7 は、記述式アンケートと選択式アンケートのモラウ系許可求め類の回答人数の結果を合わせた結果である。2つのアンケートの回答がいずれも「してもらって(も)いいですか」で一致している数が多かった場面は、(5)エレベーターの場面、続いて(6)電車の場面であり、表 3-7 から見ても役割関係や人間関係の継続性が生じない場面では「してもらって(も)いいですか」が最も回答されやすいということがわかる。

5. まとめ

本調査では、疎の関係の人物に使用される依頼場面でのモラウ系許可求め類の実態を明らかにするため、①上下関係、②役割関係、③人間関係の継続性の有無という基準を考察の観点に取り入れ、若年層を対象にアンケート調査を行った。

まず、①上下関係・②役割関係・③人間関係の継続性、全てが生じる場面(1)添削の場面

では、3つの基準の中で特に①上下関係が優先的に意識される場面であるため、敬語形イタダクを用いた表現が記述式アンケートと選択式アンケートの両方で回答される。選択式アンケートにおいて、モラウ系否定疑問類の表現の回答率が6つの場面の中で最も高かったが、記述式アンケートでは、あまり回答されていなかった。

②役割関係が意識される場面(2)~(4)では、選択式アンケートの結果から、モラウ系許可求め類は許容される場面ではあるがモラウ系肯定疑問類のような依頼表現として既に定着している表現や、相手の「状況確認」といった「直接的依頼」の表現を含まない依頼の表現の使用の方が妥当とされる。モラウ系肯定疑問類の表現は、(2)ホテルの場面や(3)飲食店の場面のように、サービスを受ける側と提供する側という役割関係が成り立つ場面において、許容度が高くなるが実際には回答されにくい。(4)商品交換の場面のみモラウ系否定疑問類の許容度が高くなっていった。

③人間関係の継続性が生じない場面(2)~(6)では、選択式アンケートの結果によるとモラウ系許可求め類の許容度が高くなる。一方で、①上下関係のみが生じ、②役割関係と人間関係の継続性と役割関係が生じない(5)エレベーターの場面や(6)電車の場面では、「してもらって(も)いいですか」が非常に選ばれやすい。ここから、(5)エレベーターの場面や(6)電車の場面で依頼表現を選択する際は、上下関係よりも人間関係の継続性の方が優先的に意識されているということがわかった。

このような場面で「してもらって(も)いいですか」のようなモラウ系許可求め類が使用される理由としては、既存の表現では表しきれないニュアンスがあるからだと思われる。例えば、「お願いします」や「してください」のような命令的な表現だと、役割関係が明白な場面で使用することは問題ないと思うが、人間関係の継続性と役割関係が生じない場面では高圧的に受け取られる可能性があるため、それをさける必要がある。また、「していただけますか」や「していただけますか」を使用するほど、「敬意」や「へりくだり」の気持ちを前面に押し出す必要のない場面であるため、そうした関係性においては、命令的なニュアンスのある表現と「敬意」や「へりくだり」を示す表現の中間的な表現として、従来から存在する表現ではカバーできない部分を埋めるような形で、モラウ系許可求め類の表現の使用が広がったのだと考えられる。

第4章 国会会議録に見られるモラウ系許可求め類の表現の使用実態

1. はじめに

第3章では、モラウ系許可求め類の表現が、疎の関係の人物が相手の場合、上下関係や役割関係の生じない公的な場で初対面の相手に対して使用率が高くなることを明らかにした。

上記のようなモラウ系許可求め類の表現の特徴から、国会会議録は、公的な場における発言が記録されているという点で当該表現が出やすいと想定する。このような資料を扱うことにより、場が意識されやすい中での依頼表現の使い分けを調査することができると思われる。場を意識した発言が求められる会議の場では、その場にあわせた丁寧な言葉遣いが求められるため、クレル系の表現よりもモラウ系を用いた依頼表現が多く見受けられる。よって、本章では、国会会議録に見られるモラウ系の依頼表現の使い分けを調査・分析する。

2. 先行研究

まず、国会会議録の特徴を述べる。国会会議録は1947年5月からデータが更新されているため、国立国語研究所の岡崎敬語調査の資料よりもさらに細かく年数を区切って経年的な調査を行うことができる。そして、会議録という資料の性質から、質疑者から答弁者(回答者)へ説明を要求する場面等で依頼表現が多く出現する。

それらの依頼表現の使い分けを分析するため、本調査では、3種類の調査を行う。まず、調査1は経年的な全数調査を行う。調査2は国会会議録を用いた先行研究の李(2016)の調査方法を採用する。李(2016)は、「させていただく」の使用頻度が高い上接語を集計し、その使用実態とその用例の変化に関して論じている。この李(2016)にならい、まず、モラウ系肯定疑問類、モラウ系否定疑問類、モラウ系許可求め類で用いられる上接語を集計し、各構文が用いられる依頼場面を経年的に見ていく。最後に、調査3では用例を確認したうえで、筆者が独自に設定した基準をもとにさらに用例を細かく分類し、各構文の特徴を見ていく。

3. 構文の比較

3.1 経年的な全数調査

まず、最初に国会会議録で見られる授受動詞の補助動詞用法を用いた依頼表現の経年的な数量の推移を述べる。国会会議録では、「してください」が主要な依頼の形式であり、年代によって、使用される割合が大きく変動することはない。一方で、疑問文を用いた依頼表現も非常に多く見られる。その割合は、以下の表4-1のようになる。

表 4-1 全数調査の結果

年代	肯定疑問類				否定疑問類				許可求め類		実数 合計
	クダサル		イタダク		クダサル		イタダク		イタダク		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
1950～1959	22	5%	89	19%	43	10%	312	67%	0	0%	466
1960～1969	36	2%	671	45%	109	7%	660	45%	3	0%	1,476
1970～1979	92	3%	1,465	54%	195	7%	941	35%	16	1%	2,693
1980～1989	67	3%	1,224	51%	115	5%	1,015	42%	19	1%	2,421
1990～1999	51	2%	1,372	65%	31	1%	653	31%	61	3%	2,107
2000～2009	86	2%	2,870	73%	21	1%	939	24%	160	4%	3,916
2010～2019	35	1%	3,214	73%	27	1%	1,100	25%	297	7%	4,376
合計	389	2%	10,905	62%	541	3%	5,620	32%	556	3%	17,455

表 4-1 は、「国会会議録検索システム」から 1950 年¹⁶～2019 年までの衆議院と参議院の会議録全体から、敬語形クダサルとイタダクの肯定疑問類、否定疑問類、許可求め類の形式を検索し、集計したものである。今回は、改まった場での発言から丁寧な表現の方が多く見られることから、非敬語形クレルとモラウを用いた形式を除いた。調査項目は、以下の通りである。

肯定疑問類：てくださいますか。/ていただけますか。

否定疑問類：てくださいませんか。/ていただけませんか。

モラウ系許可求め類：ていただいて(も)いいですか。/ていただいて(も)いいでしょうか。/ていただいて(も)よろしいですか。/ていただいて(も)よろしいでしょうか。

モラウ系許可求め類は、全体的な件数がまだ少ないため、分析する用例の件数を確保するため、上記に挙げた指示や依頼を意図する許可求めを用いた表現形式を調査対象とした。これらをまとめて、以下ではモラウ系許可求め類と呼んでいく。

表 4-1 を見ると、クダサルの表現の出現率が非常に少なく、イタダクの表現の割合が圧倒的に高いことがわかる。1960 年代以降のイタダクの表現を見ると、「ていただけますか。」の割合は増加傾向にあるが、「ていただけませんか。」は、徐々に減少していく。そして、2000 年代には、「ていただけますか。」が圧倒的に高い割合で使用されていることがわかる。モラウ系許可求め類の表現は、全体に占める割合は少ないが、2000 年代から件数が増加し

¹⁶ 1940 年代のデータは、議事録の本数が少ないため、本調査では除外し、1950 年代以降の用例を構文ごとに集計した。

ていく。ここから、否定疑問類の使用が優勢であった時期を経て、2000年代以降、肯定疑問類が最も使用されるようになる中で、モラウ系許可求め類という新しい表現の使用も定着しつつあることがわかる。

3.2 各構文における上接語の傾向

ここからは、各構文における使用場面の傾向を見ていく。まず、3種の構文が使用される場面を見るため、李(2016)の調査方法をもとに構文に接続する上接語を見ていく。

調査対象

モラウ系肯定疑問類：ていただけますか。(1960年代以降各年代100件ずつ、計600件)

モラウ系否定疑問類：ていただけませんか。(1960年代以降各年代100件ずつ、計600件)

モラウ系許可求め類：ていただいて(も)いいですか。/ていただいて(も)いいでしょうか。/ていただいて(も)よろしいですか。/ていただいて(も)よろしいでしょうか。(以上の表現全て対象、全556件)

表4-1の結果からクダサルの表現の件数が、イタダクの表現の件数よりも圧倒的に少なく減少傾向にあるため、本調査ではイタダクの表現のみを調査対象とする。

調査結果は、以下の表4-2に示す。表4-2は、1960年以降のデータから、各形式で出現頻度が上位5の上接語を挙げて示したものである。

表4-2 出現頻度の高い上接語

	2010年代	2000年代	1990年代	1980年代	1970年代	1960年代	
肯定	1 教える	24 教える	17 説明する	16 教える	12 出す	15 出す	24
	2 説明する	9 説明する	10 教える	15 やる	9 約束する	13 やる	14
	3 聞かせる	5 出す	6 出す	10 言う	8 やる	7 考える	5
	4 言う	4 言う	4 言う	7 検討する	6 言う	5 提出する	5
	5 述べる	4 おっしゃる	4 答える	6 説明する	6 確認する	4 確認する	4
否定	1 教える	12 説明する	17 教える	18 答える	12 出す	16 説明する	14
	2 説明する	9 教える	14 説明する	11 説明する	11 説明する	12 出す	10
	3 言う	7 言う	7 言う	8 言う	10 聞かす	8 話す	7
	4 出す	6 聞かす	7 聞かす	7 聞かす	8 考える	7 する	5
	5 答弁する	5 出す	6 検討する	6 教える	6 言う	6 言う	5
許可	1 教える	76 確認させる	44 確認させる	29 理解させる	5 確認させる	9 考えさせる	1
	2 確認させる	55 理解させる	23 理解させる	12 確認させる	3 理解させる	4 確認させる	1
	3 理解させる	18 教える	11 受け止めさせる	4 受け止めさせる	2 確認する	1 処理する	1
	4 見る	14 ご覧になる	7 聞かせる	2 受け取らせる	2 整理させる	1	
	5 説明する	12 受け止めさせる	6 お聞きさせる	1 確認する	2 判断させる	1	

まず、全体的な傾向を述べる。各構文において、「説明する」(例1)、「教える」(例2)、「答える」(例3)、「言う」(例4)、「述べる」(例5)のような相手に対して説明や回答を求め

る際に用いる上接語が時代を経るごとに上位に見られるようになる。このような上接語は、説明要求の場面で用いられるものであるが、2010年代にはどの構文においても「教える」の用例が最も多くなる。

- 例 1 ○長田委員 中小企業投資育成株式会社に対する各地方公共団体の出資状況及び都道府県別の投資実行企業の現況について簡単に説明していただけますか。
○中澤政府委員 現在、地方公共団体から投資育成会社、三社ございますが、その三社の資本出資総額は、三十五都道府県それから四指定都市、合計いたしまして二十三億一千四百万円、投資育成会社全体の資本金の一七・九%の出資をしておるわけでございます。各都道府県におきましておおむねまんべんなく投資育成会社への出資あるいは株式の取得が行われておるという状況でございます。

第 91 回国会 衆議院 商工委員会 第 9 号 1980/3/25
長田武士→中澤忠義「説明する」

- 例 2 ○上田稔君 各法案の提出予定の期日をちょっと教えていただけますか。
○政府委員（大津留温君） 予算関係法案はおそくとも二月の十六日までに政府部内の手続を了しまして提案をするようにというめどで進めております。それから予算に関係のない法案につきましては、おそくとも三月の十六日をめどに同様に進めております。

第 65 回国会 参議院 建設委員会 第 2 号 1971/1/28
上田稔→大津留温「教える」

- 例 3 ○久保亘君 時間がありませんので、最後に、あなたにもう少しはっきり言ってもらいたいのは、徳之島について再処理工場の立地を考えたことは通産省としてもなければ、原燃サービスの準備をしてきた企業の方でもそういうことを検討したことはないんだ、こういうことならば、徳之島に三つの町がありますが、個々の自治体を含めて町民の間にはそういう調査が行われて、そしていろいろ、原燃サービス会社が発足したりして、九電が主体でやっておられるということで大変なやっぱり不安と動揺があるわけです。それじゃ徳之島をいま特別に候補地として原燃サービスや通産省が検討しているというような事実は全くありませんと、こういうことを答えていただけますか。
○説明員（熊野英昭君） 通産省といたしましては、個別の再処理工場をどこにつくるかというふうなことを、現段階においては、検討も通産省自体としてはやっておりません。先ほど来申し上げますように、原燃サービスがこれからいろんなことを調査して、いずれかある程度進展した段階で通産省にも具体的な相談を

持ってまいろうと思いますので、そういう段階に所要の指導なり助言なりをや
てまいりたいというふうに考えております。

第 91 回国会 参議院 予算委員会第三分科会 第 2 号 1980/3/31
久保亘→熊野英昭「答える」

例 4 ○浅井委員 「今週の日本」というのは扱っておりますか。もし扱っているなら
ばこの「今週の日本」の昨年度の予算あるいはことしの予算をちょっと言っ
ていただけますか。

○中野説明員 私どものほうで、「今週の日本」は四十四年度におきましては二
億七千三百万円を出して一応買い上げをする、こういうことになっております。
それから四十三年度でございますが、これは半年度分でございます、一億九
千五百万円でございます。(以下省略)

第 61 回国会 参議院 物価等対策特別委員会 第 8 号 1969/6/25
浅井美幸→中野武文「言う」

例 5 ○市田忠義君 また、同じ環境庁長官意見で、新たに希少な動植物が確認された
場合の対応について、「専門家の意見を聴取し、現地調査を実施した上で、これら
の種の生息、生育環境に対する影響が最小限となるよう、適切な保全対策を講じ
ること。」と述べています。この意見以降にカラスバト、カンムリウミスズメの生
息が確認されています。環境省にお聞きしますが、それぞれの希少性について述
べていただけますか。

○大臣政務官（大谷信盛君）カラスバトもカンムリウミスズメも国指定の天然記
念物でございます。そして、環境省のレッドリストの中では、カラスバトの方が
準絶滅危惧、そしてカンムリウミスズメの方は絶滅危惧Ⅱ類として扱われており
ます。

第 174 回国会 参議院 環境委員会 第 6 号 2010/4/13
市田忠義→大谷信盛「述べる」

次に各構文の傾向を見ていくが、モラウ系肯定疑問類は 1960 年代と 1970 年代では、説
明要求の場面はあまり見られず、1980 年代に入って「教える」の件数が増え始める。そし
て、1990 年代以降は「教える」と「説明する」の件数に差がなくなり、年代ごとの大きな
変動もなく、2 つとも安定して上位に見られるようになる。

モラウ系否定疑問類の場合、1960 年代と 1970 年代から既に「説明する」が上位に表れ
ていることから、モラウ系肯定疑問類よりも先に説明要求場面において使用されていたと
見える。1990 年代以降は、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類のどちらも「教える」
と「説明する」が上位を占めるようになり、2 つの構文に違いは見られなくなっていく。

モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類の場合、「教える」と「説明する」が多く見られたが、「教える」には、語彙的な意味として、教える立場と教わる立場という一時的な上下関係が生じるが、「説明する」という語にはそうした立場的な上下関係の含意はない。よって、1990年以降は、へりくだりの意味が生じる「教える」を用いることで、語彙的にも相手と距離をとる表現が選ばれているといえる。

一方で、モラウ系許可求め類は、1970年代から1990年代までは前節要素は使役形が大部分を占める。特に「確認させる」(例6)と「理解させる」(例7)が多く見られ、「教える」や「説明する」は上位に入っていない。「教える」が上位に入り始めるのは、2000年以降であり、2010年代になると「確認させる」や「理解させる」の件数を抜いて、最も多く見られるようになる。モラウ系許可求め類が一般的に依頼表現として使用が拡大していくのは、2000年以降であるため、それに伴って「教える」が上位に表れるようになったのだといえる。

例6 ○大淵絹子君 ちょっと答弁が質問と違うような気がしますけれども。 確認をさせていただきますけれども、独立性確保の観点、このガイドラインに盛り込まれていることは法文の中にきちんと網羅をされていると確認をさせていただいていいですか。

○政府参考人(原口恒和君) 後段の御質問にお答えをして、前段を落として失礼いたしました。御質問の、いわゆる運用上の指針で指摘されている点でございますが、法律上の条文といたしましては、認可申請がなされた時点で、例えば財務の健全ですとか、あるいは特に銀行の業務の健全性かつ適切な運営を損なうおそれがないかといった条文で規定しておりますが、具体的にはさらにこれを、法においてこのような基本的な考え方を示した上で、今後、内閣府令でその詳細を具体的に定める予定にしております。その内容については、今御指摘のあった運用上の指針、あるいは金融審議会報告などを踏まえた上で事務的に検討を進め、パブリックコメントの手続を経た上で策定するというようにしたいと考えております。

第153回国会 参議院 財政金融委員会 第5号 2001/10/30
大淵絹子→原口恒和「確認させる」

例7 ○土井委員 そうすると、テストフライトが終了していろいろなデータが出た段階でこういうふうな見解に対しても答えるという意味の、そのテストフライトの評価ということを環境庁としてはなさる、このように理解させていただいていいですか。

○橋本(道)政府委員 テストフライトの結果と予測とがどういうぐあいになっておるかということに対しては、環境庁はこれは責任を持ってやる必要はあ

る、こういうふうに思っております。それから、そのいろいろ寄せられた御意見に対してどうかということにつきましては、必要に応じてこちらからお答えすることもしなければならぬ場合があるだろう。ただ、全体の評価として言う場合に、いままでこのような批判やこのような指摘があったということを頭に置いた上で最終的な環境庁の評価というものは整理をすべきものであるというぐあいに考えております。

第 80 回国会 衆議院 公害対策並びに環境保全特別委員会 第 7 号 1977/4/7
土井たか子→橋本道夫「理解させる」

モラウ系許可求め類で多く見られた「確認させる」と「理解させる」は、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類では置きかえることができない。しかし、実際の用例を見てみると、自分と相手の認識の確認の発話の後に続く相手の返答は、お互いの認識にズレがある場合はそれを修正する答弁が続き、説明不足がある場合はそれを補う発言がくる。つまり、形式は許可求めであるが、発話意図としては、説明要求であると捉えられる。

このように、質問するという場面は同じだが、説明を要求する表現が増え、年代が下るにつれて、「してください。」が担っていた場面がイタダクに代わり、語彙だけでなく、構文も間接的になっていく傾向があると言える。

3.3 説明要求の場面以外の傾向

次に、説明要求以外の場面を考察するため、質問する形式にかぎらず、全用例を分類していく。調査 1 において、80 年代と 90 年代のデータが 2000 年以降のデータの様相と大きな変化は見られず、また、調査 2 においても同様の結果が出たため、以下では扱わないこととする。モラウ系許可求め類の表現の使用が拡大し始める時期は、2000 年以降であるため、ここでは、60 年代と 70 年代のデータと 2000 年以降のデータを比較することで、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類の使用にどのような変化が現れるのか、また、モラウ系許可求め類はモラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類と比べ、どのような違いがあるのかを考察する。

分類基準は、採取した用例を確認したうえで、独自に、発話現場実現性の有無という基準を設けた。発話現場実現性とは、依頼内容が依頼したその場で完了するか否かというものである。今回の分類は、話し手が依頼をする際に、この発話現場実現性の有無を想定して、形式を選んでいると仮定して、発話者の想定(その場で依頼が完了するか否か)と聞き手の反応(聞き手が依頼を受諾しその場で依頼が完了する、あるいは依頼を受諾し行為の完了が長期に及ぶ)を組み合わせ、以下のように 4 分類にした。なお、聞き手が依頼を拒否した用例は除外とした。

分類基準

- a：発話者の想定(その場で完了予想)
 - a-1 聞き手が受諾し行為がその場で完了
 - a-2 聞き手の受諾し行為が長期に及ぶ
- b：発話者の想定(長期予想)
 - b-1 聞き手が受諾し行為がその場で完了
 - b-2 聞き手の受諾し行為が長期に及ぶ

会議内での行動を相手に要求する発言で、主に「質問する場面」や「資料を見てほしいと指示する場面」といった発話者の想定として、その場で相手が行動することで指示や依頼の遂行が完了する場面だと判断できる用例を a とし、その場で依頼が完了する用例を a-1、依頼の受諾を得ても何らかの理由で依頼内容の遂行が完了していない用例、つまり依頼内容の遂行が長期的におよんで完了する用例を a-2 とした。一方で、b に分類した用例は、発話者の想定として、その場では依頼が完了しないと判断する用例や長期的な未来に依頼内容を実現する約束を持ちかけるような発言を分類した。b-1 は、聞き手の返答として依頼内容は既に完了しているという発言がされている用例、b-2 は聞き手が依頼を受諾する用例を分類した。例えば、「答弁した内容を後日資料として提出してほしいと要求する場面」や「政策を実行してほしいと要求する場面」などがあげられる。

a 発話者の想定(その場予想)

a-1 聞き手が受諾し行為がその場で完了

例 8 ○戸叶委員 今おつしやつた通りなんですけれども、伊関局長これをどう御説明なさつていただけますか。

○伊関政府委員 説明が食い違つておるとは思いませんですが、陸上に着弾地域があるわけでありまして。そうしてそこへ撃ち込むときに、それたたまは後方に飛んで行く、あるいは的をはずれたたまは海に飛んで行く、たまには海に向けて撃つ場合もあるかもしれません。主として陸上の標的に向けて訓練しているわけでありまして。

第 16 回国会 衆議院 外務委員会 第 27 号 1953/8/5
戸叶里子→伊関佑二郎

a-2 聞き手の受諾し行為が長期に及ぶ

例 9 ○櫻井充君 そして、先ほどその薬剤管理という話が出ました。今、医薬分業が進んできまして、診療所の中に薬局がなくなりました。そのために薬剤師さんが配置されていないような診療所がかなり、しかもベッドを有しているところ、かなりあるように思うんですけれども、もしその数字がおわかりでしたら、なければ後で結構でございます、教えていただけませんか。

○政府参考人（宮島彰君） 診療所におきましては、三人以上の常勤の医師がいる場合は一名の薬剤師を置くことになっておりますが、ちょっと今手元に数字がございませんので、後ほどまたお届けしたいと思います。

第 151 回国会 参議院 予算委員会 第 7 号 2001/3/9

櫻井充→宮島彰

b 発話者の想定(長期予想)

b-1 聞き手が受諾し行為がその場で完了

例 10 ○多賀谷委員 東京証券取引所に関連する問題につきましてお尋ねしたいと思います。まず監督課長に質問いたしたいと思います。たしか休暇の変更の問題と、こういうような話であります、あるいは就業規則と銘打っておるかどうか、私どもよくわかりませんが、これは当然就業規則の一環であろうと思います。ましてや、労働組合のございませんでし、労働協約ではないのですから、当然就業規則の中に入るとは思います、この改訂につきまして、当然監督署に書類を提出するわけでありまして、この問題は書類が提出されておるかどうか。そのときの従業員の代表はだれであつたか。これは今わからなくても、わかることになつておるはずですが、あなたの方で調査して出していただけますか。

○和田説明員 私がただいま監督署から持つて参りました書類で、就業規則の一部変更に対する一番新しいのは、昨年七月二十二日に変更届が出ておるのであります。そのときの代表は、これは正本でございますからなんでございませう、東京証券取引所職員代表佐藤舜という方が代表でございます。これは判が押してございませうから、私の方は間違いないと確認いたします。なお、今お話の休暇の件でございますが、ちよつとここで書類を見えますからお待ちを願いたいと思います。

第 19 回国会 衆議院 労働委員会 第 45 号 1954/11/18

多賀谷真稔→和田勝美

b-2 聞き手の受諾し行為が長期長期に及ぶ

例 11 ○和田静夫君 これ、この次の委員会にちよつと資料を出していただけませんか。

○政府委員（降矢敬義君） 承知いたしました。

第 65 回国会 参議院 地方行政委員会 第 5 号 1971/2/23

和田静夫→降矢敬義

以下のような聞き手が質疑者の質問に回答を拒否している用例は、除外とした。

聞き手拒否

例 12 ○草野委員 会計検査院の方は、あなたは御存じなくても局長なら御存じだ。局長にその名前を発表していただけますか。

○室屋会計検査院説明員 これにつきましては私、記憶ございませんが、院長が国会で発言されまして、励まされた方の方々の名誉に関することとございますので、院としては発表するわけにはいかないというような趣旨の答弁がございましたので、恐らく氏名について公表することはできないだろうと存じております。

第 90 回国会 衆議院 運輸委員会 第 2 号 1979/12/7
草野威→室屋勇

なお、調査 3 は、調査 2 で扱ったデータから、聞き手が拒否の返答をした用例を除いた数を集計しているため、表 4-3 では、年代によって合計数が異なる。

表 4-3 調査結果

現場実現性	発話者の想定	聞き手の返答/依頼内容の完了	肯定疑問類		否定疑問類		許可求め類	
			2000年以降	60・70年代	2000年以降	60・70年代	2000年以降	60・70年代
有	a その場予想	a-1 聞き手が受諾/行為がその場で完了	152 (82%)	51 (32%)	124 (71%)	115 (69%)	442 (98%)	19 (100%)
無		a-2 聞き手の受諾/行為が長期におよぶ	0 (0%)	10 (6%)	8 (5%)	8 (5%)	4 (1%)	0 (0%)
有	b 長期予想	b-1 聞き手が受諾/行為がその場で完了	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
無		b-2 聞き手の受諾/行為が長期におよぶ	34 (18%)	98 (61%)	42 (24%)	43 (26%)	3 (1%)	0 (0%)
合計			186 (100%)	160 (100%)	174 (100%)	166 (100%)	449 (100%)	19 (100%)

モラウ系肯定疑問類の場合、60・70年代に多かった b-2 が、2000 年以降には減少し、a-1 にかたよっている。モラウ系否定疑問類は、60・70年代と 2000 年以降では、どの分類項目においても、その割合に大きな違いはない。しかし、先にも述べたが全体的な量ではモラウ系肯定疑問類の用例の方が多く、モラウ系否定疑問類の用例の数は、1970 年代から変動がないため、使用されている場面にも大きな変化はないのではないかと考える。モラウ系許可求め類の場合、用例数の少ない 1960 年代から 2000 年以降も a-1 の用例が圧倒的に多い。これは調査 2 で見てきたが、説明要求の場面の用例の多さに起因する。

モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類では、b-2 の用例が相当数あるのに対して、

モラウ系許可求め類ではb-2の用例はあまり見られない。その要因として考えられることは、b-2の依頼内容が法律や制度などの制定に関する事柄が多く、許可を得て政策を実行するわけではないため、不自然になるからだと思われる。

次に、形式の選択に関して、今回は発話者が発話現場実現性の有無によって、使用する形式を変えていると想定して分類を4つに分けたが、60・70年代はモラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類とで違いが表れているが、2000年代以降になると、どちらもa-1に偏っている。発話者の想定で形式を変えているというより、説明要求の場面が増加した、もしくは説明要求以外の場面が減少したのではないかと推測する。

4. まとめ

まず、全件調査の結果から述べる。国会会議録では、イタダクの表現の用例数が多く見られ、50年代は、モラウ系否定疑問類の用例数が多かったが、60年代以降、モラウ系肯定疑問類の用例数が増加し、2000年代に入るとモラウ系肯定疑問類の用例の方が多くなる。2000年代以降は、モラウ系許可求め類の用例数も増加していく。

次に、上記の3種の構文の違いを見るため、上接語の集計を行ったが、どの構文も説明要求の場面において使用される「教える」の用例が多かった。モラウ系許可求め類は、「教える」以外に説明要求を意図する上接語として、「確認させる」「理解させる」が上位に見られた。これは、発話者自身の認識と聞き手の認識とを確認する形式であるため、モラウ系肯定疑問類やモラウ系否定疑問類には置き換えられない表現であるため、モラウ系許可求め類特有の説明要求の表現だといえる。

続いて、説明要求の場面以外を分析するため、発話現場実現性の有無という基準をたてて分類を行った。モラウ系肯定疑問類は、60・70年代は発話現場実現性のない場面でも多く用例が見られたが、2000年以降には減少し、発話現場実現性のある場面での用例が多くを占めるようになる。モラウ系否定疑問類は、60・70年代と2000年以降では、どの分類項目においても割合で大きな差はなかった。モラウ系許可求め類は、時代に関係なく発話現場実現性のある場面における用例が多く見られた。これについては、第3章の役割関係と人間関係の継続性が生じない相手の場面において、その使用が妥当とされるという結果と関連があるように思われる。例えば、上記のような場面として、エレベーターの階数ボタンを押してもらおうような場面は、その場で依頼が完了する内容が多いように思う。よって、国会会議録においても同様の結果が出たのだと思われる。

本調査の結果から、発話現場実現性の有無という基準を設け、上接語の分類を行ったが、モラウ系許可求め類の使用傾向は、説明要求を意図した確認の形式で用いられやすいことがわかった。しかし、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類の明確な違いは示すことができなかつたため、次章では、国会会議録の談話展開に着目して、3種の構文の表れ方を調査していく。

第5章 質問場面に見られる依頼表現の談話分析

1. はじめに

第4章では、モラウ系許可求め類の表現がその場で(会議内で)依頼内容が遂行され、完了する場面に使用されることを明らかにした。しかし、モラウ系肯定疑問類とモラウ系否定疑問類の選択基準を示すことができなかった。モラウ系許可求め類の表現は、2000年以前は「確認させていただいて(も)よろしいですか/でしょうか」のような確認の形式で説明を要求する使用が多数見られるため、モラウ系肯定疑問類の表現とモラウ系否定疑問類の表現で違いを確認することができたが、2000年以降は、「教えてさせていただいて(も)よろしいですか/でしょうか」のような形式で、説明要求の表現としての使用頻度が増加するため、モラウ系肯定疑問文の表現やモラウ系否定疑問文の表現との違いを明確にできていない。上述のとおり、モラウ系許可求め類の表現は丁寧な表現として使用されているが、モラウ系肯定疑問類の表現ほど強制性はなく、モラウ系否定疑問類の表現ほどへりくだったニュアンスの表現ではないため、談話の展開上でも、それぞれの表現が異なった伝達意図をもって使い分けられていると考えられる。よって、本章では、質問場面の談話分析を行い、3種類の構文の違いに関して、その談話展開上の現れる位置とそれらの働きを明らかにする。

2. 調査概要

『日本語文法史キーワード事典』によると、「談話」とは、「広義の一文を超えた何らかの意味的まとまりを持った結束性のある文の集まりのことをいい、話しことばにおいては複数人での会話や特定の立場の人のまとまった話、書きことばにおいてはテキストを意味する。」とある。国会会議録は、導入部分の質疑者の挨拶、質問の前置き、議論の前提を述べるなどといった定型化している部分を除けば、それ以降の談話展開は、質問→回答→要求→回答→要求に対する念押しのように、議論の中で質疑者の要求を通すための交渉がされるため、質問場面における談話(以下、質問談話)と捉えることができる。本稿では、国会会議録を質問談話と見なし、談話分析の手法を用いて、国会会議録における依頼表現の比較を行う。

分析は、発話機能に着目して比較する。その指標として、熊谷・篠崎(2006)の「コミュニケーション機能と機能的要素」を用いた分析を行う。熊谷・篠崎(2006)は、発話の機能を担う最小単位である機能的要素の上位概念として、「コミュニケーション機能」を示しており、「依頼のコミュニケーション機能」を〈きりだし〉〈状況説明〉〈効果的補強〉〈行動の促し〉〈対人配慮〉〈その他〉の6種類にまとめている。表5-1にそのうちの〈行動の促し〉と〈対人配慮〉を抜粋して示す。これを参考に、質問談話の質疑者の発話に現れる機能的要素を表5-2のようにまとめた。

表 5-1 コミュニケーション機能と機能的要素の対応一覧
熊谷・篠崎 (2006) 表 3-3 より一部抜粋

コミュニケーション機能	機能的要素	
	荷物預け	往診
行動の促し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かりの依頼 (アズカッテクダサイ) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (ドーデスカ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接的依頼 (キテ イタダケマスカ) ・ 伝言形の依頼 (〜ト イッテマス) ・ 依頼の念押し (オネガイシマス) ・ 意向の確認 (イカガデショー)
対人配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恐縮の表明 (スミマセンガ / オジャマデショーガ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恐縮の表現 (スミマセンガ / ヤブン オソレイリマスガ)

表 5-2 質疑応答場面のコミュニケーション機能と機能的要素

コミュニケーション機能	機能的要素
きりだし	挨拶：挨拶 前置き：質問の前置き
効果的補強	追及：「なぜ/どうして/どのように」のような相手に追及する発話 認識：「だと思う」話し手の認識や知識を述べる発話 義務：「するべき」話し手の意見や提案を述べる発話 願望：「てもらいたい」話し手の願望を述べる発話 確認：話し手が聞き手に、自身の認識があっているか確認する発話
非難	直接的非難：「おかしい」など直接的に相手を非難する発話 指摘：間接的に相手を非難する発話、相手の間違いへの指摘
行動の促し	情報要求 (説明要求)：法律や制度の内容、データの内容を尋ねる発話 情報要求 (見解要求)：回答者側の見解を求める発話 情報要求 (実現要求)：相手に説明や見解を求めながら将来的な実現を要求する発話 行動要求：相手の行動を要求する発話 念押し：「今後/是非〜してほしい」など回答者の発話の後に来る要求の念押し
対人配慮	感謝：感謝を述べる発話 相手への理解：相手の事情、今後の意向、説明への理解を示す発話

以下に、調査に用いた会議録の詳細を記載する。分析に用いた会議録は、質疑者が 3 種類の構文を使い分けしているものを選んだ。議会は、質問をする質疑者と質問に対して回答する複数の回答者、会議を進行させる司会、聴衆者で構成される。以下、質問談話に登場する発話者の役職が判別できるように、A を質疑者、B を国務大臣、C を副大臣、D、E、F を政府参考人、G を委員長(司会)と示す。

調査資料

質問談話 1

第 171 回国会参議院 財政金融委員会 第 23 号平成 21 年(2009 年)6 月 23 日

A(質疑者)：藤末健三(ふじすえ けんぞう) 自由民主党

B(回答者)：与謝野馨(よさの かおる) 自由民主党、財務大臣・国務大臣（内閣府特命担当大臣（金融））

D(回答者)：横尾英博(よこお ひでひろ) 中小企業庁事業環境部長

E(回答者)：三國谷勝範(みくにや かつのり) 金融庁監督局長

F(回答者)：内藤純一(ないとう じゅんいち) 金融庁総務企画局長

G(委員長)：円より子(まどか よりこ) 国民民主党

質問談話 2

第 186 回国会参議院 総務委員会 第 19 号平成 26 年（2014 年）5 月 15 日

A(質疑者)：藤末健三(ふじすえ けんぞう) 自由民主党

B(回答者)：新藤義孝(しんどう よしたか) 自由民主党、国務大臣・総務大臣

C(回答者)：関口昌一(せきぐち まさかず) 副大臣・総務副大臣

D(回答者)：門山泰明(かどやま やすあき) 総務省自治行政局長

E(回答者)：関博之(せき ひろゆき) 総務大臣官房地域力創造審議官

調査資料の会議録は、表 5-3 と表 5-4 にその談話構造を示した。表 5-3 は、質問談話 1 の構造を示したもので、3つの話題について議論しているが、このうち話題①と話題②は関連性のある話題で、話題③のみが独立した話題を取り上げている。表 4 の質問談話 2 は、6つの話題で構成されているが、話題①～話題③は、「1-2 A による話題①～話題③の前置き」があるため、1つのかたまりとして扱うことができ、話題④～話題⑥も関連性のある話題について議論しているため、大きく分けると 2つの話題に分けられる。

次に、表 3 と表 4 をもとに質問談話において 3 種類の構文が現れる位置に関して述べる。質問談話 1 では、話題①と話題③の冒頭にモラウ系肯定疑問類の表現、話題①の中盤にモラウ系許可求め類の表現、話題②の冒頭にモラウ系否定疑問類の表現が見られる。

一方で、質問談話 2 における 3 種類の構文の位置を確認する。話題①と話題⑤の冒頭でモラウ系肯定疑問類の表現、話題①の中盤にモラウ系許可求め類の表現、話題③の冒頭にモラウ系否定疑問類の表現が見られる。

表 5-3 質問談話 1 の構造

開始部	1-1 挨拶	1-1A：挨拶
主要部	1-2 ～ 13-1	1-1～1-3 A による質問 <u>お答えいただけますでしょうか。《説明要求》</u> 2-1 D による返答

	話題①	<p>3-1～3-3 Aによる要望 てもらいたいと思うんですが《願望》、その点いかがでございましょうか。《実現要求》</p> <p>4-1～4-3 Dによる返答</p> <p>5-1 Aによる念押し 是非進めていただきたいと思います。</p> <p>5-2～5-20A Aによる質問(要望の理由) <u>お答えいただいていますか。《見解要求》</u></p> <p>6-1～6-4 Dによる返答</p> <p>7-1～7-6 Aによる質問 という状況であるんですけども、(省略)いかがですか。《見解要求》</p> <p>8-1～8-3 Bによる返答</p> <p>9-1～9-4 AによるBへの要望 是非大臣に一点お願いしたいのは、これを検討していただきたいんですよ、解決を。《行動要求》</p> <p>9-1～9-7 AによるDへの要望 いかがですか、(省略)～をやってください。《行動要求》</p> <p>10-1～10-2 Dによる返答</p> <p>11-1～11-5 AによるDへの念押し つくってくださいよ。《行動要求》</p> <p>11-5～11-7 AによるBへの要望</p> <p>12-1～12-2 Bによる返答</p> <p>13-1 AによるBへの念押し 是非よろしく申し上げます。</p>
主要部	13-2 ～ 17-10 話題②	<p>13-2～13-19 Aによる質問 <u>教えていただけませんか。《見解要求》</u></p> <p>14-1～14-2 Eによる返答</p> <p>15-1～15-3A Aによる要望 していただきたいんですけども《願望》、いかがですか《実現要求》</p> <p>16-1～16-3 Eによる返答</p> <p>17-1-17-10 Aによる念押し 是非、(省略)していただきたいと思います。</p>
主要部	17-11 ～26-1 話題③	<p>17-11～17-19 Aによる質問 <u>教えていただけますか。《見解要求》</u></p> <p>18-1 Bによる返答</p> <p>19-1～19-7 Aによる質問 どういうふうにお考えかと。お願いします。《見解要求》</p> <p>20-1～20-5 Bによる返答</p> <p>21-1～21-16 Aによる要望 すべきじゃないかと思うんですが《義務》、その点いかがですか《実現要求》</p> <p>22-1～22-3 Fによる返答</p> <p>23-1～23-3 Aによる質問 それを教えていただきたいというのがまず一つ。《内容の説明を求める》</p> <p>23-4～23-9: Aによる要望 最後に、検討するという事だけはちょっと言って</p>

		<p>くださいよ。《行動要求》(省略) 教えてください。《実現要求》それだけお願いします、最後に。</p> <p>24-1 Gによる注意</p> <p>25-1～25-5 Fによる返答</p> <p>26-1:AによるFへの念押し お願いします。</p>
終了部	26-2 感謝	26-2:A 感謝

表 5-4 質問談話 2 の構造

開始部	1-1 挨拶	1-1:A 挨拶
主要部	1-2 ～ 13-2 話題①	<p>1-2 Aによる話題①～話題③の前置き</p> <p>1-3～1-5 Aによる質問 <u>教えていただけますでしょうか。《見解要求》</u></p> <p>2-1～2-2 Bによる返答</p> <p>3-1～3-3 Aによる感謝、念押し</p> <p>3-4～3-7 Aによる質問 簡潔にお答えください。《説明要求》《見解要求》</p> <p>4-1～4-4 Dによる返答</p> <p>5-1 Aによる質問 具体的な。《説明要求》</p> <p>6-1～6-3 Dによる返答</p> <p>7-1～7-7 Aによる質問 <u>教えていただいてよろしいでしょうか。《説明要求》</u></p> <p>8-1～8-10 Dによる返答</p> <p>9-1～9-9 Aによる質問 お考えをお聞かせください。《見解要求》</p> <p>10-1 Dによる返答</p> <p>11-1～11-5 Aによる質問 御意見はいかがでしょう。《見解要求》</p> <p>12-1～12-11 Bによる返答</p> <p>13-1～13-2 Aによる感謝、念押し</p>
主要部	13-3 ～ 17-1 話題②	<p>13-3～13-10 Aによる質問 お聞きしたいと思います。《見解要求》</p> <p>14-1～14-8 Dによる返答</p> <p>15-1～15-5 Aによる質問 見解、いかがでございましょうか。《見解要求》</p> <p>16-1～16-3 Dによる返答</p> <p>17-1 Aによる念押し</p>
主要部	17-2 ～ 27-1 話題③	<p>17-2～17-3 Aによる質問 <u>教えていただけませんかでしょうか。《見解要求》</u></p> <p>18-1～18-5 Cによる返答</p> <p>19-1 Aによる念押し</p> <p>19-2～19-4 Aによる質問 <u>教えていただけませんかでしょうか。《見解要求》</u></p>

		20-1～20-4 Cによる返答 21-1 Aによる感謝 21-2～21-7 Aによる質問 お答えいただきたいとします。《説明要求》《見解要求》 22-1～22-6 Dによる返答 23-1 AによるDへの要望 23-2～23-14 AによるBへの要望 御意見をお願いいたします。《見解要求》 24-1～24-18 Bによる返答 25-1 Aによる念押し 25-2～25-9 Aによる質問 見解を伺いたいとします。《見解要求》 26-1～26-2 Bによる返答 27-1 Aによる念押し
主要部	27-2 ～ 29-1 話題④	27-2～27-4 Aによる質問 お答えいただきたいとします。《説明要求》《見解要求》 28-1～28-5 Eによる返答 29-1～29-2 Aによる念押し
主要部	29-2 ～ 33-1 話題⑤	29-3～29-7 Aによる質問 <u>お答えいただけますでしょうか。《説明要求》</u> 30-1～30-6 Dによる返答 31-1～31-11 Aによる要望 是非そこまでちょっと研究していただきたいと思いますが《願望》、大臣、お願いいたします。《実現要求》 32-1～32-6 Bによる返答 33-1 Aによる念押し
主要部	33-2 ～ 34-8 話題⑥	33-2～33-13 Aによる要望 いかがでございましょうか。《実現要求》 34-1～34-8 Bによる返答
終了部	35-1 ～ 35-4 宣言	35-1～35-4 Aによる念押し、終了宣言

モラウ系肯定疑問類の表現は、いずれも談話の初めや話題の初めに現れ¹⁷、モラウ系否定疑問類の表現とモラウ系許可求め類の表現は、談話の中盤以降に現れる。この2つについ

¹⁷辻岡（2021）の調査で用いたデータを用いて、3種類の構文を用いた情報要求（上接語「教える」「説明する」「答える」）が談話の導入部分（質疑者の挨拶直後）で出現する件数を調査したところ、肯定疑問文が724件中5件、否定疑問文が724件中1件、556件中0件であったことから、国会会議録全体を通して見ても、3種類の構文のうち、肯定疑問文がより談話の導入部に出やすいと言える。

ては、話題の中で最終的に要望を通す相手の違いによって使い分けが見られる。モラウ系否定疑問類の表現の使用されている部分を見ると、質問談話1と質問談話2のどちらとも、質問の後には回答者に対する要望や念押しが続いている。一方で、モラウ系許可求め類の表現が使用される場合を見ると、最終的に要望を述べる相手は、別の人物に対して要望を述べている。また、モラウ系許可求め類の表現が使用されている相手が、いずれも政府参考人であることから、質疑者自身よりも詳しい情報を持っている人物に説明を要求する表現として使用されていると見受けられる。

以上により、モラウ系肯定疑問類の表現は、話題の最初に現れることから、これから議論する内容の導入として必要な情報を聞き出すための表現として使用され、モラウ系否定疑問類の表現は、回答者本人に何か要望を通す場合に必要な情報を聞き出す場合に用いられ、モラウ系許可求め類の表現は、最終的に要望を述べる人物とは別の人物へ詳しい説明を要求する表現として使用されていると思われる。次節では、実際の用例を確認していく。

3. 各構文の比較

以下では、前節で述べた談話内での出現位置をふまえながら、各構文の用例を見ていく。

3.1 モラウ系肯定疑問類の表現の用例

モラウ系肯定疑問類の表現は、談話全体の冒頭、あるいは話題の冒頭で、議論の前提となる情報を導入する場合に見られる。

例1 質問談話1の話題①冒頭部に現れるモラウ系肯定疑問類の表現

○藤末健三君（省略）まず、今、信用保証や、あと政府系金融機関、今回法律も改正されるようございませうけれど、この政府系金融機関の特にセーフティーの融資状況はどうなっているかということをお答えいただけますでしょうか。《説明要求》中小企業庁、お願いします。

○政府参考人（横尾英博君）お答え申し上げます。日本政策金融公庫のセーフティーネット貸付けでございますが、これまで十五万七千件、二兆七千億円の実績を上げております。

例2 質問談話2の話題①冒頭部に現れるモラウ系肯定疑問類の表現

○藤末健三君 民主党の藤末でございます。この度の地方自治法の改正につきまして、私は大きな柱、一つは指定都市制度の見直し、そして中核市制度と特例市制度の統合、そして三つ目に新たな広域連合の制度の創設、三つの柱につきまして具体的なその運用がどのようなイメージとなるかということについて御質問申し上げたいと思います。
（省略）やはり地域の実情を踏まえて地方自治体の自主的な判断を尊重すべきだと考えております。つまりは、国は余り関与すべきではないと考えますが、総務大臣の見

解を教えてくださいませんか。《見解要求》お願いします。

○国務大臣（新藤義孝君） もとよりそのつもりであります。国が制度を押し付けるのではなくて、メニューを用意して、その中で地域の発意と多様性に応じて自治を行っていただきたいと、このように考えております。

○藤末健三君 見事な答弁、ありがとうございます。もう予定どおりでございます。（省略）是非きちんと柱に据えていただきたいと思います。では、まず一つのポイントでございます指定都市制度の見直しにつきまして、三つのポイントを自治行政局長にお聞きしたいと思います。

（質問談話 2）

まず、例 1 と例 2 は、それぞれ質問談話 1 と質問談話 2 の冒頭に現れる用例で、いずれも本題に入る前の前置きとして、相手から議論の前提を聞き出すため質問である。例 1 の場合、本題である「政府系金融機関の今回の政投銀等の見直し」について、B(国務大臣)に質問をする前段階として、前提を D(自治行政局長)から聞き出している。例 2 の場合、ここでの話題での本題は、指定都市制度の見直しについて D（自治行政局長）に質問することであるが、本題に入る前に回答者 B（国務大臣）に対して制度の運用の仕方に関する見解を質問している。質疑者は、回答を受けて「是非きちんと柱に据えていただきたいと思います。」と発言した後、本題に移っていることから、これ以降の議論（話題①～③）に必要な「国が制度を押し付けるのではなく、地域の発意と多様性に応じて自治を行う」という前提を聞き出していると言える。また、回答を得た後に「もう予定通り」だと感謝を述べていることから、質問する以前に回答者 B（国務大臣）の返答を知っている状態で質問したのではないと思われる。ここから、国会の議論は、最初の質疑者の挨拶、質問の前置き、議論の前提を述べる（ここでは前提を相手から聞き出す）という展開が典型的になっていると言える。

例 3 質問談話 2 の話題⑤冒頭部に現れるモラウ系肯定疑問類の表現

○藤末健三君（省略）また、本来であれば地方議会が地方自治体の行政運営を監視することとなりますけれども、事務の代替執行の場合、都道府県の事務執行を市町村議会が監視することになりますが、具体的にどのようなことになるのかということについてお答えいただけますでしょうか。《説明要求》お願いします。

○政府参考人（門山泰明君） 事務の代替執行でございますが、この事務の代替執行の場合は、今御指摘ございましたこれまでの事務の委託とは異なりまして、事務処理の権限自体が移るものではないというのが前提でございます。（省略）そういうことで、市町村の監視、それから自主性の尊重、両方の面でメリットが出せるのではないかと考えております。

○藤末健三君 局長、是非お願いしたいことがありまして、その基本的な考え方とし

ては、自治体の方々が判断をしていただくというのがもう基本だと思うんですよ。(省略)

次の例 3 は、質問談話 2 の話題⑤冒頭部に現れる用例で、話題⑤の本題の要望を述べるための前提を D(自治行政局長)から聞き出している。

例 4 質問談話 1 の話題③冒頭部に現れるモラウ系肯定疑問類の表現

○藤末健三君 (省略) もし、例えば海外のタックスヘイブンなんかには本社を移しサーバーもタックスヘイブンに移しましたよと、そして日本の人たちが商品を買いますよということがあった場合に、今の金商法上は五十六条の二というやつで読み込むしかないんですよ、大きな枠組みの中の一つなんですよ。そういう状況について大臣はどのようにお考えかということをちょっと教えていただけますか。《見解要求》

○国務大臣(与謝野馨君) 明らかに一定の規制を逃れるために海外にサーバーを移すだけのことは、これは実態は何も変わらないので脱法的な行為と言わざるを得ないと、そのように思っております。

○藤末健三君 それで、大臣にお聞きしたいのは、脱法行為というのはもう明確なんですよ、法上。(省略)ということをございまして、そして私の提案は、これはやっぱり私は何らか法改正を行って、規制する手だてをつくっておく必要があるのではないかということを申し上げたいと思います。

(質問談話 1)

次に、例 4 は、質問談話 1 の話題③の序盤に現れる用例である。ここでの本題は、FX の脱法行為対策として回答者 B (国務大臣) に「法改正」を提案することである。質疑者は、回答者 B に現状の見解を求めて「脱法的な行為と言わざるを得ない」という回答を聞き出した上で、「法改正」を提案している。よって、ここでも本題に入る前に必要な前提を相手から聞き出していると言える。

また、回答者 B の回答を得た後、質疑者は「脱法行為というのはもう明確なんですよ、法上。」と受け答えしていることから、例 1 と同様に、例 2 についても、既に回答者の答えを予想したうえで質問をしていると言える。ここでの談話展開は、既に回答者の答えを予測して質問し、自分の欲しい答えを聞き出すことで両者の認識(脱法行為)を一致させ、要望を述べることで、自分の要望を通しやすくしているのだと思われる。

以上、4 つの用例から、モラウ系肯定疑問類の表現は、談話展開上では、談話の序盤、あるいは新しい話題の序盤に現れ、本題に入る前の前提を相手から聞き出し、両者の認識を共有するための質問に用いられているということがわかった。

3.2 モラウ系否定疑問類の表現の用例

次に、モラウ系否定疑問類の表現の用例を見ていく。モラウ系否定疑問類の表現は、いずれも質疑者が回答者に対して不明な点や議論に必要な情報を要求する場合に用いられる。

例 5 質問談話 1 の中盤に現れるモラウ系否定疑問類の表現

○藤末健三君（省略）ですから、この地域の問題は、地方自治体の体力差によってこのように金利差が生まれるということと、もう一つあるのは、地方に行くと銀行の数が少ないんですよ、聞いていると。ですから、貸出しの競争の環境が弱くなっている、それで金利が上がっているんじゃないかという話もあるんですが、是非この点、金融庁さん、どのように現状を把握されて、かつどのようにお考えかというのを教えてくださいませんか。《見解要求》お願いします。

例 5 は、人づてに聞いた話が妥当なものであるか、政府参考人に見解を求める質問である。

例 6 質問談話 2 の中盤に現れるモラウ系否定疑問類の表現

○藤末健三君（省略）この連携制度の創設につきましては、これは関口副大臣にお聞きしたいんですけども、新たな自治体間の連携の考え方としまして、（省略）新たな連携というものをてこに更に市町村の合併を進めるつもりなのか、若しくは市町村合併をこれ以上進めるのは限界と考えた上での新しい制度なのかということを教えてくださいませんか。《説明要求》

○副大臣（関口昌一君）人口減少社会において、全国の市町村が地方自治体として持続可能な行政サービスを提供していくためには、（省略）今後は、自主的な合併や市町村間の広域連携、都道府県との連携など多様な手法の中で、（省略）自治体の自主的な判断によって地域の活性化につなげていただくようにしていただければと思います。

○藤末健三君 是非、この新しい連携制度というのは非常にキーになると思います、私、この法律の。この連携をどのように進めるかによってこの法律の改正が成功するかどうかが決まると思いますし、きちんと哲学を持って、原理原則を持って運用をしていただきたいと思います。

（質問談話 2）

例 6 は、前節で述べた「地方自治体の自主的な判断を尊重する」という前提のもと話題①と話題②についての質疑が終わり、続けて話題③を議論している場面である。そのため、ここでの否定疑問文は、話題③の冒頭部分に現れているが、前節のモラウ系肯定疑問類の表現のように議論に必要な前提を相手から聞き出すための質問ではなく、制度の内容に関してさらに詳しい情報を得るための質問だと言える。

例7 質問談話2の中盤に現れるモラウ系否定疑問類の表現

藤末健三君 (省略) また続けて関口副大臣にお聞きしたいんですが、平成二十年の十二月に定住自立圏構想推進要綱というものが定められまして、人口で五万人以上程度、昼夜間の人口比率一以上の市を中心とする定住自立圏というのが定められております。これも自治体の連携を進めてきたわけですが、今回の新しい広域連携制度、この従来の定住自立圏に加え新しく地方中枢拠点都市を中心とした連携が加わるということは、従来の定住自立圏がうまく機能しなかったのかどうか、実際にこの定住自立圏はどのように評価しているか、その点を教えていただけないでしょうか。

《見解要求》よろしくお願いたします。

○副大臣(関口昌一君) この点に関しても吉川委員と行政局長との答弁の中であったかと思いますが、定住自立圏構想を進める中で、なかなか大都市圏というか、参加をしていただけなかったというのが現状であります。この理由としては、人口減少社会において地方圏の牽引役となるべき指定都市や中核市においてその役割が十分に認識されなかったとか、さらには大規模な都市が取組を実施するには十分な財政措置がとられなかった、こういうようなことが一つの理由であるかと思っております。(省略)

○藤末健三君 ありがとうございます。(省略)

例7は、例6の質問の後の質問である。質疑者は、再度続けて同じ回答者C(副大臣)に対して否定疑問文を用いて質問をしている。この談話において、質疑者は、回答者C(副大臣)にのみモラウ系否定疑問類の表現を用いていることから、回答者ごとに用いる表現を使い分けているように思われる。これは、第3章において、モラウ系否定疑問類の表現が人間関係の継続性が生じる人物に対して選択されやすいという結果にも合致している。

今回の調査で用いた資料では、モラウ系否定疑問類の表現の例は、いずれも談話の中盤に、議論の前提が提示された後に現れるため、要望を述べるのに必要な情報や不透明な点を深掘するための質問として使用されていると言える。

3.3 モラウ系許可求め類の表現の用例

モラウ系許可求め類の表現については、2000年以前は、「確認させていただいて(も)いいですか。」のような相手の発言を確認する表現のみが使用され、「教えていただいて(も)いいですか。」のような情報要求の表現は2000年以降に使用が増加する。以下では、まず、2000年以前の用例を確認し、続いて2000年以降の用例を見ていく。以下に、2000年以前の許可求め類の用例を採取した会議録の詳細を示す。

追加調査資料

例8 抜粋資料

第 58 回国会 衆議院 社会労働委員会 第 26 号 昭和 43 年 5 月 16 日

A (質疑者)：後藤俊男 (ごとう としお)

B (回答者)：園田直 (そのだ すなお)

例 9 抜粋資料

第 73 回国会 参議院 法務委員会 閉会后第 2 号 昭和 49 年 9 月 9 日

A (質疑者)：橋本敦 (はしもと あつし)

B (回答者)：中江要介 (なかえ ようすけ)

例 8 質問談話の中盤に現れるモラウ系許可求め類の表現 (確認)

○後藤委員 そうしますと、いまの問題につきましては、いろいろむずかしい面もあるけれども、可及的すみやかに撤廃する方向へ全力を尽くしたい、こういうように御確認させていただいてよろしゅうございますか。《見解要求》

○園田国務大臣 そのとおりでございます。

例 9 質問談話の中盤に現れるモラウ系許可求め類の表現 (確認)

○橋本敦君 (省略) これに対しては日本の憲法と法の立場において、とてもそういうことはできることではないし、やるべきではないという見解が、政府の見解としてこれははっきりしているということを確認させていただいてよろしいですか。《見解要求》

○説明員 (中江要介君) 政府の立場についていろいろ報道され、あるいは国内で説明していることが表に出ているということはいま御指摘のとおりでございますけれども、韓国政府との間について言いますと、それは先ほど私が申し上げましたような一般的な日本政府の考え方というものを、すでに外交経路を通じて先方に伝えていることは事実でございますが、にもかかわらず韓国では、まだ日本政府の姿勢について必ずしも十分な理解と納得を得ていない面があるものですから、その点を今回の親書によって、最高責任者たる総理の手紙によって再確認して、そして韓国側にもし誤解があるならばそれを解いて、そうして冷静に日韓間で話を進めていきたいと、こういう趣旨でございます。

例 8 と例 9 は、いずれも回答者の前の発言内容を確認している用例である。例 8 は、質疑者と回答者で情報や認識があっている場合であるが、例 9 は、質疑者と回答者で情報や認識があっていない場合である。例 9 のような場合、回答者は質疑者の質問 (確認) を受けて、質疑者の認識と一致していない部分を追加で説明していることから、両者の認識をすり合わせる質問になっている。そのため、結果的に情報要求を意図する表現として機能している。

例 10 質問談話 1 の中盤に現れるモラウ系許可求め類の表現

○藤末健三君 (省略) 例えば岐阜市、一・二%です、負担は。沖縄は約三%。そうすると、一千万円借りちゃうと十九万、二十万円近い金利負担が、差が生じるわけですよ。これは大きなものですね。こういう状況を見ていただき、どういう対応を取るかということなんですけれど、これはまず中小企業庁さんにちょっとお答えいただきたいですか。**《見解要求》** こういう地域の格差、信用保証の地域格差をどう考えるか、お答えください。

○政府参考人(横尾英博君) 今委員御指摘の、まず緊急保証制度につきましては、これは全国一律の制度として一〇〇%の保証、それから保証料〇・八以下という、今の厳しい経営環境に配慮した条件を設定をしているということでございます。(省略) いずれにせよ、今後とも、私ども、地方公共団体とも連携をしながら中小企業の資金繰り支援には全力で取り組んでまいりたいと考えております。

○藤末健三君 与謝野大臣にちょっと御質問申し上げます。(省略) 是非大臣に一点お願いしたいのは、これを検討していただきたいんですよ、解決を。〈行動要求〉(省略) ですから、基本的に中小企業庁さんがおっしゃったやつを代弁すると、我々はもう手を出せません、自治体が勝手にやってくださいという話なんですよ、極論すると。

(質問談話 1)

次に、2000年以降の例だが、例10は、例3のモラウ系否定疑問類の表現の例と同様に、質疑者が制度の内容や回答者の見解について詳しい説明を要求する質問である。では、モラウ系否定疑問類の表現との違いについて見ていく。例3のモラウ系否定疑問類の表現を用いた質問の後には、その回答に対する質疑者の返答か、あるいはその回答をふまえて、例4にあったように同じ回答者C(副大臣)に自分の要望を述べていたのに対し、例6を見ると、質問の後に回答者D(政府参考人)への返答はせず、すぐに「大臣にちょっと御質問申し上げます。」とB(国务大臣)に対して自分の要望を述べている。

つまり、自分よりも詳しい情報を持っている人物や問題に直面している当事者に説明を要求することで、説得しやすくしているように見える。ここから、モラウ系許可求め類の表現は、最終的に要望を通す相手に対して、自分の要望を通すのに有利になる情報を得るため、一時的に別の人物に説明を要求する表現として使用されていると思われる。

では、なぜ、一時的に別の人物へ説明を要求するときの表現として、モラウ系許可求め類の表現が使用されるのだろうか。政府参考人という人物は、制度や資料等に関する詳しい情報を持つ人物で、質疑応答では、それを説明する回答者の役割を担っている。また、国务大臣や副大臣といった人物と比べると、質疑者にとって人間関係の継続性が生じない人物だと捉えることができる。これは、第3章の調査結果である、モラウ系許可求め類の表現は、役割関係が生じ、人間関係の継続性がない人物に対して選択されやすいことに合致する。質疑者は、その場で必要な情報が得られるだろうと想定して政府参考人に質問す

るため、第 4 章の結果である、発話現場実現性のある場面だと言える。よって、本稿で述べてきたモラウ系許可求め類の表現の使用が妥当とされる条件がそろっているため、モラウ系許可求め類の表現が用いられたのだと考えられる。また、一時的に詳しい説明をはさむという点においては、モラウ系否定疑問類の表現を使うほどへりくだる必要がないため、モラウ系許可求め類の表現が選ばれたのだと思われる。

以上、モラウ系許可求め類の表現は、話題の中盤に現れ、上接語が「確認させる」等の使役形の場合は、両者の認識をすり合わせる質問として用いられ、2000 年以降に使用が増加した「教える」などが上接する場合は、要望を述べる前に一時的に別の人物からの説明を要求する場合に用いられるということがわかった。

4. まとめ

談話展開上におけるイタダクの依頼表現の 3 種の構文の現れる位置とその働きについてまとめる。モラウ系肯定疑問類の表現は、談話全体、あるいは、新しい話題の序盤に導入として表れ、議論の前提となる情報を聞き出す表現として用いられる。モラウ系否定疑問類の表現とモラウ系許可求め類の表現は、いずれも議論の中盤に、必要な情報を要求する質問として現れる。モラウ系否定疑問類の表現は、相手の見解や情報の不透明な点を回答者本人から聞き出す場合に現れるが、モラウ系許可求め類の表現は、2000 年以前は相手に自分の認識が合っているのかを確認する場合に多用される。そして、2000 以降は質問の後の要求を述べる相手に違いがあり、自分の要望を述べる前に、要望を通すために有利な情報を得るため、一時的に別の人物に対して説明を要求する場合に用いられる。

このように、3 種類の構文は、談話展開において異なる位置に現れ、それぞれ同じ情報要求の場面であっても、異なる働きをしていることがわかった。また、その働きの違いから使用される人物にも違いがあることが明らかになった。

第6章 日韓における行為要求表現の運用の比較

1. はじめに

日本語と韓国語には、話題の人物に対する敬語(尊敬語・謙讓語)と聞き手に対する敬語(丁寧語)が体系的に整っている。また、授受動詞の補助動詞用法があり、恩恵的な行為のやり取りを表す表現体系が存在しており、両言語とも授受動詞を依頼表現に使用することが可能であるが、用いられる授受動詞に日韓で違いがある。日本語の依頼表現で用いられる授受動詞は、授与動詞「くれる(非敬語形)／くださる(敬語形)」と受納動詞「もらう(非敬語形)／いただく(敬語形)」である。一方で、韓国語の場合は、授与動詞「주다(非敬語形)／주시다(敬語形)」(くれる／くださる)は補助動詞用法が存在し、依頼表現に用いられるが、「もらう」に相当する「받다(非敬語形)」は補助動詞用法が存在しないため、依頼表現をつくることはできない。本章では、数多くある授受動詞を用いた依頼表現が、日韓それぞれの若年層においてどのように使い分けられているのかに着目し、行為要求表現(命令・依頼表現)の運用の日韓比較を行う。

2. 先行研究

2.1 日本語と韓国語の待遇表現

待遇表現とは、対人関係や場面差などに配慮して使い分ける表現のことである。いわゆる敬語は上向き待遇を表す専用形式であり、話題の人物への上向きの待遇意図を表す敬語を素材敬語といい、聞き手や発話の場面への配慮によって用いられる敬語を対者敬語という。日本語では、通常、素材敬語である尊敬語と謙讓語、対者敬語である丁寧語の3分類が行われるが、韓国語にはこれに対応するものとして주체높임법(主体敬語)、객체높임법(客体敬語)、청자높임법(対者敬語)がある(김태엽 1999)。

日本語に関しては日本語記述文法研究会(編)(2009)、韓国語に関しては김태엽(1999)をもとに、動詞「言う」に相当する日本語と韓国語の待遇語を整理すると表6-1のようになる。

日本語と韓国語の素材待遇語には、待遇相手が主語の場合と目的語の場合が存在する。日本語では待遇相手が主語である場合、待遇の向きは上向き待遇、中立待遇、下向き待遇があり、それぞれ「おっしゃる」(上向き待遇)、「言う」(中立待遇)、「言いやがる」(下向き待遇)のような待遇語が存在する。主語に対する上向き待遇語を尊敬語、下向き待遇語を卑罵語という。一方、韓国語の場合、主語に対する上向き待遇語と中立待遇語は存在するが、下向き待遇語に相当する動詞の待遇語は存在しない。待遇相手が目的語の場合は、日本語、韓国語ともに、上向き待遇語と中立待遇語がある。目的語に対する上向き待遇語を謙讓語という。

対者待遇語には、日本語、韓国語ともに、待遇相手である聞き手に対する上向き待遇語、中立待遇語がある。日本語の場合、上向き待遇の対者待遇語を丁寧語といい、「言います」

のような丁寧語を用いた文体を丁寧体、「言う」のような中立待遇語を用いた文体を普通体という。韓国語の場合は、上向き待遇の対者待遇語として、①합쇼체、②해요체、③하오체、④하게체의 4 種類が存在し、中立待遇の対者待遇語として、⑤반말체、⑥해라체의 2 種類が存在する。

表 6-1 日本語と韓国語の動詞の待遇語
(日本語記述文法研究会(編)2009・김태엽 1999 をもとに作成)

	待遇相手	待遇の向き	日本語(言う)	韓国語(말하다)
素材待遇語	主語	上向き待遇(尊敬語)	おっしゃる	말씀하시다
		中立待遇	言う	말한다
		下向き待遇(卑罵語)	言いやがる	/
	目的語	上向き待遇(謙讓語)	申し上げる	말씀드린다
		中立待遇	言う	말한다
対者待遇語	聞き手	上向き待遇(丁寧語)	言います(丁寧体)	①말합니다(합쇼체)
				②말해요(해요체)
		中立待遇	言う(普通体)	③말하오(하오체)
				④말하게(하게체)
				⑤말해(반말체)
				⑥말해라(해라체)

※①～⑥は待遇レベルによる分類で、下へ行くほど敬意が低い。

韓国語の 6 種類の対者待遇語については、李翊燮・李相億・蔡ワソ(2004)を参考に以下のようにとめる。

- ①합쇼체：韓国語の対者敬語法の 6 等級のうち最も丁重に、最も恭しく遇する最上級の言葉遣いである。(中略)目上の人だけに使えるという点で、同位ないし下位の人にも使える②해요체と区別され、同じ目上の人に使うといっても、②해요体を使うときよりも丁重の度合いが異なり、格式性を帯びるという点で②해요体と区別される。
- ②해요체：聴者が自分より上位の人であったり、上位になくても丁重に遇すべき人であったりするときを使う言葉遣いとして、今日最も広く使われている等級である。上位の人にもあまり格式ばらないときには합쇼체より해요体が多く使われるが、同位や下位の人にある人には①합쇼체가不適切で、この人たちに尊待語を使おうとするときは、②해요体を使うことになるので、②해요体は自然に幅広く使われる。

- ③하오체：自分より下の人に使うが、その下の人を丁重に遇しようとする言葉遣いであり、その丁重さの程度が④하게체より一等級上である。
- ④하게체：聴者が話者より年齢や社会的な地位が下の場合に使われるが、その人を⑤반말体、⑥해라体のときより軽く考えず、応分の待遇をする場合に使用される。
- ⑤반말体：聴者との距離を⑥해라体より若干多めにとり、いくらかでもその聴者を慎重に遇する機能がある。
- ⑥해라体：この等級は気の置けない友達に、あるいは父母が子供に、あるいは年配の話者が小学生や中学生程度の幼い子供を相手に使う等級である。もともと最下位の等級であるために、友達同士であったとしても中年や老年になれば、使いにくくなる等級である。

2.2 日本語と韓国語の行為要求表現

ここでは、日本語と韓国語の行為要求表現の形式について述べる。両言語とも命令の表現は動詞の活用形(命令形)で表される。

韓国語の場合、①합쇼体は「하십시오」、②해요体は「하세요」、③하오体は「하오」、④하게体は「하게」、⑤반말体は「해」、⑥해라体は「해라」となる。依頼表現は授受動詞を用いた表現で表される。日本語と韓国語の授受動詞を対照させると以下ようになる。

表 6-2 日本語・韓国語の授受動詞 (井出・任 2001 をもとに作成)

授受動詞の種類	日本語	韓国語
授与動詞	くれる	주다
	くださる	주시다
	やる	주다
	あげる	드리다
	さしあげる	
受納動詞	もらう	받다
	いただく	/

表 6-2 のとおり、日本語の「くれる」「やる」「あげる」に相当する韓国語は「주다」のみである。また、日本語の受納動詞は、「もらう」とその謙讓語「いただく」の 2 つが存在するが、韓国語の場合は、非敬語形「받다」のみである。また、韓国語では授与動詞「주다」「주시다」「드리다」には補助動詞用法があるが、受納動詞「받다」には日本語の「してもらう」のような補助動詞用法がない。したがって、日本語に存在する「してもらえますか?」「していただけますか?」のような受納動詞による依頼表現は、韓国語には存在しないと

いうことになり、「주다(くれる)」「주시다(くださる)」が使用される。①합쇼体は「해주시오」、②해요体は「해주세요」、③하오体は「해주오」、④하계体は「해주게」、⑤반말体は「해줘」、⑥해라体は「해줘라」となる。

次に、日本語と韓国語の依頼表現を比較するにあたり、両言語における調査対象の依頼表現を整理する。日本語の行為要求表現は、表 1-6 を基準に、アンケート調査の結果の分析を行う。

韓国語の行為要求表現は、第 1 章で荻野他(1990)を参考に整理した表 1-13(本章では表 6-3 と示す)の表現を扱う(荻野他(1990)では扱っていないが命令・依頼表現として構成が可能なものもあげている)。荻野他(1990)では、5 つの文末語尾の行為要求表現が調査対象とされていたが、本調査では、③하오体と④하계体を除いた 4 つの文末語尾が回答されていたため、調査対象の行為要求表現の待遇形式の組み合わせは、表 6-3 のように 5 つとする。すなわち丁寧体と敬語形の組み合わせである「①합쇼体・敬語形(Ⅲ)′)」と「②해요体・敬語形(Ⅲ)」、丁寧体と非敬語形の組み合わせである「②해요体・非敬語形(Ⅱ)」、普通体と非敬語形の組み合わせである「⑤반말体・非敬語形(Ⅰ)′)」と「⑥해라体・非敬語形(Ⅰ)」の 5 つである。各行為要求表現には便宜上、記号をつけているが、C は授受動詞「주다」を示している。各類別を示す記号としては、命令類を 0、「肯定疑問類」を 1、「否定疑問類」を 2、「可能肯定疑問類」を 3、「可能否定疑問類」を 4 としている。本章は、語構成で分類しているため、日韓比較しやすくするため逐語訳を()内に示す。

「ㄷ래/을래」は、1 人称主語の場合、話し手の意志を述べる形式であるが、2 人称主語の場合、聞き手の意志を問う形式になる。よって、授与動詞「주다」(くれる)に「ㄷ래?」を接続させたものは、聞き手の意志を問う行為要求表現であるため、これらの行為要求表現の形式の類別を「意志」とし、「意志肯定疑問類/意志否定疑問類」のように呼んでいく。また、未来を表す補助語幹「ㄹ」を用いた行為要求表現は「ㄷ래?」の「意志」と区別させるため、「未来肯定疑問類/未来否定疑問類」という名称で分類し、分析を行う。「Ⅲ敬語形・丁寧体」の「可能肯定疑問類」には代表例として「해주시실 수 있어요?(して下さることはできますか)」を上げているが「해줄 수 있으세요?(して下さることがおできになりますか)」「해주시실 수 있으세요?(して下さることがおできになりますか)」といった表現も含まれている。

表 6-3 現代韓国語の行為要求表現の分類

文末語尾	依頼表現	類別	待遇形式の組み合わせ	記号
⑥해라体	해라. (しろ)	活用形類 (命令形)	I : 非敬語形・普通体	I 0
⑤반말体	해 봐. (してみろ)	活用形類 (ミロ形)	I′	I 0
	해. (しろ)	活用形類 (命令形)	非敬語形・	I 0

	해줘. (してくれ)	命令類 (クレ形)	普通体	I C0
	해주겠어? (してくれる?)	未来肯定疑問類		I C1
	해줄래? (してくれるつもり?)	意志肯定疑問類		I C1
	해주지 않을래? (してくれないつもり?)	意志否定疑問類		I C2
	해줄 수 있어? (してくれることはできる?)	可能肯定疑問類		I C3
	해줄 수 없어? (してくれることはできない?)	可能否定疑問類		I C4
②해요体	해줘요? ¹⁸ (してくれますか?)	命令類 (クレマスカ形)	II 非敬語形・ 丁寧体	II C0
	해주겠어요? (してくれますか)	未来肯定疑問類		II C1
	해줄래요? (してくれるつもりですか)	意志肯定疑問類		II C1
	해주지 않을래요? (してくれないつもりですか)	意志否定疑問類		II C2
	해줄 수 있어요? (してくれることはできますか)	可能肯定疑問類		II C3
	해줄 수 없어요? (してくれることはできないですか)	可能否定疑問類		II C4
②해요体	하세요. (しなさい)	命令類 (ナサイ形)	III 敬語形・ 丁寧体	III 0
	해주세요. (してください)	命令類 (クダサイ形)		III C0
	해주시겠어요? (していただけますか)	未来肯定疑問類		III C1
	해주시래요? (して下さるつもりですか)	意志肯定疑問類		III C1
	해주시지 않을래요? (して下さらないつもりですか)	意志否定疑問類		III C2
	해주시실 수 있어요?	可能肯定疑問類		III C3

¹⁸ 해줘요?は疑問文であるため「してくれますか?」となるが、平叙文の場合、해줘요.は「してくれませ」となるため、本章では해주겠어요?(してくれますか?)と区別するため、命令類に分類した。

	(して下さることはできますか)			
	해주실 수 없어요? (して下さることはできませんか)	可能否定疑問類		III C4
①합쇼체	해주십시오. (して下さいます)	命令類 (クダサイマセ形)	III' 敬語形・ 丁寧体	III C0
	해주시겠습니까? (して下さいますか?)	意志肯定疑問類		III C1

2.3 日本語と韓国語の待遇表現の運用法

韓国語の書きことばの調査としては、油谷(1974)があげられる。一方で、韓国語母語話者の敬語使用に関する研究は、青山(1969a、1969b、1970)があげられるが、ここでは、前節であげた待遇レベルの一般的な運用法の中で、本調査に関連のあるものを示す。現在の日本語の場合、目上の人物に対しては上向きの待遇語を使用するが、身内には年上であったとしても使用しないことが一般的である。一方、韓・梅田(2009)は、韓国語の場合、身内であっても目上の人物であれば上向きの待遇語を使用することが通例であると、韓国ドラマのセリフを例にあげ解説している。

例 1

어머니 : 아직 안 잤어?

母親 : まだ寝てないの?

진우 : 내일 시험이잖아요.

チヌ(息子・中学生) : あした試験があるじゃない (あるじゃないですか)。

어머니 : 시험 전날은 일찍 자야지. 그만하고 얼른 자.

母親 : 試験の前日は早く寝ないと。もう勉強やめて早く寝なさい。

진우 : 이번엔 규모도 크구 되게 어렵다던데. 걱정되서요.

チヌ : 今度の試験は規模も大きくて、すごく難しいんだって。心配だよ (心配ですよ)。

『江南ママに追いつけ』第1話 : 息子→母親

例 1 のとおり、韓・梅田(2009)は、息子チヌのセリフを和訳する際に、敬語の運用に関して現代日本語で自然な意識(丁寧語不使用)をあげたうえで、()の中に直訳(丁寧語使用)を示している。ただし、韓・梅田(2009)は、例 1 のように中学生の息子から母親に対して敬語を使用するのは非常に礼儀正しい事例であり、一般的には「子ども」の時期には父母に対して敬語は使用しないとし、大学生になると人間関係の幅が広がることから言葉づかいに気を使うようになり、父母に対して言葉づかいを丁寧な形式に変える人が多くなると自身の経験などもふまえて解説している。同様に祖父母に対する敬語使用は、3~4歳のころから教育する家庭もあるが、最近では同居などで子どもが親密に感じられるときは

甘えて敬語を使わないこともあると述べている。

大学生の敬語使用に関して、韓・梅田(2009)は、初対面の同級生には、学年が同じであることが優先され単語体を使い、相手が年上だとわかると訓読体に切り替える場合があるとある。

以上、先行研究にもとづき、本章の研究の枠組みを示し、日韓で対者待遇語の種類、依頼表現に用いられる授受動詞、敬語の運用法に違いがあることを確認した。韓国語の場合、大学生という言葉づかいを改める時期にどの程度言葉づかいの移行が見られるのか、その実態を明らかにする。また、若年層を対象に日本語と韓国語における行為要求表現にどのような違いが見られるかを比較する。

3. 日本語における調査

3.1 調査概要

本章で扱うデータは2013年に若年層を対象に行った行為要求表現に関する自由記述式のアンケート¹⁹のデータである。以下に調査概要を示す。アンケートの全文は資料編に掲載する。

回答者：若年層(関西大学学生 1989～1995 年生まれ) 51 名(男性 13 名、女性 38 名)

出身地：大阪府 23 名、京都府 2 名、兵庫県 11 名、和歌山県 4 名、愛知県 2 名、石川県 1 名、愛媛県 1 名、岡山県 1 名、香川県 2 名、鳥取県 1 名、福井県 1 名、三重県 2 名

質問項目：「自分の写真を撮ってもらう」という依頼場面において、依頼の相手として設定した「弟/妹」「親しい年下の友人」「親しい年下の先輩」「初対面の年下」「兄姉」「父母」「祖父母」「親しい年上の友人」「親しい年上の先輩」「初対面の年上」「ゼミの担当教授」のそれぞれに対してどのように言うかを記述式で回答。

調査時期：2013 年 5 月

本調査では、収集したアンケートの数に男女差があるため性差による分析を対象外とした。被調査者の大部分は関西出身者であるが、地域特有の行為要求表現は回答されていなかったため、地域差の分析も除外する。

3.2 調査結果

以下の表 6-4 は、アンケートで得られた行為要求表現の結果である。表の左側に回答された行為要求表現の形式、アンケートの実数をカッコ内に示し、それをもとに被調査者全体

¹⁹ 自由記述式のアンケートでは、制限を設けていないが、複数回答は見られなかった。

の何%が回答しているかを%で示している。

表 6-4 日本の若年層における行為要求表現の使用実態

待遇形式の組み合わせ	記号	目下	身内			非身内・親		非身内・疎	
			弟妹	父母	祖父母	仲の良い友人	仲の良い先輩	初対面	担当教員
(Ⅰ) 非敬語形・普通体	I 1	撮って	70%(24)			35%(16)	17%(6)	0%	
	I K0	撮ってくれ	0%			0%	0%	0%	
	I K1	撮ってくれる?	3%(1)			4%(2)	0%	4%(2)	
	I K2	撮ってくれない?	21%(7)			33%(15)	9%(3)	10%(5)	
	I M1	撮ってもらえる?	0%			2%(1)	0%	2%(1)	
	I M2	撮ってもらえない?/もらえん?	0%			0%	0%	0%	
	I M3	撮ってもらってもいい(かな)?	0%			26%(12)	9%(3)	14%(7)	
(Ⅱ) 非敬語形・丁寧体	II K1	撮ってください(か)	0%			0%	3%(1)	2%(1)	
	II K2	撮ってくれませんか/くれないですか	0%			0%	9%(3)	15%(8)	
	II M1	撮ってもらえます(か)	0%			0%	14%(5)	8%(4)	
	II M1	撮ってもらえませんか	0%			0%	0%	6%(3)	
	II M3	撮ってもらってもいいですか	0%			0%	18%(7)	21%(11)	
(Ⅲ) 敬語形・丁寧体	III K0	撮って下さい	0%			0%	3%(1)	10%(5)	
	III M1	撮っていただけますか	0%			0%	3%(1)	4%(2)	
	III M2	撮っていただけませんか	0%			0%	0%	0%	
	III M3	撮っていただいてもいいですか	0%			0%	9%(3)	4%(2)	
	その他		6%(2)			0%	3%(1)	0%	
	合計		100%(34)			100%(46)	100%(35)	100%(51)	
		目上	兄姉	父母	祖父母	仲の良い友人	仲の良い先輩	初対面	担当教員
(Ⅰ) 非敬語形・普通体	I 1	撮って	67%(19)	78%(40)	62%(31)	20%(10)	0%	0%	0%
	I K0	撮ってくれ	4%(1)	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	I K1	撮ってくれる?	4%(1)	4%(2)	4%(2)	0%	0%	0%	0%
	I K2	撮ってくれない?	21%(6)	16%(8)	18%(9)	10%(5)	0%	0%	0%
	I M1	撮ってもらえる?	0%	0%	2%(1)	2%(1)	0%	0%	0%
	I M2	撮ってもらえない?/もらえん?	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	I M3	撮ってもらってもいい(かな)?	4%(1)	2%(1)	14%(7)	18%(9)	0%	0%	0%
(Ⅱ) 非敬語形・丁寧体	II K1	撮ってください(か)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	II K2	撮ってくれませんか/くれないですか	0%	0%	0%	8%(4)	10%(5)	6%(3)	6%(3)
	II M1	撮ってもらえます(か)	0%	0%	0%	8%(4)	10%(5)	16%(8)	6%(3)
	II M1	撮ってもらえませんか	0%	0%	0%	2%(1)	8%(4)	12%(6)	16%(7)
	II M3	撮ってもらってもいいですか	0%	0%	0%	16%(8)	42%(21)	22%(11)	28%(13)
(Ⅲ) 敬語形・丁寧体	III K0	撮って下さい	0%	0%	0%	16%(8)	26%(13)	8%(4)	8%(4)
	III M1	撮っていただけますか	0%	0%	0%	0%	0%	16%(8)	10%(5)
	III M2	撮っていただけませんか	0%	0%	0%	0%	0%	8%(4)	8%(4)
	III M3	撮っていただいてもいいですか	0%	0%	0%	0%	2%(1)	10%(5)	14%(7)
	その他		0%	0%	0%	0%	2%(1)	2%(1)	4%(2)
	合計		100%(28)	100%(51)	100%(50)	100%(48)	100%(50)	100%(50)	100%(50)

なお、アンケートに回答されていた方言の「してくれん?」「してくれへん?」のような回答については「してくれない?」に相当する表現であるため、同じ「クレル系否定疑問類・非敬語形・普通体」として分類している。また、「撮ってください?」終助詞「か」を用いない疑問文も同じクレル系肯定疑問類・非敬語形・丁寧体として分類している。また、モラウ系許可求め類には、撮ってもらって(も)いい?、撮ってもらって(も)いいですか、撮ってもらって(も)いいでしょうか、撮ってもらって(も)よろしいですか、撮っていただいてもいいですか、撮っていただいてもよろしいでしょうか、といった形式が回答されていたが、これらはすべてモラウ系許可求め類とした。「撮ってほしい。」「写真お願いします。」のような回答数の少ない表現はその他に分類している。

表 6-4 によると、聞き手が身内である場合、最も多かった表現は「撮って」であった。次に聞き手が親しい非身内の場合を見ていく。仲のよい年下の友人の場合、「撮って」と「撮ってくれない？」に回答が多く見られた。仲のよい年上の友人の場合でも「撮って」が最も多く回答され、その次に「撮ってもらって(も)いい?」、そして「撮ってもらって(も)いいですか」が選ばれている。仲のよい先輩の場合、年下と年上のどちらにも最も多く回答されていたのは、「撮ってもらって(も)いいですか」であった。年下の初対面の人の場合、「撮ってもらって(も)いいですか」に最も回答が見られ、その次に「撮ってくれないか」が回答されていた。普通体では「撮ってもらって(も)いい?」が多く回答されていたことから、「してもらって(も)いい?」は、普通体であっても初対面への使用が許容される表現として捉えられているということがわかった。最後に年上の初対面とゼミの担当教授の場合は、「撮ってもらって(も)いいですか」が最も多く回答されていた。

3.3 まとめ

以上、身内を含め、親しい年下の友人と親しい年下の先輩には「撮って」が選ばれやすく、初対面で心的に距離がある場合や親しい先輩、ゼミの担当教授といった上向きの待遇を使用する相手には「撮ってもらって(も)いいですか」が選ばれやすいという結果になった。これについては、依頼の負担度が比較的小さい場面であったため、「してもらって(も)いいですか」が選ばれたとではないかと思われる。

4. 韓国語における調査

4.1 調査概要

今回の調査で取り扱うデータは、2012年に若年層を対象に行った行為要求表現に関する自由記述式のアンケート²⁰のデータである。調査概要は以下のとおりである。アンケートの全文は資料編に掲載する。

回答者：若年層(嶺南大学校学生 1985～1994年生まれ) 71名(男性 15名、女性 56名)

出身地：慶尚北道 76名(うち大邱広域市 57名)、慶尚南道 7名(釜山 1名)、京畿道 2名、忠清北道 1名、済州島 1名、全羅北道 1名

質問項目：「自分の写真を撮ってもらう」という依頼場面において、依頼の相手として設定した「弟/妹」「親しい年下の友人」「親しい年下の先輩」「初対面の年下」「兄姉」「父母」「祖父母」「親しい年上の友人」「親しい年上の先輩」「初対面の年上」「ゼミの担当教授」のそれぞれに対してどのように言うかを記述式で回答。

調査時期：2012年9月

²⁰ 自由記述式のアンケートでは、制限を設けていないが、複数回答は見られなかった。

4.2 調査結果

では、表 6-3 の分類に則って調査の結果を以下の表 6-5 に表し、その傾向を述べる。なお、アンケートに回答されていた少数回答の表現(「찍어라(撮れ)」「찍어(撮れ)」「찍어봐(撮ってみろ)」「찍어봐라(撮ってみろ)」「찍어주라(撮ってくれろ)」)はその他に分類した。

表 6-5 韓国の若年層における行為要求表現の使用実態

待遇形式の 組み合わせ	記号	年下	身内			非身内・親		非身内・疎		
			弟/妹			仲の良い 友人	仲の良い 先輩	初対面		
(Ⅰ') 非敬語形・ 普通体	I C0	찍어줘	85%(45)			68%(59)	37%(28)	5%(4)		
	I C1	찍어 줄래?	5%(3)			23%(20)	8%(8)	46%(39)		
	I C2	찍어주지 않을래?	0%			0%	0%	1%(1)		
	I C3	찍어줄 수 있어?	0%			1%(1)	1%(1)	17%(14)		
(Ⅱ) 非敬語形・ 丁寧体	II C0	찍어줘요	0%			0%	6%(6)	0%		
	II C1	찍어주겠어요?	0%			0%	0%	0%		
	II C3	찍어줄 수 있어요?	0%			0%	4%(3)	2%(2)		
(Ⅲ)敬語形・ 丁寧体	III C0	찍어주세요	0%			0%	32%(24)	7%(6)		
	III C1	찍어주시겠어요?	0%			0%	0%	5%(4)		
	III C1	찍어주실래요?	0%			0%	3%(2)	2%(2)		
	III C3	찍어줄 수 있으세요?	0%			0%	0%	0%		
	III C3	찍어주실 수 있어요?	0%			0%	0%	0%		
	III C3	찍어주실 수 있으세요?	0%			0%	0%	2%(2)		
(Ⅲ') 敬語形・ 丁寧体	III C0	찍어주십시오	0%			0%	0%	0%		
	III C1	찍어주시겠습니까?	0%			0%	0%	0%		
	III C3	찍어주실 수 있습니까?	0%			0%	0%	0%		
	III C3	찍어주실 수 있으십니까?	0%			0%	0%	0%		
		その他	10%(5)			7%(7)	1%(1)	6%(5)		
		合計	100%(53)			100%(87)	100%(73)	100%(84)		
		年上		兄弟	父母	祖父母	仲良い 友人	仲良い 先輩	初対面	担当教授
(Ⅰ') 非敬語形・ 普通体	I C0	찍어줘	82%(59)	40%(34)	6%(5)	32%(27)	17%(14)	2%(2)	0%	
	I C1	찍어 줄래?	3%(2)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
	I C2	찍어주지 않을래?	0%	0%	0%	0%	0%	1%(1)	0%	
	I C3	찍어줄 수 있어?	0%	0%	0%	2%(2)	0%	0%	0%	
(Ⅱ) 非敬語形・ 丁寧体	II C0	찍어줘요	0%	4%(3)	0%	0%	16%(14)	20%(17)	1%(1)	0%
	II C1	찍어주겠어요?	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%(1)	0%
	II C3	찍어줄 수 있어요?	0%	0%	0%	1%(1)	0%	0%	0%	
(Ⅲ)敬語形・ 丁寧体	III C0	찍어주세요	4%(3)	49%(41)	69%(60)	36%(31)	51%(43)	43%(35)	27%(21)	
	III C1	찍어주시겠어요?	0%	0%	3%(3)	0%	0%	10%(8)	12%(9)	
	III C1	찍어주실래요?	0%	1%(1)	7%(6)	1%(1)	4%(3)	11%(9)	5%(4)	
	III C3	찍어줄 수 있으세요?	0%	0%	0%	1%(1)	0%	4%(3)	0%	
	III C3	찍어주실 수 있어요?	0%	1%(1)	3%(3)	0%	1%(1)	7%(6)	12%(9)	
	III C3	찍어주실 수 있으세요?	0%	0%	5%(4)	0%	0%	12%(10)	22%(17)	
(Ⅲ') 敬語形・ 丁寧体	III C0	찍어주십시오	0%	0%	1%(1)	0%	0%	0%	1%	
	III C1	찍어주시겠습니까?	0%	1%(1)	2%(2)	0%	0%	0%	8%(6)	
	III C3	찍어주실 수 있습니까?	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%(1)	
	III C3	찍어주실 수 있으십니까?	0%	0%	0%	0%	1%(1)	0%	1%(1)	
		その他	10%(8)	3%(3)	3%(3)	7%(6)	1%(1)	7%(6)	10%(8)	
		合計	100%(72)	100%(84)	100%(89)	100%(78)	100%(82)	100%(85)	100%(89)	

まず、身内の場合を見ていく。弟/妹、兄弟の場合「찍어줘(撮ってくれ)」が最も多く回答されていた。父母の場合、49%が「찍어주세요(撮ってください)」と回答していたが、40%が「찍어줘(撮ってくれ)」と回答しており、非敬語形・普通体から言葉づかいを改めている割合は全体の約半分だということがわかった。祖父母の場合、父母の場合と同様に

「찍어주세요(撮ってください)」が最も多く回答されていたが、「찍어줘(撮ってくれ)」の回答は少数であったため、韓・梅田(2009)のとおり祖父母に対して敬語を使用する割合が高いことが確認できた。

続いて、親しい非身内の場合を見ていく。まず、年下の仲の良い友人、年下の仲の良い先輩の場合は、「찍어줘(撮ってくれ)」が最も多く回答されていた。一方、年上の仲の良い友人、年上の仲の良い先輩の場合は、「찍어주세요(撮ってください)」が最も多い回答であった。よって、親しい年下には「찍어줘(撮ってくれ)」が選ばれやすく、年上には「찍어주세요(撮ってください)」が選ばれやすいということがわかった。年下の初対面には「찍어 줄래? (撮ってくれるつもり?)」が最も多く選択されており、仲のよい友人や仲のよい先輩の場合に多く回答された「찍어줘(撮ってくれ)」は、あまり回答されていなかった。年上の初対面とゼミの担当教授の場合は、仲のよい友人や先輩の場合と同様に「찍어주세요(撮ってください)」に最も回答が多く見られた。また、「찍어주실 수 있으세요?(撮ってくださることがおできになりますか)」が합全体よりも回答されていたことから、高い待遇レベルを表現ではなく、構文の違いによって、相手に配慮を示しているということがわかった。

4.3 まとめ

以上、年下の場合、弟/妹、兄姉、仲の良い友人という話し手から見て、高い待遇の表現を使わなくていい相手や父母、仲の良い先輩といった心的に距離が近い相手であるほど「찍어줘(撮ってくれ)」が使用されるということであった。年下の初対面には「찍어 줄래? (撮ってくれるつもり?)」が選択されていたことから、年下の相手の中でも心的な距離によって表現が使い分けされていることがわかった。

今回の調査では、心的な距離のある初対面、あるいは社会的な地位が上の相手であるゼミの担当教授に対しても「찍어주세요(撮ってください)」が最も多く使用されるという結果であったが、待遇度の最も高い합全体の表現に対する回答があまり見られなかった理由としては、学生のうちは②해全体の敬語形・丁寧体を用いた表現が一般的であるため、①합全体を使い分けるほどにまで言葉づかいを変えていないからだと考えられる。そこで、待遇度の高い表現として、可能肯定疑問類「찍어주실 수 있으세요?(撮ってくださることがおできになりますか)」が選ばれているということがわかった。

5. 日韓における行為要求表現の運用の比較

先行研究で述べたが、日本語の場合、身内に敬語を使うことは一般的ではないが、韓国語の場合は、韓・梅田(2009)のとおり大学生になると言葉づかいを改め、年上の身内に敬語を使うようになるということであった。実態としては、全体の約半分が父母に対する言葉づかいを丁寧な表現に変え、祖父母に対しても敬語の使用の割合は高く、日韓で差異が確認できた。また、年下の初対面に対して、日本の場合は非敬語形丁寧体の表現の中から

選択されやすい傾向にあったが、韓国語の場合は、「찍어 줄래? (撮ってくれるつもり?)」に回答が集約されていることから、日本語の場合は、親疎関係が敬語使用の判断基準となるが、韓国語の場合は親疎関係よりも年齢による上下関係を優先的な基準にしているといえる。

本章では、主に若年層における日本語と韓国語の行為要求表現(命令・依頼表現)の運用を比較するため、それぞれアンケート調査を行い、その差異を見てきた。日本語の場合、身内を含め、親しい年下の友人と先輩には「撮って」が選ばれやすく、年下年上に関係なく初対面で心的に距離がある場合や親しい先輩、ゼミの担当教授といった上向きの待遇を使用する相手には「撮ってもらって(も)いいですか」が選ばれやすいという結果になった。韓国語の場合は、親しい相手には「찍어줘(撮ってくれ)」、目上の相手には「찍어주세요(撮ってください)」が選択されやすいという結果となった。ここから、若年層において「自分の写真を撮ってもらう」という場面では、日本語の場合、上向きの待遇を使用すべき相手には、疑問文を用いた表現で特にモラウ系許可求め類の表現が選ばれやすいということが言え、韓国語の場合は、高く待遇する相手には命令類の表現が選ばれやすく、待遇度の高い表現として、합体系的表現よりも하体系的可能肯定疑問類の表現が選ばれるということがわかった。

6. おわりに

本章では、日本語と韓国語の依頼表現を比較するため、その形式を整理し、使用実態を調査するため、アンケート調査の結果を分析した。

日本語と韓国語は、敬語が発達しており、依頼表現に授受動詞を用いるという点で共通しているが、対者待遇語の種類、依頼表現に用いられる授受動詞、敬語の運用法に違いがあることを確認した。実際の使用実態としては、日本語の場合、近しい相手には、テ形の表現、上向きの待遇を使用すべき相手には、疑問文を用いた表現で特にモラウ系許可求め類の表現が選ばれやすいが、韓国語の場合は、目上でも目下でも命令類が選ばれやすいという違いがあった。そして、大学生の場合、待遇度の高い表現として、합体系的表現よりも하体系的可能肯定疑問類の表現が選ばれるということがわかった。

また、日韓での共通点は、敬語の有無によって待遇レベルを変えることに加え、異なる構文によって依頼表現のバリエーションを多様化させ、多様な対人関係に応じてそれらのバリエーションが使い分けられていることがわかった。

第7章 日韓における授受動詞による 依頼表現のバリエーションの多様化の方向性

1. はじめに

第6章では、日本語の場合、モラウ系許可求め類の表現、韓国語の場合、可能肯定疑問類の表現が目上の人物に配慮する表現として使用されていることを明らかにした。本章では、日本語と韓国語の授受動詞による依頼表現の使用動態に関する調査に基づき、日韓両言語の配慮を必要とする言語形式の多様化の方向性を考察する。以下では、日韓の授受動詞の構文的特徴をふまえ、両言語の依頼表現の多様化の動態について調査を行う。

日本語のモラウ系許可求め類の表現は、2000年以降に、使用が拡大し、依頼表現の研究対象に取り上げられるような表現になった表現である。一方で、韓国語の可能疑問類の表現は、6章の分析に用いた記述式アンケート調査の結果で回答が見られた表現であるが、外国人向けの韓国語の教科書では扱われていないことから、少なくとも規範的な表現とはみなされていないといえる。いずれの表現も比較的新しい表現だと考えられるため、以下では、世代別のアンケート調査からその使用動態を明らかにする。次に、外国人向けの日本語の教科書と韓国語の教科書を調査し、依頼表現として規範的とされる表現を示した上で、日韓において依頼場面で使用される授受動詞を用いた表現の多様化の方向性を考察する。

2. 調査概要

本章では、筆者が日本と韓国で行った、選択式アンケート調査のデータ(日本語母語話者：2章で扱ったアンケート調査の結果と韓国語母語話者(若年層・100名、中高年層・30名))²¹を分析する。項目設定の詳細は、第2章を参照されたい。アンケートの全文は資料編に掲載する。

日本語母語話者：若年層 100名(関西大学学生 1986～2002年生まれ：男性 45名、女性 55名、10代 53名、20代 47名)

中高年層 80名(関西在住者 1937～1964年生まれ：男性 30名、女性 50名、50代 56名、60代 13名、70代 11名)

韓国母語話者：若年層 100名(嶺南大学校学生 1987～2000年生まれ：男性 35名、女性 65名、10代 35名、20代 65名)

中高年層 30名(慶尚道在住者 1932～1966年生まれ、50代 18名、60代 4名、70代 8名、男性 15名、女性 15名)

調査項目：場面1「ペンを借りる」(負担度・小)、場面2「日程変更」(負担度・大)の

²¹ 本調査の中高年層のデータは、60代や70代のデータも含んでいるが、日韓両方とも50代が最も多い。結果を集計したところ、世代差が見られなかったため、中高年層というまとまりで分析した。

2つの依頼を、親しい同年代、親しい目上、初対面の同年代、初対面の目上のそれぞれに対して使用する依頼表現を、日本語は18の選択肢、韓国語は22の選択肢から使用するものを全て選択する。

質問項目(日本語)：選択肢 a~rの中から使うもの全てに○をつける。

a.貸して/変えて b.てくれ c.てくれる? d.てくれない? e.てもらえる?
f.てもらえない? g.てもらって(も)いい? h.てくれますか i.てくれませんか
j.てもらえますか k.てもらえませんか l.てください m.てくださいますか
n.てくださいますか o.ていただけますか p.ていただけませんか q.てもらって(も)いいですか
r.ていただいて(も)いいですか

質問項目(韓国語)：選択肢 a~vの中から使うもの全てに○をつける。

a. 해줘. b. 해봐. c. 해주겠어? d. 해줄래? e. 해 주지 않을래? f. 해 줄 수 있겠어?
g. 해 줄 수 없겠어? h. 하세요. i. 해 주지 않을래요? j. 해 줄래요? k. 해 주겠어요?
l. 해 줄 수 있을까요? m. 해 줄 수 없을까요? n. 해 주시지 않을까요? o. 해줘요.
p. 해주실래요? q. 해주세요. r. 해주시겠어요? s. 해주십시오. t. 해 주실 수 있을까요?
u. 해 주실 수 없을까요? v. 해주시겠습니까?

調査実施日：日本 2014年11月、韓国 2016年6月

本調査では、依頼表現を選択する際に意識が働くと考えられる上下関係、親疎関係、相手に対する依頼内容の負担度の3つを分析の基準として、これらを組み合わせた依頼場面で調査を行った。依頼内容の負担度に関しては、例えば親しい同年代に対する依頼場面であっても、依頼内容の負担度が大きければ、相手に配慮して気を使った表現を選択するであろうと予測したため、分析の基準を設けた。

調査の内容は、場面1「ペンを借りる」(負担度・小)、場面2「日程変更」(負担度・大)の依頼場面を設定し、(1)親しい同年代、(2)初対面の同年代、(3)親しい目上、(4)初対面の目上の相手に対して使用する依頼表現を、日本語は18の選択肢から、韓国語は22の選択肢からそれぞれの相手に対して使用するものを全て選択するというものである。この調査から各表現の回答率(各グループの全回答者数に対する各表現を選んだ回答者の比率)を集計する。なお、日本語母語話者は、若年層は100名、中高年層は80名、韓国語母語話者は、100名、中高年層は30名を分母として集計した。

選択肢にあげた表現は、6章の分析に用いた記述式アンケートの結果から回答率が高い表現と、第1章で整理した表1-7(本章では7-1と示す)と表1-13(本章では7-2と示す)の表現から選定した。日本語と韓国語の調査の全体的な結果は、稿末に総合図を示し、以下の分析では場面ごとに特徴的な部分を抜粋し、考察する。各図に選択肢の回答者数(実数)と回答率(%)を示し、回答率の差を見やすくするため、棒グラフを用いた。

表 7-1 現代日本語の依頼表現の分類

待遇形式の 組み合わせ	依頼表現	類別	記号
(I) 非敬語形・ 普通体	しろ	活用形類 (命令形)	I 0
	して	活用形類 (テ形)	I 1
	してくれ	クレル系命令類 (クレ形)	I K0
	してくれる?	クレル系肯定疑問類	I K1
	してくれない?	クレル系否定疑問類	I K2
	してもらえる?	モラウ系肯定疑問類	I M1
	してもらえない?	モラウ系否定疑問類	I M2
	してもらって(も)いい?	モラウ系許可求め類	I M3
(II) 非敬語形・ 丁寧体	してくれますか	クレル系肯定疑問類	II K1
	くれませんか	クレル系否定疑問類	II K2
	してもらえますか	モラウ系肯定疑問類	II M1
	してもらえませんか	モラウ系否定疑問類	II M1
	してもらって(も)いいですか	モラウ系許可求め類	II M3
(III) 敬語形・ 丁寧体	してください	クレル系命令類 (クダサイ形)	III K0
	くださいますか	クレル系肯定疑問類	III K1
	くださいませんか	クレル系否定疑問類	III K2
	していただけますか	モラウ系肯定疑問類	III M1
	していただけませんか	モラウ系否定疑問類	III M2
	していただいて(も)いいですか	モラウ系許可求め類	III M3

表 7-2 現代韓国語の行為要求表現の分類

文末語尾	依頼表現	類別	待遇形式の 組み合わせ	記号
⑥해라体	해라. (しろ)	活用形類 (命令形)	I : 非敬語 形・普通体	I 0
⑤반말体	해 봐. (してみろ)	活用形類 (ミロ形)	I' 非敬語形・ 普通体	I 0
	해. (しろ)	活用形類 (命令形)		I 0
	해줘. (してくれ)	命令類 (クレ形)		I C0
	해주겠어? (してくれる?)	未来肯定疑問類		I C1
	해줄래? (してくれるつもり?)	意志肯定疑問類		I C1
	해주지 않을래?	意志否定疑問類		I C2

	(してくれないつもり?)			
	해줄 수 있어? (してくれることはできる?)	可能肯定疑問類		I C3
	해줄 수 없어? (してくれることはできない?)	可能否定疑問類		I C4
②해요체	해줘요? ²² (してくれますか?)	命令類 (クレマスカ形)	II 非敬語形・ 丁寧体	II C0
	해주겠어요? (してくれますか)	未来肯定疑問類		II C1
	해줄래요? (してくれるつもりですか)	意志肯定疑問類		II C1
	해주지 않을래요? (してくれないつもりですか)	意志否定疑問類		II C2
	해줄 수 있어요? (してくれることはできますか)	可能肯定疑問類		II C3
	해줄 수 없어요? (してくれることはできないですか)	可能否定疑問類		II C4
②해요체	하세요. (しなさい)	命令類 (ナサイ形)	III 敬語形・ 丁寧体	III 0
	해주세요. (してください)	命令類 (クダサイ形)		III C0
	해주시겠어요? (くださいますか)	未来肯定疑問類		III C1
	해주실래요? (してくださるつもりですか)	意志肯定疑問類		III C1
	해주시지 않을래요? (くださらないつもりですか)	意志否定疑問類		III C2
	해주실 수 있어요? (してくださることはできますか)	可能肯定疑問類		III C3
	해주실 수 없어요? (してくださることはできないですか)	可能否定疑問類		III C4
①합쇼체	해주십시오. (くださいます)	命令類 (クダサイマセ形)	III' 敬語形・	III C0

²² 해줘요?は疑問文であるため「してくれますか?」となるが、平叙文の場合、해줘요.は「してくれませ」となるため、本章では해주겠어요?(してくれますか?)と区別するため、命令類に分類した。

해주시겠습니까? (していただけますか?)	意志肯定疑問類	丁寧体	III C1
--------------------------	---------	-----	--------

3. 調査結果

3.1 日本語の結果

まず、日本語の結果を概観する。日本語の場合、親しい相手にはクレル系の表現が選択されやすくなるが、目上の人物や疎の人物に対する場面や、負担の大きい場面ではモラウ系の表現を選択し、また肯定疑問類より否定疑問類の方が好まれる。

以下、モラウ系許可求め類に関して詳しく見ていくが、若年層と中高年層の傾向を見ていくと、若年層は、中高年層よりもモラウ系許可求め類を全体的に多用する傾向にある。若年層特有に見られた結果として着目すべきは、初対面の同年代、親しい目上への使用が多かったという点である。一方で、中高年層の場合は負担の大きい依頼場面で親しい同年代、初対面の目上に対して多用する。

		若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I 1 貸して	65 (65%)	49 (61%)
	I K1 貸してくれる?	23 (23%)	45 (56%)
	I K2 貸してくれない?	22 (22%)	14 (18%)
	I M1 貸してもらえる?	18 (18%)	21 (26%)
	I M2 貸してもらえない?	8 (8%)	8 (10%)
	I M3 貸してもらって(も)いい?	44 (44%)	19 (24%)
場面2	I 1 変えて	11 (11%)	9 (11%)
	I K1 変えてくれる?	16 (16%)	31 (39%)
	I K2 変えてくれない?	35 (35%)	18 (23%)
	I M1 変えてもらえる?	22 (22%)	32 (40%)
	I M2 変えてもらえない?	14 (14%)	21 (26%)
	I M3 変えてもらって(も)いい?	67 (67%)	37 (46%)

図 7-1 親しい同年代の場合(日本語)

まず、親しい同年代の場合である。図 7-1 によると、両世代とも、負担の小さい場面 1 では、両世代ともテ形「貸して」を多く選択しているが、負担の大きい場面 2 では、テ形の割合が減少し、モラウ系許可求め類「してもらって(も)いい?」を場面 1 より高い割合で選択している。

		若年層10-20代		中高年層50代以上	
場面 1	I M3 貸してもらって(も)いい?	36 (36%)	■	6 (8%)	■
	II M1 貸してもらえますか	23 (23%)	■	28 (35%)	■
	II M2 貸してもらえませんか	24 (24%)	■	21 (26%)	■
	II M3 貸してもらって(も)いいですか	40 (40%)	■	14 (18%)	■
	III M1 貸していただけますか	8 (8%)	■	18 (23%)	■
	III M2 貸していただけませんか	8 (8%)	■	19 (24%)	■
	III M3 貸していただいて(も)いいですか	5 (5%)	■	5 (6%)	■
場面 2	I M3 変えてもらって(も)いい?	34 (34%)	■	8 (10%)	■
	II M1 変えてもらえますか	27 (27%)	■	23 (29%)	■
	II M2 変えてもらえませんか	33 (33%)	■	27 (34%)	■
	II M3 変えてもらって(も)いいですか	37 (37%)	■	18 (23%)	■
	III M1 変えていただけますか	3 (3%)	■	15 (19%)	■
	III M2 変えていただけませんか	5 (5%)	■	15 (19%)	■
	III M3 変えていただいて(も)いいですか	6 (6%)	■	9 (11%)	■

図 7-2 初対面の同年代の場合(日本語)

次に、初対面の同年代の場合(図 7-2)を見てみると、若年層は両場面とも「してもらって(も)いい?」と「してもらって(も)いいですか」を中高年層よりも多用する。中高年層では、場面 1 で「してもらえますか」、場面 2 で「してもらえませんか」を最も選択していた。また、若年層と比べ「していただけますか」と「していただけませんか」を多く選んでいることから中高年層の方が(III)敬語形の表現を選択している²³。

次に、親しい目上の場合(図 7-3)を見ていく。この場面、(II)グループの表現が選ばれやすく、若年層の場面 1 で、最も回答が多いのは、「してもらって(も)いいですか」、場面 2 では「してもらって(も)いいですか」の回答率は若干減少し、「してもらえませんか」が最も多く選ばれる。一方で、中高年層では、場面 1 で最も多い表現は、「してもらえますか」で、場面 2 では、「してもらえませんか」であった。また、中高年層の場面 1 では「していただけますか」と「していただけませんか」、場面 2 では、「していただけますか」を若年層よりも多く選択していた²⁴。

²³ 初対面の同年代の場合、カイ二乗検定をすると場面 1「していただけますか」は $X^2(1)=7.56, p=0.005$ 、場面 2 は $X^2(1)=12.25, p=0.000465$ で、いずれも $p<0.05$ で有意差があり、場面 1「していただけませんか」は $X^2(1)=8.647, p=0.003$ 、場面 2 は $X^2(1)=8.507, p=0.0035$ でいずれも $p<0.05$ で有意差があった。

²⁴ 実数が 5 未満のものは、 X^2 検定にふさわしくないため、実数が 5 以上のものみに X^2 検定を行った。親しい目上の場合、中高年層の場面 1「していただけませんか」は $X^2(1)=5.28, p=0.021, p<0.05$ で有意差があり、場面 2「していただけますか」は $X^2(1)=4, p=0.045, p<0.05$ で有意差があった。

		若年層10-20代		中高年層50代以上	
場面1	ⅡM1 貸してもらえますか	34 (34%)		31 (39%)	
	ⅡM2 貸してもらえません	39 (39%)		24 (30%)	
	ⅡM3 貸してもらって(も)いいですか	43 (43%)		22 (28%)	
	ⅢM1 貸していただけますか	3 (3%)		24 (30%)	
	ⅢM2 貸していただけませんか	10 (10%)		18 (23%)	
	ⅢM3 貸していただいて(も)いいですか	3 (3%)		5 (6%)	
場面2	ⅡM1 変えてもらえますか	26 (26%)		23 (29%)	
	ⅡM2 変えてもらえません	43 (43%)		36 (45%)	
	ⅡM3 変えてもらって(も)いいですか	35 (35%)		23 (29%)	
	ⅢM1 変えていただけますか	6 (6%)		12 (15%)	
	ⅢM2 変えていただけませんか	21 (21%)		21 (26%)	
	ⅢM3 変えていただいて(も)いいですか	16 (16%)		15 (19%)	

図 7-3 親しい目上の場合(日本語)

		若年層10-20代		中高年層50代以上	
場面1	ⅡM1 貸してもらえますか	8 (8%)		8 (10%)	
	ⅡM2 貸してもらえません	20 (20%)		10 (13%)	
	ⅡM3 貸してもらって(も)いいですか	31 (31%)		12 (15%)	
	ⅢM1 貸していただけますか	25 (25%)		32 (40%)	
	ⅢM2 貸していただけませんか	42 (42%)		46 (58%)	
	ⅢM3 貸していただいて(も)いいですか	47 (47%)		29 (36%)	
場面2	ⅡM1 変えてもらえますか	9 (9%)		4 (5%)	
	ⅡM2 変えてもらえません	19 (19%)		8 (10%)	
	ⅡM3 変えてもらって(も)いいですか	22 (22%)		15 (19%)	
	ⅢM1 変えていただけますか	24 (24%)		28 (35%)	
	ⅢM2 変えていただけませんか	51 (51%)		41 (51%)	
	ⅢM3 変えていただいて(も)いいですか	62 (62%)		43 (54%)	

図 7-4 初対面の目上の場合(日本語)

次に初対面の目上の場合(図 7-4)を見ていく。若年層の場合、両場面とも「して(も)いいですか」を最も選択しているが、中高年層では場面 1 で「していただけませんか」、場面 2 では「していただいて(も)いいですか」を選択している。また、両世代とも場面 2

において「していただいて(も)いいですか」の回答が増加していた²⁵。

図 7-5 は、日本語のモラウ系許可求め類(M3)の回答率の世代差を示したものであるが概ね若年層の方が中高年層より多く回答している。

		親しい同年代		親しい目上	
		若年層10-20代	中高年層50代以上	若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I M3 貸してもらって(も)いい?	44 (44%)	19 (24%)	6 (6%)	6 (8%)
	II M3 貸してもらって(も)いいですか	2 (2%)	2 (3%)	43 (43%)	22 (28%)
	III M3 貸していただいて(も)いいですか	0 (0%)	1 (1%)	3 (3%)	5 (6%)
場面2	I M1 変えてもらって(も)いい?	67 (67%)	37 (46%)	5 (5%)	9 (11%)
	II M2 変えてもらって(も)いいですか	5 (5%)	4 (5%)	35 (35%)	23 (29%)
	III M3 変えていただいて(も)いいですか	1 (1%)	1 (1%)	16 (16%)	15 (19%)
		初対面の同年代		初対面の目上	
		若年層10-20代	中高年層50代以上	若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I M3 貸してもらって(も)いい?	36 (36%)	6 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
	II M3 貸してもらって(も)いいですか	40 (40%)	14 (18%)	31 (31%)	12 (15%)
	III M3 貸していただいて(も)いいですか	5 (5%)	5 (6%)	47 (47%)	29 (36%)
場面2	I M3 変えてもらって(も)いい?	34 (34%)	8 (10%)	0 (0%)	0 (0%)
	II M3 変えてもらって(も)いいですか	37 (37%)	18 (23%)	22 (22%)	15 (19%)
	III M3 変えていただいて(も)いいですか	6 (6%)	9 (11%)	62 (62%)	43 (54%)

図 7-5 モラウ系許可求め類の回答率

親しい同年代の場合、若年層の場合、「してもらって(も)いい？」を中高年層よりも多く選択している。一方で、中高年層の場合、「してもらって(も)いい？」は場面2で増加する。初対面の同年代の場合、若年層は場面にかかわらず「してもらって(も)いいですか」を中高年層よりも多く選択している。また、親しい目上の場合にも、若年層は場面にかかわらずモラウ系許可求め類を選択し、特に、場面1で「してもらって(も)いいですか」を中高年層よりも多く選択していたが、中高年層では、場面2で「してもらって(も)いいですか」の回答率が増加するため、若年層との差はなかった。初対面の目上の場合、若年層は場面にかかわらず「していただいて(も)いいですか」を最も多く選択している。一方で、中高年層の「していただいて(も)いいですか」は、場面2において回答率が大きく増加し、この場合でも若年層との差はなかった。

以上から、モラウ系許可求め類は若年層の場合、初対面の同年代に対しても使用が拡大しているが、中高年層の場合、負担の大きい場面において選択する傾向にあると言える²⁶。

²⁵ 初対面の目上の場合、場面1「していただけますか」は $X^2(1)=4.62$ 、 $p=0.0315$ 、「していただけますか」は $X^2(1)=4.27$ 、 $p=0.038$ で若年層と比べて $p<0.05$ で有意差があった。

²⁶ 有意差があった場面は、親しい同年代の場面1で「してもらって(も)いい？」が $X^2(1)=8.01$ 、 $p=0.0046$ 、親しい同年代の場面2で「してもらって(も)いい？」が $X^2(1)=7.84$ 、 $p=0.00509$ 、初対面の同年代の場面1で「してもらって(も)いい？」が $X^2(1)=20.18$ 、 $p=7.048$ 、「してもらって(も)いいですか」が $X^2(1)=10.71$ 、 $p=0.00106$ 、初対面の同年代の場面2で「してもらって(も)いい？」が $X^2(1)=14.31$ 、 $p=0.00015$ 、「してもらって(も)いいですか」が $X^2(1)=4.403$ 、 $p=0.035$ 、親しい目上の場面1で「してもらって(も)いいですか」が $X^2(1)=4.628$ 、 $p=0.031$ 、初対面の目上の場面1で「してもらって(も)いいですか」が $X^2(1)=6.25$ 、 $p=0.012$ 、いずれも $p<0.05$ で中高年層よりも多くモラウ系許可求め類を選択している。

ここで、日本語の調査に関してまとめる。若年層に関しては、全体的に中高年層よりモラウ系許可求め類を多数回答していた。若年層特有に見られた傾向としては、初対面の同年代や親しい目上に対しての使用が多数見られることである。ここから、若年層では、中高年層よりもモラウ系許可求め類の使用に対する許容度が高く、広い範囲で使用が浸透していると言える。一方で中高年層は、初対面の同年代や親しい目上に対しては、場面 1 ではモラウ系肯定疑問類、場面 2 ではモラウ系否定疑問類を選択していた。また、若年層よりも(Ⅲ)敬語形の表現を選ぶ傾向にある。中高年層のモラウ系許可求め類は、場面 2 において回答率が高くなっていたことから、負担の大きい場面でモラウ系許可求め類を選択しやすい。

では、ここで、特に若年層で多く回答されていた親しい同年代と初対面の目上に関してだが、なぜ、待遇の相手としては、対極に位置する人物に対して、いずれもモラウ系許可求め類の表現が最も選択されるのか、その意味について考えてみたい。本来、許可求め表現は、依頼の相手が許可を与える立場にあり、相手に諾否についての選択の余地があることを前提として、そのどちらを選択するかを尋ねる表現である。ここから、許可を受ける側(依頼者)と許可を与える側(依頼の相手)という立場上の上下関係が生じる。

通常、親しい同年代という普通体を使用する相手に対しては、敬語形の表現の使用は不自然であり、また、目上という明らかな上下関係のある相手であれば既存の敬語形の表現を使用することが期待される。しかし、親しい同年代の場合でも、負担の大きい場面では、相手に気を使う必要があり、初対面の目上の場合でも、相手に対する心的な距離間から、対人関係的に気を使った表現を選ぶようになる。そういった場面設定や対人関係において、心的に距離間が生じる場合に、モラウ系許可求め類の表現は、丁寧さとは別に、気づかいや遠慮の気持ちを示す新たな配慮の表現として機能しているのだと考えられる。

3.2 韓国語の結果

続いて、韓国語の結果を見ていく。韓国語の依頼表現には、日本語にない依頼表現の形式として、未来の「烈」を用いた表現、相手の意志を問う表現、相手の能力の有無を問う表現を多用する点が着目される。これら 3 つの表現は、肯定疑問類と否定疑問類の両方が存在するが、一般的に肯定疑問類の方が選ばれる。

疎の目上の人物に対する場面や、負担の大きい場面では、可能肯定疑問類の選択率が両世代とも上がっていた。若年層は、可能肯定疑問類を親しい同年代や親しい目上といった親しい相手に対して、場面 2 の負担の大きい場面において多く使用する。また、中高年層と比較すると初対面の同年代や初対面の目上といった心的に距離のある人物に対して負担度にかかわらず多く使用する傾向にある。

一方で、中高年層は、可能肯定疑問類を場面 2 の負担の大きい場面において、親しい同年代や初対面の同年代、初対面の目上に対して使用する。

		若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I C0 빌려줘 (てくれ)	88 (88%)	15 (50%)
	I C1 빌려줄래? (てくれるつもり?)	65 (65%)	18 (60%)
	I C2 빌려주지 않을래? (てくれないうもり?)	16 (16%)	3 (10%)
	I C3 빌려줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	15 (15%)	5 (17%)
場面2	I C0 바꿔줘 (てくれ)	50 (50%)	9 (30%)
	I C1 바꿔줄래? (てくれるつもり?)	43 (43%)	10 (33%)
	I C2 바꿔주지 않을래? (てくれないうもり?)	33 (33%)	8 (27%)
	I C3 바꿔줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	47 (47%)	10 (33%)

図 7-6 親しい同年代の場合(韓国語)

では、各相手別の傾向を見ていく。親しい同年代の場合(図 7-6)、両世代とも場面 1 では「해줘(てくれ)」と「해줄래?(てくれるつもり?)」の回答率が多かったが、場面 2 では、「해줘(てくれ)」の回答率が減少し、「해줄래?(てくれるつもり?)」と「해줄 수 있겠어?(てくれることはできる?)」も選択している。

		若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I C1 빌려줄래? (てくれるつもり?)	19 (19%)	8 (27%)
	I C3 빌려줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	13 (13%)	6 (20%)
	II C1 빌려줄래요? (てくれるつもりですか)	12 (12%)	6 (20%)
	II C3 빌려줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	32 (32%)	4 (13%)
	III C0 빌려주세요 (てください)	13 (13%)	2 (7%)
	III C1 빌려주시겠어요? (てくださいますか)	15 (15%)	6 (20%)
	III C1 빌려주실래요? (てくださるつもりですか)	19 (19%)	5 (17%)
	III C3 빌려주실 수 있을까요? (てくださることはできますか)	31 (31%)	4 (13%)
	III' C0 빌려주십시오 (くださいませ)	3 (3%)	5 (17%)
	III' C1 빌려주시겠습니까? (てくださいますか)	8 (8%)	3 (10%)
場面2	I C1 바꿔줄래? (てくれるつもり?)	16 (16%)	3 (10%)
	I C3 바꿔줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	23 (23%)	6 (20%)
	II C1 바꿔줄래요? (てくれるつもりですか)	17 (17%)	5 (17%)
	II C3 바꿔줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	28 (28%)	9 (30%)
	III C0 바꿔주세요 (てください)	6 (6%)	1 (3%)
	III C1 바꿔주시겠어요? (てくださいますか)	9 (9%)	2 (7%)
	III C1 바꿔주실래요? (てくださるつもりですか)	11 (11%)	4 (13%)
	III C3 바꿔주실 수 있을까요? (てくださることはできますか)	26 (26%)	7 (23%)
	III' C0 바꿔주십시오 (くださいませ)	2 (2%)	4 (13%)
	III' C1 바꿔주시겠습니까? (てくださいますか)	7 (7%)	4 (13%)

図 7-7 初対面の同年代の場合(韓国語)

次に初対面の同年代(図 7-7)の場合だが、若年層は、場面にかかわらず、「해줄 수 있을까요?(てくれることができますか)」を最も選択している。一方で、中高年層では、「해줄래?(てくれるつもり?)」を最も選択していた。また、場面 1 よりも場面 2 で「해줄 수 있을까요?(てくれることができますか)」の回答率が増加していたことから、負担の大きい

場面で可能肯定疑問類を使用する傾向があると言える。

		若年層10-20代	中高年層50代以上
場面 1	Ⅱ C3 빌려줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	23 (23%)	5 (17%)
	Ⅲ C0 빌려주세요 (てください)	58 (58%)	12 (40%)
	Ⅲ C1 빌려주시겠어요? (てくださいますか)	20 (20%)	9 (30%)
	Ⅲ C1 빌려주실래요? (てくださるつもりですか)	37 (37%)	7 (23%)
	Ⅲ C2 빌려주시지 않을래요? (てくださらないつもりですか)	10 (10%)	1 (3%)
	Ⅲ C3 빌려주실 수 있을까요? (てくださることはできますか)	27 (27%)	5 (17%)
	Ⅲ C4 빌려주실 수 없을까요? (てくださることはできませんか)	8 (8%)	3 (10%)
	Ⅲ' C0 빌려주십시오 (てくださいませ)	5 (5%)	8 (27%)
	Ⅲ' C1 빌려주시겠습니까? (てくださいますか)	7 (7%)	11 (37%)
場面 2	Ⅱ C3 바꿔줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	44 (44%)	7 (23%)
	Ⅲ C0 바꿔주세요 (てください)	18 (18%)	6 (20%)
	Ⅲ C1 바꿔주시겠어요? (てくださいますか)	8 (8%)	12 (40%)
	Ⅲ C1 바꿔주실래요? (てくださるつもりですか)	19 (19%)	3 (10%)
	Ⅲ C2 바꿔주시지 않을래요? (てくださらないつもりですか)	13 (13%)	6 (20%)
	Ⅲ C3 바꿔주실 수 있을까요? (てくださることはできますか)	26 (26%)	9 (30%)
	Ⅲ C4 바꿔주실 수 없을까요? (てくださることはできませんか)	15 (15%)	3 (10%)
	Ⅲ' C0 바꿔주십시오 (てくださいませ)	2 (2%)	7 (23%)
	Ⅲ' C1 바꿔주시겠습니까? (てくださいますか)	4 (4%)	5 (17%)

図 7-8 親しい目上の場合(韓国語)

親しい目上の場合(図 7-8)だが、場面 1 において両世代で、「해주세요(てください)」を多く選択しているが、場面 2 において、若年層は、「해줄 수 있을까요?(てくれることはできますか)」を多く選択し、中高年層では、「해주시겠어요?(てくださいますか)」の方を多く選択している。また、中高年層は若年層より「해주십시오(てくださいませ)」を多く選択していたことから、若年層よりも敬語系の(Ⅲ')グループの表現を選択しやすい傾向にある²⁷。

また、初対面の目上の場合(図 7-9)も同様に、若年層は場面にかかわらず、「해주실 수 있을까요?(てくださることはできますか)」を多く選択しているが、中高年層は、場面 1 では「해주시겠습니까?(てくださいますか)」を選択し、場面 2 において「해주실 수 있을까요?(てくださることはできますか)」を最も多く選択している。中高年層では、「해주십시오(てくださいませ)」と「빌려주시겠습니까?(てくださいますか)」を若年層より多く回答していることから、(Ⅲ')グループの敬語系の表現を選択する傾向がある²⁸。場面 2 において若年層では、場面 1 と同様に「해주실 수 있을까요?(てくださることはできますか)」を最も選択している。

²⁷ 親しい目上の場合、「해주시겠습니까?(てくださいますか)」を $X^2(1)=17.02$, $p=3.69E-05$, $p<0.05$ で有意差があった。

²⁸ 初対面の目上の場合、中高年層では、場面 1 での「해주십시오(てくださいませ)」は $X^2(1)=5.31$, $p=0.021$ 、「해주시겠습니까?(てくださいますか)」では $X^2(1)=5.95$, $p=0.014$ 、いずれも $p<0.05$ で若年層と有意差があった。

		若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	ⅢC0 빌려주세요 (てください)	16 (16%)	5 (17%)
	ⅢC1 빌려주시겠어요? (くださいますか)	23 (23%)	11 (37%)
	ⅢC1 빌려주실래요? (くださるつもりですか)	16 (16%)	2 (7%)
	ⅢC2 빌려주시지 않을래요? (くださらないつもりですか)	10 (10%)	4 (13%)
	ⅢC3 빌려주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	71 (71%)	9 (30%)
	ⅢC4 빌려주실 수 없을까요? (くださることはできませんか)	28 (28%)	3 (10%)
	Ⅲ' C0 빌려주십시오 (くださいませ)	8 (8%)	7 (23%)
	Ⅲ' C1 빌려주시겠습니까? (くださいますか)	21 (21%)	13 (43%)
場面2	ⅢC0 바꿔주세요 (てください)	11 (11%)	3 (10%)
	ⅢC1 바꿔주시겠어요? (くださいますか)	22 (22%)	8 (27%)
	ⅢC1 바꿔주실래요? (くださるつもりですか)	18 (18%)	1 (3%)
	ⅢC2 바꿔주시지 않을래요? (くださらないつもりですか)	14 (14%)	6 (20%)
	ⅢC3 바꿔주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	67 (67%)	15 (50%)
	ⅢC4 바꿔주실 수 없을까요? (くださることはできませんか)	48 (48%)	8 (27%)
	Ⅲ' C0 바꿔주십시오 (くださいませ)	6 (6%)	3 (10%)
	Ⅲ' C1 바꿔주시겠습니까? (くださいますか)	24 (24%)	12 (40%)

図 7-9 初対面の目上(韓国語)

		親しい同年代		親しい目上	
		若年層10-20代	中高年層50代以上	若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I C3 빌려줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	15 (15%)	5 (17%)	3 (3%)	5 (17%)
	II C3 빌려줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	2 (2%)	5 (17%)	23 (23%)	5 (17%)
	III C3 빌려주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	1 (1%)	2 (7%)	27 (27%)	5 (17%)
場面2	I C3 바꿔줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	47 (47%)	10 (33%)	7 (7%)	1 (3%)
	II C3 바꿔줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	0 (0%)	2 (7%)	44 (44%)	7 (23%)
	III C3 바꿔주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	1 (1%)	1 (3%)	26 (26%)	9 (30%)
		初対面の同年代		初対面の目上	
		若年層10-20代	中高年層50代以上	若年層10-20代	中高年層50代以上
場面1	I C3 빌려줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	13 (13%)	6 (20%)	0 (0%)	1 (3%)
	II C3 빌려줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	32 (32%)	4 (13%)	21 (21%)	7 (23%)
	III C3 빌려주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	31 (31%)	4 (13%)	71 (71%)	9 (30%)
場面2	I C3 바꿔줄 수 있겠어? (てくれることはできる?)	23 (23%)	6 (20%)	4 (4%)	0 (0%)
	II C3 바꿔줄 수 있을까요? (てくれることはできますか)	28 (28%)	9 (30%)	25 (25%)	6 (20%)
	III C3 바꿔주실 수 있을까요? (くださることはできますか)	26 (26%)	7 (23%)	67 (67%)	15 (50%)

図 7-10 可能肯定疑問類の回答率

では、韓国語の可能肯定疑問類(C3)の回答率の世代差を見ていく。図7-10を見てみると、若年層と中高年層で世代差が顕著には現れていないが、おおむね若年層の方が回答率が高い。親しい同年代の場合、世代差が顕著に表れる可能肯定疑問類の表現はなかった。「해줄 수 있겠어?(てくれることはできる?)」に関して述べると、若年層の場合、場面1の15%から場面2では47%に回答率が増加し、中高年層の場合、場面1の17%から場面2では33%に増加していることから、両世代とも場面1より場面2で回答率が上がると言える。初対面の同年代の場合、場面1において「해줄 수 있을까요?(てくれることができますか)」、「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」を多く選択し、中高年層と差があった。場面2で若年層は「해줄 수 있을까요?(てくれることができますか)」を最も多く選択していたが、中高年層との大きな差はなかった。親しい目上の場面1では両世代とも

「해주세요(てください)」を選択しているが、若年層では「해줄 수 있을까요? (てくれることができますか)」を中高年層より多く選択していた。中高年層では、場面2で最も多く選択していたのは、「해주시겠어요?(くださいますか)」であったが、「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」の回答率が場面1より増加し、若年層との差がなかった。初対面の目上では、若年層は場面にかかわらず「해줄 수 있을까요? (てくれることができますか)」「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」を最も多く選択し、特に、「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」を中高年層より多く選択していた。一方で、中高年層の場面1では「해주시겠습니까?(くださいますか)」を最も多く選択していたが、場面2において「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」の回答率が大きく増加し、若年層と差はなくなっていた。以上から、可能肯定疑問類は若年層の場合、親しい目上の負担の大きい場面と初対面の人物に対する使用が拡大しているが、中高年層の場合、負担の大きい場面で選択する傾向にあると言える²⁹。

ここで、韓国語の調査に関してまとめる。両世代とも、親しい相手の場面1では、命令類を選択するが(親しい同年代に対して「해줘(てくれ)」、親しい目上には「해주세요(てください)」)、場面2では可能肯定疑問類の表現(親しい同年代に対して「해줄 수 있겠어?(てくれることはできる?)」、親しい目上には「해줄 수 있을까요?(てくれることはできますか)」)が増加する傾向にある。親しい目上の場面2に関しては、若年層は「해줄 수 있을까요?(てくれることはできますか)」の回答数が多く、中高年層では、「해주시겠어요?(くださいますか)」が多く回答され、世代差が現れた。一方で、中高年層は最も高い待遇形式の(Ⅲ')の表現を回答することや、未来や意志を示す表現を選択する。一方で、可能肯定疑問類の回答が多かった場面は、負担の大きい場面であった。

ここで、可能肯定疑問類が負担の大きい場面において使用される理由について考える。可能肯定疑問類に関しては、あたかも相手に能力があるというような表現を用いることで、依頼の機能を持つ表現となり、依頼者が依頼の相手に対し、遂行能力があることを期待する表現となる。そこから、依頼する側と依頼をされる側という立場上の関係に加え、能力がない者と能力を持つ者という評価的な上下関係が生じるような言語的表現を使用することにより、依頼内容の負担の大きさに応じた配慮を示すことに繋がっているのだと考える。

4. 日韓の語学教科書の分析

4.1 調査概要

以上、現在使用される日韓における依頼表現のバリエーションを調査し、その中で日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現が、どのような場面にお

²⁹ 初対面の同年代の場面1で「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」は $X^2(1)=4.01$, $p=0.045$ 、場面1の「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」は $X^2(1)=3.66$, $p=0.055$ 、場面2は $X^2(1)=4.13$, $p=0.042$ 、初対面の目上の場面1で「해주실 수 있을까요?(くださることはできますか)」は $X^2(1)=16.38$, $p=5.16$ 、いずれも $p<0.05$ で中高年層と有意差があった。

いて選択されるのかを見てきた。これらの表現は比較的新しい表現だと思われるが、ここで、外国人向けの日本語教科書と韓国語教科書にある依頼表現を整理し、日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現が規範的なものとされているのかを見ていく。以下の調査を行うことで、モラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現が扱われていれば規範的な依頼表現であるといえ、記載がなければそうではないということが検証できる。

教科書の調査は、現在使用されている代表的な教科書のうち、以下に示す日本語教科書 11 種(初級 6 種、中級 5 種)、韓国語教科書 12 種(初級 5 種、中級 7 種)を対象に、表 1-5 と表 6-3 にあげた表現の形式が扱われているかを調査した。なお、日本語の教科書は J、韓国語の教科書は K の記号で示し、シリーズとして前半後半の 2 つに分けて出版されている教科書に関しては、前半を a、後半を b で示す。

(J) 日本語教科書

[初級]

J1a 『新日本語の基礎 I』(1990)/一般財団法人海外産業人材育成協会編 スリーエーネットワーク

J1b 『新日本語の基礎 II』(1993)/一般財団法人海外産業人材育成協会編 スリーエーネットワーク

J2a 『みんなの日本語 初級 I』(1998)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

J2b 『みんなの日本語 初級 II』(1998)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

J3a 『みんなの日本語 初級 I 第 2 版』(2012)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

J3b 『みんなの日本語 初級 II 第 2 版』(2013)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

[中級]

J4a 『現代日本語コース中級 I』(1988)/名古屋大学日本語教育研究グループ編 名古屋大学出版会

J4b 『現代日本語コース中級 II』(1990)/名古屋大学日本語教育研究グループ編 名古屋大学出版会

J5 『新日本語の中級』(2000)/一般財団法人海外産業人材育成協会編 スリーエーネットワーク

J6a 『みんなの日本語 中級 I』(2008)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

J6b 『みんなの日本語 中級 II』(2012)/スリーエーネットワーク編 スリーエーネットワーク

ワーク

(K) 韓国語教科書

[初級]

- K1 『ことばの架け橋』(2000)/生越直樹・曹喜澈(編) 白帝社
- K2 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』(2004)/木内明(編) 国書刊行会
- K3 『Easy Korean for Foreigners 1』(2009)/Easy Korean academy(編) Language Plus
- K4 『재미있는 한국어 1』(2010)/高麗大学校韓国語文化教育センター(編)教保文庫
- K5 『実用韓国語』(2014)/油谷幸利・コヨンジン(編)白水社

[中級]

- K6 『カナタ KOREAN FOR JAPANESE 中級』(2004)/カナタ韓国語学院(編) Language Plus
- K7 『基礎から学ぶ韓国語講座 中級』(2005)/木内明(編) 国書刊行会
- K8a 『西江大学韓国語テキスト 3A』(2008)/西江大学韓国語教育院(編) 西江大学校韓国語教育院出版部
- K8b 『西江大学韓国語テキスト 3B』(2008)/西江大学韓国語教育院(編)西江大学校韓国語教育院出版部
- K9 『Easy Korean for Foreigners 3』(2009)/Easy Korean academy(編) Language Plus
- K10 『パランセ韓国語中級』(2010)/金京子(編) 朝日出版社
- K11 『実用韓国語 2』(2014)/コリア語教材研究会(編) 同志社大学生協書籍部

4.2 日本語教科書の分析

日本語の教科書の調査結果を表 7-3 に示す。表内の記号に関しては、表 7-1 と表 7-2 であげた表現が、教科書内の依頼に関連する単元において会話文や本文でメインに扱われる、あるいは文法解説や練習問題などで重要項目にあげられている場合は◎、依頼に関連する単元において、会話文や本文、あるいは練習問題などで例示的に現れている場合は○、依頼に関連する単元にかかわらず、練習問題などで指示をする文や例文の一部として現れる場合は△で示す。

表 7-3 日本語教科書における行為要求表現

待遇形式の 組み合わせ	行為要求表現	初級						中級				
		J1a	J1b	J2a	J2b	J3a	J3b	J4a	J4b	J5	J6a	J6b
(Ⅰ) 非敬語形 ・普通体	I 0 しろ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I 1 して	-	-	-	△		△	-	△	-	-	△
	I K0 してくれ	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I K1 してくれる?	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	△
	I K2 してくれない?	-	-	-	-	-	-	◎	△	○	△	-
	I M1 してもらえる?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I M2 してもらえない?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I M3 してもらって(も)いい?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(Ⅱ) 非敬語形 ・丁寧体	Ⅱ K1 してくれますか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅱ K2 してくれませんか	-	-	-	△	-	△	-	△	-	-	-
	Ⅱ M1 してもらえますか	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
	Ⅱ M2 してもらえませんか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎ ⁴	-
	Ⅱ M3 してもらって(も)いいですか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(Ⅲ) 敬語形 ・丁寧体	Ⅲ K0 してください	◎	○	◎	○	◎	○	△	△	△	△	△
	Ⅲ K1 くださいますか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Ⅲ K2 くださいませんか	-	◎	-	◎	-	◎	◎	-	-	-	-
	Ⅲ M1 していただけますか	-	-	-	-	-	-	-	-	○ ²	-	-
	Ⅲ M2 していただけませんか	-	◎	-	◎	-	◎	◎ ¹	-	◎ ³	◎ ⁵	△
	Ⅲ M3 していただいて(も)いいですか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1:していただけないでしょうか/していただけませんかでしょうか

2:していただけないでしょうか

3:していただけます?

4:てもらえないでしょうか 5:していただけないでしょうか

まず、初級教科書から概観していく。J1aとJ1bは、学習の対象者が技術研修生であることから対上司や対同僚を想定した会話や研修を受ける上で必要な初級の文法や語彙が学習項目としてあがっている。これら以外のJ2a～J3bの教科書は、総合教科書としては、最も使用されている教科書で、J3aとJ3bは、J2aとJ3bの改訂版である。学習の対象者は、職場、家庭、学校、地域で日本語をすぐに必要とする外国人を対象としており、会話の場面や登場人物などを学習者の多様化に対応して、より汎用性の高いものにするといった工夫がされている。初級前半のJ1a、J2a、J3aにおいて上記の表にあげた表現を確認してみると、「してください」のみが確認できた。初級後半のJ2bとJ3bにおいては、「していただけますか」は、ほぼ文型の練習問題で扱われ、「していただけませんか」は文型の練習だけでなく、目上の人物との会話を想定した会話文でよく見られた。

次に、中級の教科書を概観する。J4aとJ4bは留学生用の中級教科書であるが、留学生に限らずすべての日本語学習者を対象に、話すことを中心に編集されている。J5は、J1aとJ2bの中級教科書であり、J6aとJ6bは、J3aとJ3bの中級教科書である。中級で学習する表現を見てみると、「してください」が、練習問題などの指示する文や例文の一部として現れ、

メインの文法項目としては、否定疑問類「していただきませんか」、「していただけますか」が学習項目として扱われている。

表 7-3 を見ると、否定疑問類の方がメインの学習項目として取り上げる教科書が多いことがわかる。日本語の教科書で主に扱われる表現は、クレル系や肯定疑問類の表現よりも、モラウ系否定疑問類の表現であった。ここから、本調査の項目としては「していただきませんか」が、日本語教育の中で規範的な依頼の表現とされているということがいえる。

このように初級と中級のどの教科書にも本章で着目するモラウ系許可求め類の表現は見受けられなかった。初級の教科書の J2a と J2b は、初版が 1998 年であるが、2012 年と 2013 年に出版された第 2 版にもモラウ系許可求め類の表現の記載がなかったことから、この表現は一般的に定着した表現だとは認識されていないということである。よって、モラウ系許可求め類の表現は規範的な表現ではないということが検証できた。

4.3 韓国語教科書の分析

次に韓国語の教科書で扱われる表現に関して述べる。以下、表 7-4 は韓国語の教科書の調査結果である。表内の記号に関しては、表 7-3 と同様に示す。日本国内で扱っている教科書は、日本語訳に「してください」や「てくださいますか」のような訳が付されているものを対象とし、韓国国内で主に使用されている教科書は、依頼の文脈で現れるものを対象とした。

まず、初級教科書を概観していく。K1 と K5 は、日本の大学で使用されている文法中心の総合教科書で、学習対象者は大学生である。K2 は、日本国内で一般向けに出版されている文法中心の総合教科書である。K3 は、日本と韓国の両国で使用されている会話中心教科書で、K4 は韓国国内で大学生を対象に使用されている会話中心教科書である。初級の場合であるが、どの教科書でも「하세요(しなさい)」と「해주세요(てください)」がメインの文法項目として解説と練習問題が設けられている。

次に、中級教科書を概観する。K6 は文法中心総合教科書、K9 は会話中心総合教科書である。K7 は K2 の中級教科書で、K8a と K8b は韓国国内で使用されている会話中心総合教科書で、レベルが初級 1A、1B～上級 5A、5B まで出版されている。K10 と K11 は、日本国内で大学生を対象に使用されている文法中心総合教科書であるが、K10 はハングル検定 4 級に対応できるように初級での既習項目を含めた文法解説と練習問題が設けられており、K11 は、大学の外国語科目で使用されている教科書で初級の重要項目を取り上げて復習できるように編集されている。中級では、「하세요(しなさい)」「해주세요(てください)」「해주시요(てくださませ)」が多く見られる。K8b では、新しく依頼表現として相手の意志を問う「을/를」を用いた「해주시래요?(てくださるつもりですか)」を扱っている。

表 7-4 韓国語教科書における行為要求表現

待遇形式の組み合わせ	行為要求表現	初級					中級						
		K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8a	K8b	K9	K10	K11
(I)非敬語形・해라体	I 0 해라(しろ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-
	I C0 해주라(してくれ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(I)非敬語形・반말体	I' 0 해 봐(してみろ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' 0 해(しろ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' C0 해줘(してくれ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-
	I' C1 해주겠어?(してくれる?)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' C1 해줄래?(してくれるつもり?)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' C2 해주지 않을래?(してくれないつもり?)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' C3 해줄 수 있어?(してくれることはできる?)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	I' C4 해줄 수 없어?(してくれることはできない?)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(II)非敬語形・해요体	II 0 해줘요(してくれますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-
	II C1 해주겠어요?(してくれますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	II C1 해줄래요?(してくれるつもりですか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-
	II C2 해주지 않을래요?(してくれないつもりですか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	II C3 해줄 수 있어요?(してくれることはできますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
II C4 해줄 수 없어요?(してくれることはできませんか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(III)敬語形・해요体	III 0 하세요(しなさい)	△	○	◎	◎	△	-	-	△	△	△	-	◎
	III C0 해주세요(してください)	◎	◎	-	◎	◎	○	△	△	△	△	◎	◎
	III C1 해주시겠어요?(くださいますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
	III C1 해주실래요?(くださるつもりですか)	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-
	III C2 해주시지 않을래요?(くださらないつもりですか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	III C3 해주실 수 있어요?(くださることはできますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	III C4 해주실 수 없어요?(くださることはできませんか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(III)敬語形・합쇼体	III' 0 해주십시오(してくださいませ)	-	-	-	-	-	△	-	△	△	△	-	◎
	III' C1 해주시겠습니까?(くださいますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	III' C3 해주실 수 있습니까?(くださることはできますか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	III' C4 해주실 수 없습니까?(くださることはできませんか)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

以上、韓国語の教科書を概観したが、韓国語教育では、(III)敬語形の表現の習得を目標に、その中でも命令形を依頼表現として学習することがわかった。K8b や K9 に見られた△で示した表現は、会話中心教科書にみられたもので、他の教科書では取り上げていない場面を扱っていたため、確認できた既存の表現であるが、可能肯定疑問類の表現は、会話中心教科書でも扱われていない表現であることから、一般的に定着した依頼場面で使用される表現ではないと見なせる。よって、可能肯定疑問類の表現は、規範的な表現ではないということが検証できた。

5. 日韓比較

上記では、アンケート調査の結果を分析し、日韓の語学教科書の分析を行ってきた。ここで、これらの分析をもとに総合的な分析を行い、両言語における授受動詞を用いた依頼表現の多様化していく方向性を示す。

まず、日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能疑問類の表現が新しい表現として使用が広がっていることをアンケート調査の結果と教科書の調査の結果をふまえて述べる。本調査で用いたアンケートの項目の中で、外国人向けの教科書で習う依頼の場面に近いものは、依頼の負担度が小さい場面で親しい同年代と初対面の目上に対して依頼する場面である。一方で、初対面の同年代や親しい目上のような待遇形式を選択する際にゆれが生じる相手を想定した場面は、教科書内で扱われず、親しい同年代には普通体、それ以

外は敬語形と丁寧体を用いるように練習する。また、そもそも教科書は、親しい同年代を想定した会話文が少ない。この「してくれない？」の使用実態をアンケートで見ると、「して」や「してもらって(も)いい？」よりも回答数が少ない。よって、教科書の用例と実際の使用実態とは、ずれがあることがわかる。

一方で、初対面の目上の場合、「していただけますか」が規範的な表現として扱われているが、アンケートの結果を見ても、若年層では、「していただいて(も)いいですか」の次に多く、中高年層では、最も多く選択されているところから、規範通りの認識であるということが言える。ここから、モラウ系許可求め類の表現は、規範的な表現とはされていないが、使用実態としては多用される表現であるということがいえる。

その規範的な表現と同程度の回答率がある「していただいて(も)いいですか」は、「していただけますか」とは異なるニュアンスを含んだ表現で、相手に配慮した新しい表現として、その使用が定着しつつあると考えられる。また、若年層では、初対面の同年代や親しい目上の人物といった教科書では扱われていないような場面において、丁寧すぎず、またぞんざいにならない適度な距離感を示す表現として、モラウ系許可求め類「してもらって(も)いいですか」の使用が広がっているということがいえる。

韓国語の場合、アンケート調査の結果、両世代とも親しい相手の場面 1 では、命令類の表現を選択していたが、疎の関係の人物に対しては、若年層は可能肯定疑問類の表現、中高年層では、場面 1 では未来や意志を用いた表現、場面 2 では可能肯定疑問類の表現を選択していた。教科書の分析では、命令形の表現が規範的とされ、可能肯定疑問類の表現は見受けられなかった。このように、実際の使用実態では、規範的とされる命令形の表現は、親しい相手に使用するが、配慮を必要とする負担の大きい場面や疎の人物には疑問文を用いた表現を使用するという結果であった。特に最も配慮を必要とする場面だと言える初対面の目上の場面 2 の場合では、両世代とも可能肯定疑問類を多く選択しており、未来や意志の表現よりもさらに丁寧な表現として認識されていることがわかった。

以上のように、依頼表現の多様化の新たな局面が見出せるのであるが、ここで各言語の多様化の方向性の背景について考察してみたい。現在使用される授受動詞を用いた依頼表現の構文的特徴として、日本語の場合は、モラウ系(もらう/いただく)を用いた依頼表現のバリエーションが多様化する傾向があり、新しくモラウ系許可求め類の表現の使用が広がってきている。これは、「してもらえる」という相手の行動を直接言及せず、相手の行為によって話者自身が恩恵を受けることを婉曲的に表現する形式が拡張していくことを意味する。このような表現が生み出されるのは、鈴木(1989)が述べるように、日本語では、相手の意志や能力といった「聞き手の私的領域」に直接言及するのを避けることが、配慮を示すことに繋がるからだと思われる。

一方で、韓国語の場合は、相手の意志を聞く、あるいは、相手に遂行能力があることを期待した問いかけをすることによって配慮を示す表現を拡張させているということが言える。このように、配慮を必要とする場面で相手の意志や能力といった「聞き手の私的領域」

に直接言及することは、韓国語の場合は問題にならないということがわかる。つまり、「聞き手の私的領域」に言及しない表現が丁寧だと捉える日本語とは異なり、韓国語はそれに直接言及することによって配慮を示す表現が拡張していく。日韓の依頼表現の拡張の方向性の違いは、何を丁寧だと感じるかという発想法の違いが反映したものだといえる。

6. まとめ

本章では、日本語と韓国語の授受動詞による依頼表現の使用動態に関する調査に基づき、日韓両言語の配慮を必要とする言語形式の多様化の過程について考察した。以下で、調査の結果をまとめる。

本調査では、上下関係や親疎関係だけでなく、依頼内容の負担の大小という基準を加えて調査を行ったが、その結果、依頼表現のバリエーションは、上下関係や親疎関係だけでなく、負担の大きい場面で使用されやすいという負担度の違いによっても回答率に差が現れた。

日本語の場合、モラウ系許可求め類に関しては、両世代に共通して、初対面の目上に対して負担の大きい場面で使用する傾向がある。また、全体的に若年層は、中高年層よりもモラウ系許可求め類を選択するが、特に初対面の同年代と親しい目上に対して使用しやすい。

韓国語の場合、韓国語の依頼表現には、親しい相手には命令類と活用形類の表現が選択されやすくなるが、配慮を必要とする相手や場面では、肯定疑問類の未来「烈」を用いた表現、相手の意志を問う表現、相手の能力の有無を問う表現が用いられる。可能肯定疑問類は、若年層は中高年層よりも親しい目上に対する使用が広がっており、中高年層は負担の大きい場面で使用する傾向にある。

日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現は、外国人向けの教科書では見受けられず、規範的な(あるいは定着した)依頼表現とされていないことがわかった。しかし、このような表現がアンケート調査では、いずれも若年層が中高年層よりも多用する傾向にあった。よって、これらが比較的新しい表現で、そこから変異の多様化が生じているといえる。また、これら表現に対する中高年層の回答率の高さから、依頼の負担の大きい場面での使用が定着し、そこから親しい目上や初対面の同世代という待遇表現の選択基準が揺れやすい相手へ配慮する表現として若年層に使用が広がっているということが明らかになった。

最後に、配慮を必要とする場面で使用される表現が、多様化していく過程で働く要因に関して述べる。日本語の依頼表現は、モラウ／イタダクの補助動詞用法があるが、韓国語の方は、モラウに相当する받다(もらう)に補助動詞用法がなく、依頼表現を構成しない。よって、日本語の依頼表現は、モラウ系の依頼表現が多様になるが、韓国語の依頼表現は、クレル系の依頼表現が多様になっていく。また、文法の違いだけでなく、丁寧さの捉え方にも違いがある。日本語は相手の行動や私的領域を避け、一方で、韓国語は相手の行動

や私的領域に言及する表現が拡張する。つまり、配慮を必要とする場面での表現の選択において、相手の行為や「聞き手の私的領域」に直接言及するか否かによって、日韓両言語で配慮の示し方が異なるということである。よって、配慮を必要とする言語形式の多様化の過程においては、こうした配慮の示し方の違いによって、表現の多様化の方向性にも差が現れると言える。

第8章 結論と今後の展望

1. 結論

本稿では、日本語の依頼表現のモラウ系許可求め類の使用実態を明らかにするため、アンケート調査と国会会議録の資料を用いた数量調査と談話分析を行った。以下で、2章から7章の調査結果をまとめる。

第2章は、モラウ系許可求め類の表現の使用動態を見るため、若年層と中高年層に選択式アンケート調査を行った。モラウ系許可求め類の表現は、若年層で許容度が高く、両世代とも初対面の目上の人物に対して負担度の大きい依頼をする場面で許容度が高くなるという結果であった。若年層において特有に見られた傾向として、「してもらって(も)いいですか」を親しい目上や初対面の同世代という待遇表現の選択基準が揺れやすい相手に対して選択している。よって、若年層の使用範囲よりも、中高年層の使用範囲が狭いということが明らかになった。

第3章は、第2章の調査から明らかになった、モラウ系許可求め類の表現が初対面の目上の人物に使用されやすいという結果をふまえて、使用の許容度が高い若年層を対象に、疎の関係の人物に対する依頼場面を複数設定したアンケート調査の結果を分析した。調査には、聞き手の属性をさらに詳細にするため、上下関係や親疎関係のほかに、役割関係や人間関係の継続性の有無を分析の基準とした。その結果、モラウ系許可求め類の表現は、人間関係の継続性がない場面において許容度が高くなり、特に人間関係の継続性がない公の場所で特別な役割関係の生じない場面においての使用が妥当とされることがわかった。

第4章は、第3章の公の場でモラウ系許可求め類の表現が使用されやすいという調査結果をふまえ、国会会議録から用例調査を行い、モラウ系肯定疑問文、モラウ系否定疑問文、モラウ系許可求め類の前接語を分析した。その分類として、依頼内容がその場で遂行され完結するか否かという発話現場実現性の有無に着目した。その結果、モラウ系許可求め類の表現は、「教えていただいて(も)よろしいですか/でしょうか」のような会議特有の例も含めて、その場で(会議内で)依頼内容が遂行され、完了する場合に使用されるということを明らかにした。

第5章は、国会会議録を質問談話として捉え、モラウ系肯定疑問類の表現・モラウ系否定疑問類の表現、モラウ系許可求め類の表現が、談話を展開させるうえで、どの位置に現れ、どのような働きをしているのかを明らかにするために談話分析を行った。その結果、モラウ系肯定疑問類の表現は、談話全体、あるいは、新しい話題の序盤に導入として表れ、議論の前提となる情報を聞き出す表現として用いられる。モラウ系否定疑問類の表現とモラウ系許可求め類の表現は、いずれも議論の中盤に、必要な情報を要求する質問として現れる。モラウ系否定疑問類の表現は、相手の見解や情報の不透明な点を回答者本人から聞き出す場合に現れるが、モラウ系許可求め類の表現は、自分の要望を述べる前に、要望を

通すために有利な情報を得るため、一時的に別の人物に対して説明を要求する場合に用いられることが明らかになった。

第6章は、日本語と韓国語の依頼表現を対照するため、先行研究をもとに依頼表現を体系的に整理した。そして、それらの使用実態を調査するため、若年層を対象にアンケート調査を行った。その結果、日本語ではモラウ系許可求め類の表現、韓国語では可能肯定疑問類の表現が、目上の人物に対して使用されることがわかった。

第7章は、依頼表現のバリエーションの多様化の方向性について、どのような要因が働いているのかを日本語と韓国語の依頼表現を対照した。調査として、日韓における世代別の動態調査を行った結果と日本語と韓国語の学習者向けの教科書の用例調査から、実際の使用認識と規範的な依頼表現を示した。その結果、日本語のモラウ系許可求め類の表現と韓国語の可能肯定疑問類の表現は、使用実態としては多用される表現ではあるが、規範的な表現とされていないということがわかった。また、新しい形式の依頼表現で、現在使用が拡大し定着しつつある表現であるということを示すことができた。

そして、現代では日韓において新しい形式の依頼表現のバリエーションが多様化していく方向性は、文法的な制限だけでなく、運用される社会によって丁寧さの表し方に違いがある。日本語の場合、相手の行動や「聞き手の私的領域」(鈴木 1989)に言及しない表現を丁寧な表現だと捉えることがあるため婉曲的な表現が拡張するが、韓国語は相手の行動や「聞き手の私的領域」に直接言及する表現が多様になる。よって、社会の違いによる丁寧さへの認識の違いは、表現が多様化する方向性にも違いが表れるということが明らかになった。

以下、本稿のまとめと全体を通して総合的な考察を述べる。まず、モラウ系許可求め類の表現がどのような場面において使用が定着し、使用が拡大しているのか。先行研究では、モラウ系許可求め類の表現は、若年層において友人のような親しい関係の相手に用いられることが言われている。これをふまえた第2章と第6章の調査では、使用範囲が広い若年層の場合、親しい同年代に対して負担度の大きい場合に選ばれ、待遇表現の選択基準が揺れやすい相手に対して選択されやすいことや、中高年層において負担度の大きい場面において初対面の目上に対して使用されていることから、使用される場面だけでなく、この表現を使用する世代の範囲も広がっているということがわかった。そして、両世代とも疎の関係の人物や、負担度の大きい場面と言った相手への気づかいが特に必要な場面において選ばれやすいことが明らかになった。

次に、なぜ新しい依頼表現が現代において出現したのか考察する。新しい表現が出現する理由には、敬意漸減という既存の表現の敬意が下がることで別の語に取って代わられるということがある。滝浦(2020)は、森(2016)の現代日本語における授受表現の語用論的制約について、なぜそのような変化が生じたのかに対して江湖山(1943)の敬意漸減を引用しながら問いに答えている。同じように、依頼表現として新たにモラウ系許可求め類の表現が出現したのは、既存の表現の敬意漸減が関係しているのではないかという仮説がたてら

れる。しかし、本調査の結果でも明らかなように、モラウ系肯定疑問類「していただけますか」とモラウ系否定疑問類「していただけますか」も、使用される相手が目上から目下が変わっていないことから、既存の表現の敬意が下がったことによる出現ではないということがいえる。また、モラウ系許可求め類の表現は、若年層において友人同士の場面で許容度が高いことは先行研究でも明らかになっているため、目上の人物に対して使用する表現として出現したわけでもないようである。むしろ、親しい同年代に対する負担度の大きい場面での許容度が高かったことから、同じ相手でも場面によって、相手への配慮を示す表現として運用されていると思われる。

このように、負担度の違いといった場面による使い分けは、モラウ系許可求め類の表現が出現する前は、既存の依頼表現がその部分を担っていたであろう。しかし、相手にとって負担度の大きい依頼の場面では、特に配慮が必要になるため、それを示すためには、それに適した表現が必要になる。モラウ系許可求め類の表現は、敬意は既存のモラウ系肯定疑問類やモラウ系否定疑問類と同じであるが、その婉曲的な文構造から、他の表現よりも気づかいの度合いが異なっているのだと思われる。そして、現在では、そういった気づかいといった尺度も示すことができる表現を新しく生み出し、場面に応じて使い分けようになっているのだと考える。このことから、新しい表現が出現する理由は、丁寧な表現を使おうとする話し手の意識に加え、同じ相手であっても場面に応じて、相手に気づかいといった配慮を示した表現を使い分けようとする意識も働いているからだと考える。

2. 今後の展望

本稿では、モラウ系許可求め類の表現がなぜ使用始めたのか、その理由について、考察した。今後の展望としては、既存の表現が今後のどのような場面において使用されるのかということである。本稿では、モラウ系許可求め類の表現は、既存のモラウ系肯定疑問文とモラウ系否定疑問文の中間的な表現として選ばれる傾向があるとことを述べたが、そうになると、モラウ系肯定疑問文とモラウ系否定疑問文の使用範囲が今後狭くなっていくと思われる。

また、尾崎(2015)では、モラウ系許可求め類の表現の普及の要因は、上記で述べたように「てもらえますか」が、相手の〈許容〉を問うという機能をはたしていないことから、一方的な表現に聞こえるためだと述べている。つまり、既存の表現で定型化している依頼表現は、使用していくうちに意味が薄れていくということである。一方で、モラウ系許可求め類の表現の丁寧さについて、文化審議会(2007)では、既存の表現をより丁寧な表現にしようとした表現だと述べていることから、尾崎(2015)の見解と異なっているように思う。既存の表現のイメージに関しても、今後使用実態や使用者の認識を調査していく必要があると思われる。

おわりに

本研究は、卒業論文において、依頼表現の運用に関する日韓対照研究に取り組んだことから始まる。筆者が卒業論文のテーマを決める時、様々なバリエーションがある韓国語の依頼表現をどのように運用すればよいのかという疑問があったため、交換留学中にアンケート調査を行った。これをきっかけに日韓対照研究に取り組むことにした。

次に、博士前期課程に進学し、修士論文のテーマを決める時に読んだ『続弾！問題な日本語 何が気になる？ どうして気になる？』に「してもらって(も)いいですか」のような許可求め表現を用いた依頼表現が、高年層からよい印章を与えない問題な日本語として取り上げられていることに衝撃を受けた。これが、依頼場面における許可求め表現に着目するようになったきっかけである。この表現は、世代別の調査をするにはよい題材だと思い、調査を始めたのである。

博士後期課程では、アンケート調査だけでなく、用例調査や談話分析といった手法も取り入れ、依頼場面における許可求め表現を題材に博士論文にまで発展させることができた。

各章の初出は以下のとおりである。本稿は、これまでの研究発表原稿、論文に加筆修正を加えたものである。

はじめに(書きおろし)

第1章 研究の枠組み(書きおろし)

第2章 モラウ系許可求め類の表現の使用動態(辻岡咲子(2019)「依頼場面における許可求め表現の使用の動態」『国文学』103 査読あり)

第3章 疎の関係の人物に使用されるモラウ系許可求め類の表現(辻岡咲子(2020b)「疎の関係の人物に使用される依頼場面での許可求め表現に関する調査」『国文学』104 査読あり)

第4章 国会会議録に見られるモラウ系許可求め類の表現の使用実態(辻岡咲子(2021)「モラウ系授受動詞を用いた依頼表現の比較—国会会議録の資料から—」『国文学』105 査読あり)

第5章 質問場面に見られる依頼表現の談話分析(辻岡咲子(2022 予定)「質問場面に見られる依頼表現の談話分析—国会会議録の資料から—」『国文学』106 査読あり)

第6章 日韓における行為要求表現の運用の比較(辻岡咲子(2018)「日韓における行為要求表現の運用に関する対照研究」『国文学』102 査読あり)

第7章 日韓における授受動詞による依頼表現のバリエーションの多様化の方向性(辻岡咲子(2020c)「日本語と韓国語における授受動詞による依頼表現のバリエーションの多様化の方向性」『社会言語科学』23-1 査読あり、辻岡咲子(2020a)「日本語教科書における依頼表現に関する調査」『千里山文学論集』101 査読なし)

第8章 結論及び今後の展望(書きおろし)

おわりに (書きおろし)

本研究は、複数のアンケート調査を実施するにあたり、日本国内及び韓国で多大なるご協力を賜りました。博士前期課程のダブルディグリー制度を利用した留学の際に、指導教員としてのご指導と韓国語母語話者のデータ収集にご協力いただいた嶺南大学校の金良宣先生、留学に関して多大なご助力をいただいた本学東アジア文化研究科の藤田高夫先生と篠原啓方先生に感謝申し上げます。未筆ながら、本論文を執筆するにあたり、在学中のサポートなど様々な面において筆者を支えてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参考文献・URL

- 김태엽(1999) 『우리말의 높임법 연구』 대구대학교출판부
- 金順任(2008) 『한국어와 일본어의 제 3 자 경어의 대조연구(韓国語と日本語の第三者敬語の対照研究)』 پاک・イジョン出版社
- 相原まり子(2008) 「依頼表現の日中対照研究—相手に応じた表現選択—」 『言語情報科学』 6
- 青木博史・高山善行(編)(2020) 『日本語文法史キーワード事典』 ひつじ書房(「談話」項目執筆:森勇太)
- 青山秀夫(1969a) 「現代朝鮮語の敬語と敬語意識(一)—京畿道驪州邑における実態調査報告—」 『朝鮮学報』 51
- 青山秀夫(1969b) 「現代朝鮮語の敬語と敬語意識(二)—京畿道驪州邑における実態調査報告—」 『朝鮮学報』 53
- 青山秀夫(1970) 「現代朝鮮語の敬語と敬語意識(三)—京畿道驪州邑における実態調査報告—」 『朝鮮学報』 57
- 荒木美智子(2008) 『接客業でさすがと言わせる話し方』 日東書院本社
- 李任洙・金容權(2010) 『新版 ハングル文章表現事典』 三修社
- 李翊燮・李相億・蔡ワン(2004) 『韓国語概論』 大修館書店
- 李讓珍(2016) 「参議院の予算委員会における「させていただく」の使用実態とその用法の変化について『国会会議録検索システム』を利用して」 『言語の研究』 2
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子(1986) 『日本人とアメリカ人との敬語行動—大學生の場合—』 南雲堂
- 井出里咲子・任榮哲(2001) 「人と人をつなぐもの—なぜ日本語に授受動詞が多いのか」 『言語—』 30-5
- 任榮哲・井出里咲子(2004) 『箸とチョッカラク ことばと文化の日韓比較』 大修館書店
- 任炫樹(2006) 「日韓断り談話に見られる理由表現マーカー—ウチ・ソト・ヨソという観点から—」 真田真治(監)・任榮哲(編) 『韓国人による日本社会言語学研究』 おうふう
- 林炫情(2008) 「日本語と韓国語の第三者待遇表現—聞き手の違いが他称詞と述語待遇選択に及ぼす影響—」 『山口県立大学学術情報』 1
- 梅田博之(1977) 「朝鮮語における敬語」 大野晋, 柴田武(編) 『岩波講座 日本語 4 敬語』 岩波書店
- 江湖山恒明(1943) 『敬語法』 三省堂
- 岡本真一郎(1988) 「依頼表現の使い分けの規定因」 『愛知学院大学文学部紀要』 18
- 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二(2018) 「依頼談話の発想と表現—異文化接触問題の解決をめざした日韓中対照談話論—」 『社会言語科学』 21(1)
- 荻野綱男(1989) 「対照社会言語学と日本語教育—日韓の敬語用法の対照研究を例にして—」

『日本語教育』 69

- 荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧顕松(1990)「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』 136
- 奥津敬一郎(1983)「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」『日本語学』 2-4
- 生越直樹(2012)「「配慮」の示し方 日本と韓国の言語行動の比較から」三宅和子・野田尚史・生越直樹(編)『シリーズ社会言語科学 1「配慮」はどのように示されるか』ひつじ書房
- 生越直樹・曹喜澈(2000)『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋』白帝社
- 生越まり子(1995)「依頼表現の対照研究—朝鮮語の依頼表現—」『日本語学』 14-10
- 尾崎喜光(2008)「依頼行動と感謝行動の日韓比較」尾崎喜光(編)『対人行動の日韓対照研究—言語行動の基底にあるもの』ひつじ書房
- 尾崎喜光(2015)「「～てもらっていい？」の普及に関する研究」『清心語文』 17
- 嚴廷美(2012)「日本人と韓国人の言語行動における「ウチ、ソト、ヨソ」と「우리(ウリ)、남(ナム)」—主に敬語行動を例に—」『言語と文化』 29 - 42
- 蒲谷宏(2013)『待遇コミュニケーション論』大修館書店
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店
- 河村光雅(1999)「日朝両言語における依頼表現の違い」『日本語・日本文化』 25
- 金順任(2006)「日本語と韓国語のシナリオ談話からみた第三者敬語の対照研究」真田真治(監)・任榮哲(編)『韓国人による日本社会言語学研究』おうふう
- 金昌男(2000)「日本語母語話者における依頼表現の使用実態について—「～てくれる／くださる」「～てもらう／いただく」を中心に—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 3
- 金田一春彦・林大・柴田武(1988)『日本語百科大事典 縮刷版』大修館書店
- 工藤真由美(1979)「依頼表現の発達」『国語と国文学』 56-1
- 熊谷智子・篠崎晃一(2006)「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」国立国語研究所(編)『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 小柳智一(2014)「奈良時代の配慮表現」『日本語の配慮表現の多様性—歴史的変化と地理的・社会的変異—』くろしお出版
- 呉泰均(2020)『日本語聞き手待遇表現の社会語用論的研究』北海道大学出版会
- 笹川洋子(1999)「アジア社会における依頼のポライトネス(for you or for me)について—日本語・韓国語・中国語・タイ語・インドネシア語の比較—」『親和国文』 34
- ジェフリー・リーチ・田中典子(監訳)(2020)『ポライトネスの語用論』研究社
- 曹美庚(2003)「日本語と韓国語における敬語表現の比較」『人間環境学研究』 2-1
- 鈴木睦(1989)「聞き手の私的領域と丁寧表現—日本語の丁寧さは如何にして成り立つか—」『日本語学』 8-2
- 砂川有里子(2005)「ご住所書いてもらっていいですか」北原保雄(編)『続弾！問題な日本語 何が気になる？ どうして気になる？』大修館書店

- 砂川有里子(2006)「「～てもらってもいいですか」という言い方—指示・依頼と許可求めの言語行為—」上田功・野田尚史(編)『言外と言内の交流分野:小泉保博士傘寿記念論文集』大学書林
- 高澤信子(2011)「～ませんか」型についての一考察—明治期を中心に—『立教大学大学院日本文学論叢』11
- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
- 滝浦真人(2016)「社会語用論」加藤重広・滝浦真人(編)『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房
- 滝浦真人(2020)「「ポライトネスの原理・原則」と日本語ベネファクティブの敬意漸減」加藤重広・滝浦真人(編)『日本語語用論フォーラム』ひつじ書房
- 田中春美・田中幸子(1996)『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション—』ミネルヴァ書房
- 塚本勲・熊谷明泰・白岩美穂・黄鎮杰・金年泉(2005)『パスポート 朝鮮語小辞典 朝和+和朝』白水社
- 辻岡咲子(2018)「日韓における行為要求表現の運用に関する対照研究」『国文学』102
- 辻岡咲子(2019)「依頼場面における許可求め表現の使用の動態」『国文学』103
- 辻岡咲子(2020a)「日本語教科書における依頼表現に関する調査」『千里山文学論集』101
- 辻岡咲子(2020b)「疎の関係の人物に使用される依頼場面での許可求め表現に関する調査」『国文学』104
- 辻岡咲子(2020c)「日本語と韓国語における授受動詞による依頼表現のバリエーションの多様化の方向性」『社会言語科学』23-1
- 辻岡咲子(2021)「モラウ系授受動詞を用いた依頼表現の比較—国会会議録の資料から—」『国文学』105
- 辻岡咲子(2022 予定)「質問場面に見られる依頼表現の談話分析—国会会議録の資料から—」『国文学』106
- 日本語学会(編)(2018)『日本語学大辞典』東京堂出版
- 日本語記述文法研究会(編)(2003)『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(編)(2009)『現代日本語文法 7 第 12 部 談話 第 13 部 待遇表現』くろしお出版
- 野口恵子(2009)『バカ丁寧化する日本語』光文社新書
- 野呂健一(2015)「現代日本語の依頼表現における許可求め型の広がり」『高田短期大学紀要』33
- 朴三植・韓晶恵(2012)『韓国語文型ハンドブック』白帝社
- 韓京娥(2008)「日本語の「～てあげる・くれる」と韓国語の「-아/어 주다-a/e cwuta」の意味機能」『日本語教育』136
- 韓美卿・梅田博之(2009)『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較—』大

修館書店

藤原浩史(2014)「平安・鎌倉時代の依頼・禁止に見られる配慮表現」『日本語の配慮表現の
多様性—歴史的変化と地理的・社会的変異—』くろしお出版

文化審議会(2007)『敬語の指針』

www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/.../keigo_tousin.pdf

文化庁文化部国語科 (2008)『平成 19 年度国語に関する世論調査 日本人の国語力と言葉遣
い』ぎょうせい

ペネロピ・ブラウン、スティーヴン・C・レヴィンソン(1978)『ポライトネス 言語使用に
おける、ある普遍現象』研究社

洪珉杓(2007)『日韓の言語文化の理解』風間書房

政井美穂(2016)「返答のタイプによる「てもらってもいいか」の用法の分類」『実践國文學』
90

宮地裕(1981)「敬語史論」森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明(編)『講座日本語学 9
敬語史』明治書院

宮地裕(1995)「依頼表現の位置」『日本語学』14-10

森勇太(2016)『発話行為から見た日本語授受表現の歴史的研究』ひつじ書房

山岡政紀(2008)『発話機能論』くろしお出版

山下仁(2010)「呼称表現の研究からポライトネスの対照社会言語学」大阪大学大学院言語
文化研究科(編)『批判的社会言語学の展開』大阪大学大学院言語文化研究科

山田敏弘(2004)「日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法
—」明治書院

油谷幸利(1974)「現代朝鮮語の敬語に関する一考察」『朝鮮学報』73

柳慧政(2012)『依頼談話の日韓対照研究 談話の構造・ストラテジーの観点から』笠間書院
渡辺学・山下仁(編)(2014)『講座ドイツ言語学 第3巻 ドイツ語の社会語用論』ひつじ書房

資料編

本稿でを使用したアンケート項目は、以下のとおりである。

調査1（日本・韓国）

第6章に(1)～(2)の設問の回答を分析に用いた。

調査2（日本・韓国）

第2章に日本のデータのうち、【1】と【3】の設問の回答を分析に用い、第7章に日本と韓国両方のデータのうち、【1】と【3】の設問の回答を分析に用いた。

調査3

第4章の分析に用いた。

調査4

第4章の分析に用いた。

調査 1(日本)

敬語に関するアンケート調査

敬語に関するアンケート調査にご協力ください。このアンケートは、卒業論文の研究テーマとして取り組んでいる「日本語と韓国語の敬語運用の比較」のために実施するものです。以下のアンケートの項目に普段自分が話している表現を記入してください。よろしくお願いいたします。

(関西大学文学部国語国文学専修 4 回生 辻岡咲子)

(1) 以下の人に自分の写真を撮ってもらいたい時どのように頼みますか。なお、該当の人物がない場合には回答しなくて結構です。

(1.1) 年下の場合

(1.1.1) 弟／妹

(1.1.2) 仲の良い年下の友人

(1.1.3) 初対面の年下の人

(1.1.4) 仲の良い年下の先輩 (例：長く勤めているアルバイト先の先輩で年齢はあなたよりも下)

(1.1.5) 初対面の年下の先輩 (例：はじめて勤めるアルバイト先の先輩で年齢はあなたよりも下)

(1.2) 年上の場合

(1.2.1) 兄／姉

(1.2.2) 父／母

(1.2.3) 祖父／祖母

(1.2.4) ゼミの担当教授

(1.2.5) 仲の良い年上の友人

(1.2.6) 初対面の年上の人

(1.2.7) 仲の良い年上の先輩

(2) 撮ってもらった写真を以下の人に見せました。その人があなたに、誰がその写真を撮ったのかを尋ねたとき、どのように答えますか。すべて主語を含めて文全体を書いてください。なお、該当の人物がいない場合には回答しなくて結構です。

(2.1) 年下の友人と話しているとき

(2.1.1) 写真を撮ったのが兄／姉の場合

(2.1.2) 写真を撮ったのが父／母の場合

(2.1.3) 写真を撮ったのが祖父／祖母の場合

(2.1.4) 写真を撮ったのが年下の先輩の場合

(2.1.5) 写真を撮ったのが年上の先輩の場合

(2.1.6) 写真を撮ったのがゼミの担当教授の場合

(2.2) 兄／姉と話しているとき

(2.2.1) 写真を撮ったのが父／母の場合

(2.2.2) 写真を撮ったのが祖父／祖母の場合

(2.2.3) 写真を撮ったのが年下の先輩の場合

(2.2.4) 写真を撮ったのが年上の先輩の場合

(2.2.5) 写真を撮ったのがゼミの担当教授の場合

(2.3) 父／母と話しているとき

(2.3.1) 写真を撮ったのが兄／姉の場合

(2.3.2) 写真を撮ったのが祖父／祖母の場合

(2.3.3) 写真を撮ったのが年下の先輩の場合

(2.3.4) 写真を撮ったのが年上の先輩の場合

(2.3.5) 写真を撮ったのがゼミの担当教授（父母よりも年上）の場合

(2.4) 祖父／祖母と話しているとき

(2.4.1) 写真を撮ったのが兄／姉の場合

(2.4.2) 写真を撮ったのが父／母の場合

(2.4.3) 写真を撮ったのが年下の先輩の場合

(2.4.4) 写真を撮ったのが年上の先輩の場合

(2.4.5) 写真を撮ったのがゼミの担当教授（祖父母よりも年下）の場合

(2.5) ゼミの担当教授と話しているとき

(2.5.1) 写真を撮ったのが父／母（担当教授よりも年下）の場合

(2.5.2) 写真を撮ったのが祖父／祖母（担当教授よりも年上）の場合

(2.5.3) 写真を撮ったのが年下の先輩の場合

(2.5.4) 写真を撮ったのが年上の先輩の場合

(3) ゼミの担当教授に教授の子どもの年齢を尋ねるとき、次のそれぞれの状況でどのように言いますか。すべて主語を含めて文全体を書いてください。

(3.1) 教授に子ども（あなたより年上か年下かは不明）がいることを知って、年齢を尋ねるとき。

(3.2) 教授に小学生くらいの子ども（あなたより年下）がいることを知って、年齢を尋ねるとき。

①出身地（1～12 歳の間にもっとも長く居住した地域を市区町村単位で記入してください。） （ ）都・道・府・県（ ）市・区・町・ 村 ②生年（西暦 ）年生まれ ③性別（ 男 ・ 女 ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

敬語に関するアンケート調査

敬語に関するアンケート調査にご協力ください。このアンケートは、修士論文の研究テーマとして取り組んでいる依頼表現の使用実態を調査するために実施するものです。よろしくお願いいたします。

(関西大学大学院文学研究科 辻岡咲子)

◎ご記入をお願いします。

(1)出身地 (6~12歳の間でもっとも長く住んだ地域を市区町村単位で記入してください)

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村

(2)外住歴 ((1)以外の地域に3年以上住んだ経験があれば以下に記入してください)

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村 (歳 ~ 歳頃)

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村 (歳 ~ 歳頃)

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村 (歳 ~ 歳頃)

(3)性別： 男 ・ 女 (4)生年： 西暦 () 年

【1】次の1-1～1-4の場面で、(1)～(4)の相手に対して、選択肢の表現の中から使うものすべてに○をつけてください。

1-1. 次の人にペンを貸してもらいたいとき。

(1)親しい同年代の友人に「ペンを～」

- a.貸して b.貸してくれ c.貸してくれる? d.貸してくれない? e.貸してもらえる?
f.貸してもらえない? g.貸してもらって(も)いい? h.貸してくれますか
i.貸してくれませんか j.貸してもらえますか k.貸してもらえませんか
l.貸してください m.貸して下さいますか n.貸して下さいませんか
o.貸していただけますか p.貸していただけませんか q.貸してもらって(も)いいですか
r.貸していただいて(も)いいですか

(2)親しい目上の人に「ペンを～」

- a.貸して b.貸してくれ c.貸してくれる? d.貸してくれない? e.貸してもらえる?
f.貸してもらえない? g.貸してもらって(も)いい? h.貸してくれますか
i.貸してくれませんか j.貸してもらえますか k.貸してもらえませんか
l.貸してください m.貸して下さいますか n.貸して下さいませんか
o.貸していただけますか p.貸していただけませんか q.貸してもらって(も)いいですか
r.貸していただいて(も)いいですか

(3)初対面の同年代の人に「ペンを～」

- a.貸して b.貸してくれ c.貸してくれる? d.貸してくれない? e.貸してもらえる?
f.貸してもらえない? g.貸してもらって(も)いい? h.貸してくれますか
i.貸してくれませんか j.貸してもらえますか k.貸してもらえませんか
l.貸してください m.貸して下さいますか n.貸して下さいませんか
o.貸していただけますか p.貸していただけませんか q.貸してもらって(も)いいですか
r.貸していただいて(も)いいですか

(4)初対面の目上の人に「ペンを～」

- a.貸して b.貸してくれ c.貸してくれる? d.貸してくれない? e.貸してもらえる?
f.貸してもらえない? g.貸してもらって(も)いい? h.貸してくれますか
i.貸してくれませんか j.貸してもらえますか k.貸してもらえませんか
l.貸してください m.貸して下さいますか n.貸して下さいませんか
o.貸していただけますか p.貸していただけませんか q.貸してもらって(も)いいですか
r.貸していただいて(も)いいですか

1-2. 次の人に書類に印鑑を押してもらいたいとき。

(1)親しい同年代の友人に「この書類に印鑑を～」

- a.押して b.押してくれ c.押してくれる? d.押してくれない? e.押してもらえる?
f.押してもらえない? g.押してもらって(も)いい?
h.押してくれますか i.押してくれませんか j.押してもらえますか
k.押してもらえませんか l.押してください m.押していただけますか
n.押していただきませんか o.押しただけですか p.押しただけませんか
q.押してもらって(も)いいですか r.押しただいて(も)いいですか

(2)親しい目上の人に「この書類に印鑑を～」

- a.押して b.押してくれ c.押してくれる? d.押してくれない? e.押してもらえる?
f.押してもらえない? g.押してもらって(も)いい?
h.押してくれますか i.押してくれませんか j.押してもらえますか
k.押してもらえませんか l.押してください m.押していただけますか
n.押していただきませんか o.押しただけですか p.押しただけませんか
q.押してもらって(も)いいですか r.押しただいて(も)いいですか

(3)初対面の同年代の人に「この書類に印鑑を～」

- a.押して b.押してくれ c.押してくれる? d.押してくれない? e.押してもらえる?
f.押してもらえない? g.押してもらって(も)いい?
h.押してくれますか i.押してくれませんか j.押してもらえますか
k.押してもらえませんか l.押してください m.押していただけますか
n.押していただきませんか o.押しただけですか p.押しただけませんか
q.押してもらって(も)いいですか r.押しただいて(も)いいですか

(4)初対面の目上の人に「この書類に印鑑を～」

- a.押して b.押してくれ c.押してくれる? d.押してくれない? e.押してもらえる?
f.押してもらえない? g.押してもらって(も)いい?
h.押してくれますか i.押してくれませんか j.押してもらえますか
k.押してもらえませんか l.押してください m.押していただけますか
n.押していただきませんか o.押しただけですか p.押しただけませんか
q.押してもらって(も)いいですか r.押しただいて(も)いいですか

1-3. 次の人と会う約束をしていたが、他の予定が入ったため、日程を変えてもらいたいとき。

(1) 親しい同年代の友人に「日程を～」

- a. 変えて b. 変えてくれ c. 変えてくれる? d. 変えてくれない? e. 変えてもらえる?
- f. 変えてもらえない? g. 変えてもらって(も)いい?
- h. 変えてくれますか i. 変えてくれませんか j. 変えてもらえますか
- k. 変えてもらえませんか l. 変えてください m. 変えてくださいますか
- n. 変えてくださいませんか o. 変えていただけますか p. 変えていただけませんか
- q. 変えてもらって(も)いいですか r. 変えていただいて(も)いいですか

(2) 親しい目上の人に「日程を～」

- a. 変えて b. 変えてくれ c. 変えてくれる? d. 変えてくれない? e. 変えてもらえる?
- f. 変えてもらえない? g. 変えてもらって(も)いい?
- h. 変えてくれますか i. 変えてくれませんか j. 変えてもらえますか
- k. 変えてもらえませんか l. 変えてください m. 変えてくださいますか
- n. 変えてくださいませんか o. 変えていただけますか p. 変えていただけませんか
- q. 変えてもらって(も)いいですか r. 変えていただいて(も)いいですか

(3) 初対面の同年代の人に「日程を～」

- a. 変えて b. 変えてくれ c. 変えてくれる? d. 変えてくれない? e. 変えてもらえる?
- f. 変えてもらえない? g. 変えてもらって(も)いい?
- h. 変えてくれますか i. 変えてくれませんか j. 変えてもらえますか
- k. 変えてもらえませんか l. 変えてください m. 変えてくださいますか
- n. 変えてくださいませんか o. 変えていただけますか p. 変えていただけませんか
- q. 変えてもらって(も)いいですか r. 変えていただいて(も)いいですか

(4) 初対面の目上の人に「日程を～」

- a. 変えて b. 変えてくれ c. 変えてくれる? d. 変えてくれない? e. 変えてもらえる?
- f. 変えてもらえない? g. 変えてもらって(も)いい?
- h. 変えてくれますか i. 変えてくれませんか j. 変えてもらえますか
- k. 変えてもらえませんか l. 変えてください m. 変えてくださいますか
- n. 変えてくださいませんか o. 変えていただけますか p. 変えていただけませんか
- q. 変えてもらって(も)いいですか r. 変えていただいて(も)いいですか

1-4. 次の人と待ち合わせて、一緒に出かけることになっていたが、待ち合わせ時間に遅れるため、先に目的地に行ってもらいたいとき。

(1)親しい同年代の友人に「先に～」

- a.行って b.行ってくれ c.行ってくれる? d.行ってくれない?
e.行ってもらえる? f.行ってもらえない? g.行ってもらって(も)いい?
h.行ってくれますか i.行ってくれませんか j.行ってもらえますか
k.行ってもらえませんか l.行ってください m.行ってくださいますか
n.行ってくださいませんか o.行っていただけますか p.行っていただけませんか
q.行ってもらって(も)いいですか r.行っていただいて(も)いいですか

(2)親しい目上の人に「先に～」

- a.行って b.行ってくれ c.行ってくれる? d.行ってくれない?
e.行ってもらえる? f.行ってもらえない? g.行ってもらって(も)いい?
h.行ってくれますか i.行ってくれませんか j.行ってもらえますか
k.行ってもらえませんか l.行ってください m.行ってくださいますか
n.行ってくださいませんか o.行っていただけますか p.行っていただけませんか
q.行ってもらって(も)いいですか r.行っていただいて(も)いいですか

(3)初対面の同年代の人に「先に～」

- a.行って b.行ってくれ c.行ってくれる? d.行ってくれない?
e.行ってもらえる? f.行ってもらえない? g.行ってもらって(も)いい?
h.行ってくれますか i.行ってくれませんか j.行ってもらえますか
k.行ってもらえませんか l.行ってください m.行ってくださいますか
n.行ってくださいませんか o.行っていただけますか p.行っていただけませんか
q.行ってもらって(も)いいですか r.行っていただいて(も)いいですか

(4)初対面の目上の人に「先に～」

- a.行って b.行ってくれ c.行ってくれる? d.行ってくれない?
e.行ってもらえる? f.行ってもらえない? g.行ってもらって(も)いい?
h.行ってくれますか i.行ってくれませんか j.行ってもらえますか
k.行ってもらえませんか l.行ってください m.行ってくださいますか
n.行ってくださいませんか o.行っていただけますか p.行っていただけませんか
q.行ってもらって(も)いいですか r.行っていただいて(も)いいですか

【2】「～してもらって(も)いい?」「～してもらってもいいですか」「～していただいて(も)いいですか」という表現についてお聞きします。

2-1. あなたは「～してもらって(も)いい?」「～してもらってもいいですか」「～していただいて(も)いいですか」という表現を使いますか。

- ①よく使う ②たまに使う ③使わないが聞いたことはある ④使わないし聞いたことがない

2-2. あなたは「～してもらって(も)いい?」「～してもらってもいいですか」「～していただいて(も)いいですか」という表現に対して、それぞれどのような印象を持ちますか。次の(1)～(6)について、選択肢の中から1つ選んで○をつけてください。

2-2-1. 「～してもらって(も)いい?」

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
(1) 丁寧な感じがする					
(2) 押しつけがましい感じがする					
(3) 控えめな感じがする					
(4) なれなれしい感じがする					
(5) 親しい感じがする					
(6) 軽い感じがする					

2-2-2. 「～してもらって(も)いいですか」

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
(1) 丁寧な感じがする					
(2) 押しつけがましい感じがする					
(3) 控えめな感じがする					
(4) なれなれしい感じがする					
(5) 親しい感じがする					
(6) 軽い感じがする					

2-2-3. 「～していただいて(も)いいですか」

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
(1) 丁寧な感じがする					
(2) 押しつけがましい感じがする					
(3) 控えめな感じがする					
(4) なれなれしい感じがする					
(5) 親しい感じがする					
(6) 軽い感じがする					

2-3. 以下は、2-1で「①よく使う」「②たまに使う」を回答した人にお聞きします。次の2-3-1～2-3-4の場面で、(1)～(7)の「」内の表現を使いますか。選択肢の中から1つ選んで○をつけてください。

2-3-1. 次の人にペンを貸してもらいたいとき。

	使う	使うこともある	使わない
(1) 親しい同年代の友人に「ペンを貸してもらって(も)いい？」			
(2) 親しい目上の人に「ペンを貸してもらって(も)いいですか」			
(3) 親しい目上の人に「ペンを貸していただいて(も)いいですか」			
(4) 初対面の同年代の人に「ペンを貸してもらって(も)いい？」			
(5) 初対面の同年代の人に「ペンを貸してもらって(も)いいですか」			
(6) 初対面の目上の人に「ペンを貸してもらって(も)いいですか」			
(7) 初対面の目上の人に「ペンを貸していただいて(も)いいですか」			

2-3-2. 次の人に書類に印鑑を押してもらいたいとき。

	使う	使うこともある	使わない
(1) 親しい同年代の友人に「この書類に印鑑を押してもらって(も)いい？」			
(2) 親しい目上の人に「この書類に印鑑を押してもらって(も)いいですか」			
(3) 親しい目上の人に「この書類に印鑑を押していただいて(も)いいですか」			
(4) 初対面の同年代の人に「この書類に印鑑を押してもらって(も)いい？」			
(5) 初対面の同年代の人に「この書類に印鑑を押してもらって(も)いいですか」			
(6) 初対面の目上の人に「この書類に印鑑を押してもらって(も)いいですか」			
(7) 初対面の目上の人に「この書類に印鑑を押していただいて(も)いいですか」			

2-3-3. 次の人と会う約束をしていたが、他の予定が入ったため、日程を変えてもらいたいとき。

	使う	使うこともある	使わない
(1) 親しい同年代の友人に「日程を変えてもらって(も)いい?」			
(2) 親しい目上の人に「日程を変えてもらって(も)いいですか」			
(3) 親しい目上の人に「日程を変えていただいて(も)いいですか」			
(4) 初対面の同年代の人に「日程を変えてもらって(も)いい?」			
(5) 初対面の同年代の人に「日程を変えてもらって(も)いいですか」			
(6) 初対面の目上の人に「日程を変えてもらって(も)いいですか」			
(7) 初対面の目上の人に「日程を変えていただいて(も)いいですか」			

2-3-4. 次の人と待ち合わせて、一緒に出かけることになっていたが、待ち合わせ時間に遅れるため、先に目的地に行ってもらいたいとき。

	使う	使うこともある	使わない
(1) 親しい同年代の友人に「先に行ってもらって(も)いい?」			
(2) 親しい目上の人に「先に行ってもらって(も)いいですか」			
(3) 親しい目上の人に「先に行っていただいて(も)いいですか」			
(4) 初対面の同年代の人に「先に行ってもらって(も)いい?」			
(5) 初対面の同年代の人に「先に行ってもらって(も)いいですか」			
(6) 初対面の目上の人に「先に行ってもらって(も)いいですか」			
(7) 初対面の目上の人に「先に行っていただいて(も)いいですか」			

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

- 할아버지/할머니인 경우
- 담당 교수인 경우
- 연상 타인(사이가 좋은 친구인 경우)
- 연상 타인(별로 친밀하지 않은 사람등인 경우)
- 연상 선배(사이가 좋은 친구인 경우)
- 연상 선배(별로 친밀하지 않은 사람등인 경우)

설문 2:찍어 준 사진을 어느 사람에게 보여 주었습니다. 그 사람은 당신에게 '누가(이 사진을) 찍었어요?'라고 물었습니다. 어떻게 전합니까? ※모두 주어를 잊지 않고 써주세요.

3. 이야기하는 상대(어느 사람)가 연하/친구(남/여동생 /동급생)의 경우

- 가족중 형/누나 (오빠/언니)가 찍어준 경우
- 아버지/어머니가 찍어준 경우
- 할아버지/할머니가 찍어준 경우
- 연하 선배가 찍어준 경우
- 연상 선배가 찍어준 경우

- 담당 교수가 찍어준 경우

4. 이야기하는 상대가 형/누나 (오빠/언니)인 경우

※가족중 형/누나 (오빠/언니) 없는경우 기입하지 않으셔도됩니다

- 아버지/어머니가 찍어준 경우

- 할아버지/할머니가 찍어준 경우

- 연하 선배가 찍어준 경우

- 연상 선배가 찍어준 경우

- 담당 교수가 찍어준 경우

5. 이야기하는 상대가 부모님인 경우

※(아버지와 어머니 말투가 다른 경우 2 가지 써 주세요.이하의 질문도)

- 형/누나 (오빠/언니)가 찍어준 경우

아버지 :

어머니 :

- 할아버지/할머니가 찍어준 경우

아버지 :

어머니 :

- 연하 선배가 찍어준 경우

아버지 :

어머니 :

- 연상 선배가 찍어준 경우

아버지 :

어머니 :

- 담당 교수가 찍어준 경우(※부모보다 연상의 교수인 경우)

아버지 :

어머니 :

6. 이야기하는 상대가 자신의 할아버지/할머니의 경우

- 아버지/어머니가 찍어준 경우

할아버지 :

할머니 :

- 연하 선배가 찍어준 경우

할아버지 :

할머니 :

- 연상 선배가 찍어준 경우

할아버지 :

할머니 :

- 담당 교수가 찍어준 경우(※할아버지/할머니보다 연하의 교수인 경우)

할아버지 :

할머니 :

7. 이야기하는 상대가 담당 교수인 경우

- 아버지/어머니가 찍어준 경우(※담당 교수보다 연하 부모의 경우)

- 할아버지/할머니가 찍어준 경우(※할아버지/할머니보다 연하 교수)

- 연하 선배가 찍어준 경우

- 연상 선배가 찍어준 경우

8. 담당 교수와 다음의 장면에서 이야기할 때 어떻게 이야기합니까?

※ 모두 주어를 잊지 않고 써 주세요.

① 자녀의 연령을 물을 때(연령을 모른 경우)

② 아이(자기보다 연하)의 연령을 물을 때

협력 감사합니다

調査 2(韓国)

경어에 대한 설문조사

경어에 대한 설문조사에 협력해 주십시오. 이 설문조사는 석사논문 연구주제에 관한 의뢰표현의 사용실태를 조사하기 위해 실시하는 것입니다. 잘 부탁드립니다.

간사이대학교 대학원 문학연구과 쓰지오카사키코

기입해 주십시오.

(1)출신지 (6 살 ~12 살 동안에 가장 길게 거주한 지역을 알려주세요.)

() 시 () 구

(2)(1)이외의 거주 지역에 3년이상 거주한 경험이 있으면 이하 ()에 기입해 주십시오.

() 시 () 구

(3)성별 남 . 여 (4)생년 년생

{1}다음 1-1~1-4 장면에서 (1)~(4)의 상태에 대해 선택지의 표현 중에서 당신이 말하는 표현을 모두 〇를 써 주십시오.

1-1 다음 사람에게 펜을 빌릴 때

(1)친한 동년배의 친구에게 ‘펜을 ~’

- a. 빌려 줘. b. 빌려 봐. c.빌려 주겠어? d. 빌려 줄래? e. 빌려 주지 않을래?
- f. 빌려 줄 수 있겠어? g. 빌려 줄 수 없겠어? h. 빌리세요. i. 빌려 주지 않을래요?
- j. 빌려 줄래요? k 빌려 주겠어요? l. 빌려 줄 수 있을까요? m. 빌려 줄 수 없을까요? n. 빌려 주시지 않을래요? o. 빌려 줘요. p. 빌려 주실래요?
- q. 빌려 주세요. r. 빌려 주시겠어요? s. 빌려 주십시오. t. 빌려 주실 수 있을까요?
- u. 빌려 주실 수 없을까요? v. 빌려 주시겠습니까?
- w.기타()

(2)친한 윗 사람에게 ‘펜을 ~’

- a. 빌려 줘. b. 빌려 봐. c.빌려 주겠어? d. 빌려 줄래? e. 빌려 주지 않을래?
- f. 빌려 줄 수 있겠어? g. 빌려 줄 수 없겠어? h. 빌리세요. i. 빌려 주지 않을래요?
- j. 빌려 줄래요? k 빌려 주겠어요? l. 빌려 줄 수 있을까요? m. 빌려 줄 수 없을까요? n. 빌려 주시지 않을래요? o. 빌려 줘요. p. 빌려 주실래요?
- q. 빌려 주세요. r. 빌려 주시겠어요? s. 빌려 주십시오. t. 빌려 주실 수 있을까요?
- u. 빌려 주실 수 없을까요? v. 빌려 주시겠습니까?
- w.기타()

(3)처음 만난 동년배의 사람에게 ‘뵈을 ~’

- a. 빌려 줘. b. 빌려 봐. c. 빌려 주겠어? d. 빌려 줄래? e. 빌려 주지 않을래?
- f. 빌려 줄 수 있겠어? g. 빌려 줄 수 없겠어? h. 빌리세요. i. 빌려 주지 않을래요?
- j. 빌려 줄래요? k. 빌려 주겠어요? l. 빌려 줄 수 있을까요? m. 빌려 줄 수 없을까요?
- n. 빌려 주시지 않을래요? o. 빌려 줘요. p. 빌려 주실래요?
- q. 빌려 주세요. r. 빌려 주시겠어요? s. 빌려 주십시오. t. 빌려 주실 수 있을까요?
- u. 빌려 주실 수 없을까요? v. 빌려 주시겠습니까?
- w. 기타()

(4)처음 만난 윗 사람에게 ‘뵈을 ~’

- a. 빌려 줘. b. 빌려 봐. c. 빌려 주겠어? d. 빌려 줄래? e. 빌려 주지 않을래?
- f. 빌려 줄 수 있겠어? g. 빌려 줄 수 없겠어? h. 빌리세요. i. 빌려 주지 않을래요?
- j. 빌려 줄래요? k. 빌려 주겠어요? l. 빌려 줄 수 있을까요? m. 빌려 줄 수 없을까요?
- n. 빌려 주시지 않을래요? o. 빌려 줘요. p. 빌려 주실래요?
- q. 빌려 주세요. r. 빌려 주시겠어요? s. 빌려 주십시오. t. 빌려 주실 수 있을까요?
- u. 빌려 주실 수 없을까요? v. 빌려 주시겠습니까?
- w. 기타()

1-2 다음 사람에 서류에 도장을 찍어 달라고 말할 때

(1)친한 동년배의 친구에게 ‘도장을 ~’

- a. 찍어 줘 b. 찍어 봐. c. 찍어 주겠어? d. 찍어 줄래? e. 찍어 주지 않을래?
- f. 찍어 줄 수 있겠어? g. 찍어 줄 수 없겠어? h. 찍으세요. i. 찍어 주지 않을래요?
- j. 찍어 줄래요? k. 찍어 주겠어요? l. 찍어 줄 수 있을까요? m. 찍어 줄 수 없을까요?
- n. 찍어 주시지 않을래요? o. 찍어 줘요. p. 찍어 주실래요?
- q. 찍어 주세요. r. 찍어 주시겠어요? s. 찍어 주십시오. t. 찍어 주실 수 있을까요?
- u. 찍어 주실 수 없을까요? v. 찍어 주시겠습니까?
- w. 기타()

(2)친한 윗 사람에게 ‘도장을 ~’

- a. 찍어 줘 b. 찍어 봐. c. 찍어 주겠어? d. 찍어 줄래? e. 찍어 주지 않을래?
- f. 찍어 줄 수 있겠어? g. 찍어 줄 수 없겠어? h. 찍으세요. i. 찍어 주지 않을래요?
- j. 찍어 줄래요? k. 찍어 주겠어요? l. 찍어 줄 수 있을까요? m. 찍어 줄 수 없을까요?
- n. 찍어 주시지 않을래요? o. 찍어 줘요. p. 찍어 주실래요?
- q. 찍어 주세요. r. 찍어 주시겠어요? s. 찍어 주십시오. t. 찍어 주실 수 있을까요?
- u. 찍어 주실 수 없을까요? v. 찍어 주시겠습니까?
- w. 기타()

(3)처음 만난 동년배의 사람에게 ‘도장을 ~’

- a. 찍어 줘 b. 찍어 봐. c. 찍어 주겠어? d. 찍어 줄래? e. 찍어 주지 않을래?
- f. 찍어 줄 수 있겠어? g. 찍어 줄 수 없겠어? h. 찍으세요. i. 찍어 주지 않을래요?
- j. 찍어 줄래요? k. 찍어 주겠어요? l. 찍어 줄 수 있을까요? m. 찍어 줄 수 없을까요?
- n. 찍어 주시지 않을래요? o. 찍어 줘요. p. 찍어 주실래요?
- q. 찍어 주세요. r. 찍어 주시겠어요? s. 찍어 주십시오. t. 찍어 주실 수 있을까요?
- u. 찍어 주실 수 없을까요? v. 찍어 주시겠습니까?
- w.기타()

(4)처음 만난 윗 사람에게 ‘도장을 ~’

- a. 찍어 줘 b. 찍어 봐. c. 찍어 주겠어? d. 찍어 줄래? e. 찍어 주지 않을래?
- f. 찍어 줄 수 있겠어? g. 찍어 줄 수 없겠어? h. 찍으세요. i. 찍어 주지 않을래요?
- j. 찍어 줄래요? k. 찍어 주겠어요? l. 찍어 줄 수 있을까요? m. 찍어 줄 수 없을까요?
- n. 찍어 주시지 않을래요? o. 찍어 줘요. p. 찍어 주실래요?
- q. 찍어 주세요. r. 찍어 주시겠어요? s. 찍어 주십시오. t. 찍어 주실 수 있을까요?
- u. 찍어 주실 수 없을까요? v. 찍어 주시겠습니까?
- w.기타()

1-3 다음 사람에 다른 약속이 생겨서 만날 약속의 일정을 바꿔달라고 말할 때

(1)친한 동년배의 친구에게 ‘일정을 ~’

- a. 바꿔 줘 b. 바꿔 봐. c. 바꿔 주겠어? d. 바꿔 줄래? e. 바꿔 주지 않을래?
- f. 바꿔 줄 수 있겠어? g. 바꿔 줄 수 없겠어? h. 바꾸세요. i. 바꿔 주지 않을래요?
- j. 바꿔 줄래요? k. 바꿔 주겠어요? l. 바꿔 줄 수 있을까요? m. 바꿔 줄 수 없을까요?
- n. 바꿔 주시지 않을래요? o. 바꿔 줘요. p. 바꿔 주실래요?
- q. 바꿔 주세요. r. 바꿔 주시겠어요? s. 바꿔 주십시오. t. 바꿔 주실 수 있을까요?
- u. 바꿔 주실 수 없을까요? v. 바꿔 주시겠습니까?
- w.기타()

(2)친한 윗 사람에게 ‘일정을 ~’

- a. 바꿔 줘 b. 바꿔 봐. c. 바꿔 주겠어? d. 바꿔 줄래? e. 바꿔 주지 않을래?
- f. 바꿔 줄 수 있겠어? g. 바꿔 줄 수 없겠어? h. 바꾸세요. i. 바꿔 주지 않을래요?
- j. 바꿔 줄래요? k. 바꿔 주겠어요? l. 바꿔 줄 수 있을까요? m. 바꿔 줄 수 없을까요?
- n. 바꿔 주시지 않을래요? o. 바꿔 줘요. p. 바꿔 주실래요?
- q. 바꿔 주세요. r. 바꿔 주시겠어요? s. 바꿔 주십시오. t. 바꿔 주실 수 있을까요?
- u. 바꿔 주실 수 없을까요? v. 바꿔 주시겠습니까?
- w.기타()

(3)처음 만난 동년배의 사람에게 ‘일정을 ~’

- a. 바꿔 줘 b. 바꿔 봐. c. 바꿔 주겠어? d. 바꿔 줄래? e. 바꿔 주지 않을래?
- f. 바꿔 줄 수 있겠어? g. 바꿔 줄 수 없겠어? h. 바꾸세요. i. 바꿔 주지 않을래요?
- j. 바꿔 줄래요? k. 바꿔 주겠어요? l. 바꿔 줄 수 있을까요? m. 바꿔 줄 수 없을까요?
- n. 바꿔 주시지 않을래요? o. 바꿔 줘요. p. 바꿔 주실래요?
- q. 바꿔 주세요. r. 바꿔 주시겠어요? s. 바꿔 주십시오. t. 바꿔 주실 수 있을까요?
- u. 바꿔 주실 수 없을까요? v. 바꿔 주시겠습니까?
- w.기타()

(4)처음 만난 윗 사람에게 ‘일정을 ~’

- a. 바꿔 줘 b. 바꿔 봐. c. 바꿔 주겠어? d. 바꿔 줄래? e. 바꿔 주지 않을래?
- f. 바꿔 줄 수 있겠어? g. 바꿔 줄 수 없겠어? h. 바꾸세요. i. 바꿔 주지 않을래요?
- j. 바꿔 줄래요? k. 바꿔 주겠어요? l. 바꿔 줄 수 있을까요? m. 바꿔 줄 수 없을까요?
- n. 바꿔 주시지 않을래요? o. 바꿔 줘요. p. 바꿔 주실래요?
- q. 바꿔 주세요. r. 바꿔 주시겠어요? s. 바꿔 주십시오. t. 바꿔 주실 수 있을까요?
- u. 바꿔 주실 수 없을까요? v. 바꿔 주시겠습니까?
- w.기타()

1-4 다음 사람에 만나기로 했지만 시간에 늦기 때문에 먼저 목적지에 가달라고 말할 때

(1)친한 동년배의 친구에게 ‘먼저 목적지에 ~’

- a. 가 줘 b. 가 봐. c. 가 주겠어? d. 가 줄래? e. 가 주지 않을래?
- f. 가 줄 수 있겠어? g. 가 줄 수 없겠어? h. 가 주지 않을래요? i. 가세요.
- j. 가 줄래요? k. 가 주겠어요? l. 가 줄 수 있을까요? m. 가 줄 수 없을까요?
- n. 가 주시지 않을래요? o. 가 줘요. p. 가 주실래요? q. 가 주세요. r. 가 주시겠어요?
- s. 가 주십시오. t. 가 주실 수 있을까요? u. 가 주실 수 없을까요?
- v. 가 주시겠습니까?
- w.기타()

(2)친한 윗 사람에게 ‘먼저 목적지에 ~’

- a. 가 줘 b. 가 봐. c. 가 주겠어? d. 가 줄래? e. 가 주지 않을래?
- f. 가 줄 수 있겠어? g. 가 줄 수 없겠어? h. 가 주지 않을래요? i. 가세요.
- j. 가 줄래요? k. 가 주겠어요? l. 가 줄 수 있을까요? m. 가 줄 수 없을까요?
- n. 가 주시지 않을래요? o. 가 줘요. p. 가 주실래요? q. 가 주세요. r. 가 주시겠어요?
- s. 가 주십시오. t. 가 주실 수 있을까요? u. 가 주실 수 없을까요?
- v. 가 주시겠습니까?
- w.기타()

(3)처음 만난 동년배의 사람에게 ‘먼저 목적지에 ~’

- a. 가 줘 b. 가 봐. c. 가 주겠어? d. 가 줄래? e. 가 주지 않을래?
- f. 가 줄 수 있겠어? g. 가 줄 수 없겠어? h. 가 주지 않을래요? i. 가세요.
- j. 가 줄래요? k. 가 주겠어요? l. 가 줄 수 있을까요? m. 가 줄 수 없을까요?
- n. 가 주시지 않을래요? o. 가 줘요. p. 가 주실래요? q. 가 주세요. r. 가 주시겠어요?
- s. 가 주십시오. t. 가 주실 수 있을까요? u. 가 주실 수 없을까요?
- v. 가 주시겠습니까?
- w.기타()

(4)처음 만난 윗 사람에게 ‘먼저 목적지에 ~’

- a. 가 줘 b. 가 봐. c. 가 주겠어? d. 가 줄래? e. 가 주지 않을래?
- f. 가 줄 수 있겠어? g. 가 줄 수 없겠어? h. 가 주지 않을래요? i. 가세요.
- j. 가 줄래요? k. 가 주겠어요? l. 가 줄 수 있을까요? m. 가 줄 수 없을까요?
- n. 가 주시지 않을래요? o. 가 줘요. p. 가 주실래요? q. 가 주세요. r. 가 주시겠어요?
- s. 가 주십시오. t. 가 주실 수 있을까요? u. 가 주실 수 없을까요?
- v. 가 주시겠습니까?
- w.기타()

이상

◆次の(1)から(10)の場面において、もっとも適切だと思う表現を1つ書いてください。

- (1) ゼミの先生に対して論文の添削を頼む時
- (2) 荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押し
てもらおうよう頼む時
- (3) ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼む時
- (4) 電車の中で初対面の目上の人に対して席をつめて座るよう頼む時
- (5) 飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため、持ってくるよう頼む時
- (6) インターネットで購入した DVD が破損していたため、電話で商品の交換を頼む時
- ①出身地(1~12 歳の間にもっとも長く居住した地域を市区町村単位で記入してください。)
() 都・道・府・県 () 市・区・町・村
- ②生年(西暦) 年生まれ ③性別(男 ・ 女)

ご協力ありがとうございました。

◆次の(1)から(6)の場面において、選択肢 a ~ i の中から使うもの全てに○をつけてください。

(1) ゼミの先生に対して論文の添削を頼む時「すみません、論文の添削を。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

(2) 荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらおうよう頼む時「すみません、1階を押して。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

(3) ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼む時「すみません、スーツケースを預かって。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

(4) 電車の中で初対面の目上の人に対して席をつめて座るよう頼む時「すみません、少しつめて。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

(5) 飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため、持ってくるよう頼む時「すみません、注文したデザートを持ってきて。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

(6) インターネットで購入した DVD が破損していたため、電話で商品の交換を頼む時「すみませんが、購入した DVD が破損していたため、商品の交換を。」

- a. してもらえますか b. してもらえませんか c. していただけますか
- d. していただけませんか e. してもらって(も)いいですか
- f. してもらって(も)よろしいですか g. していただいて (も) いいですか
- h. していただいて (も) よろしいですか i. いずれも使用しない

①出身地(1～12 歳の間にもっとも長く居住した地域を市区町村単位で記入してください。)

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村

②生年(西暦) 年生まれ ③性別 (男 ・ 女)

ご協力ありがとうございました。